

文、同退左廻、如始著座、居定後、解結緒、ウルハシクヒキノフ、其上、表卷ノ紙をヒロケテ、フア、フアをヒキノヘテ、フアを右ノ方ニカキヤリテ、又カアヲヒキノヘテ文を取テ、ヒタリノカタニテヒライテ、オシアハセテ、ウルハシク、御前ニムカヒテ、ヒキヒロケテ、讀テオシアハセテ、候氣色、主上揖給、余稱唯、微音、卷文置左方、次々文如同動、結申詞、其國司申セルカキ結テ、不動クラヒラカムカゑムト、申セルコト、卷文同結中、取書杖深揖、左手取文、以右手取杖、ツズ文ノ上ヘア、如始小退立座、經本路、至弓場殿、本所ニ立テ、文杖等ヲ給史、同經本路直著外座、上達部等著了後、史直進膝突進文、余置笏、奥方取文置前、史座定後開文、先給表紙を置前、余取文、見テ給史、々沙法如常、一々ニ文給了、余取笏、史退出了余起座、

〔中右記〕八月十三日、乙丑、不出仕、爲休息也、

今日右大臣殿初令候、忠實奏給先早旦參御直廬給、藏人頭左中辨重資朝臣内覽、吉書三通、相模、能登、伊豫、等鈎匙未申剋許著仗座給、權大納言、家忠、治部卿、俊實、宰相中將二人、忠教、家政扈從、左大辨、基綱、頭辨、重資、史、盛言候之云々、是御堂令候奏給例也、

吉書三通
道長ノ例
ニ據ル

〔玉葉〕安元二年三月廿五日、庚午、終日天陰、午後小雨、此月始候官奏、忠實略中

代々初候奏年月日、忠實略中
知足院殿

康和四年八月十三日、乙丑、無申文、相模、能登、伊豫、

○局中寶、異事ナキヲ以テ略ス、忠實ヲ右大臣ニ任ズルコト、二年七月十七日ノ條ニ見ユ、

十四日、丙寅延曆寺衆徒ノ蜂起セントスルニ依リ、法橋永範ノ東北院上座職ヲ罷ム、

〔中右記〕八月十四日、忠實略中

今日法橋永範解却東北院上座職、是山大衆張發之由、風力依有風聞也、忠實依殿下仰所承也、

〔殿曆〕九月廿三日、乙巳、天晴、忠實略中、候内間、山大衆使之諸司持來申文云々、可

付家司之由示了、
十月廿九日、庚辰、天晴、不出行、忠實略中、爲山大衆使祇園諸司來、則還了、
○隆尊ヲシテ、東北院ヲ執行セシムルコト、本月三十日ノ條ニ見ユ、

申文ナシ

衆徒申文ヲ進ム

祇園諸司忠實ヲ訪フ

十五日、卯、月食、

〔殿曆〕八月十五日、丁卯、天晴、○中今日月蝕也、姬君年當、仍藥師經讀經於京

極御堂行之、須於此亭行也、雖然、依神事、於他所々行也、威德新仁王講、

〔中右記〕八月十五日、早旦雨下、辰剋以後天晴、○中今夕月蝕、但申剋云々、頗

帶蝕出東山、頃而復末、

石清水放生會、

〔殿曆〕八月一日、癸丑、天晴、○中自八幡宮別當成圓申云、放生會御輿馬一疋

可進之由所示送也、仍其沙汰、

六日、戊午、天晴、○中明日放生會御輿馬三疋可進也、其御使沙汰（後明）民部卿

許ニ示送了、

忠實御輿馬ヲ獻幣ス

神馬ノ齋依リ孔齋子賦ヲ取進ム

七日、己未、天晴、辰剋進八幡放生會祈之御輿馬、其次奉幣、（使家職事源盛家、其儀如神馬於南西庭拜、馬三疋列立、陰陽師成平、亥剋許盛家還來云、御馬已被納了、其間事可不思議也、委趣見裏、亥剋許盛家還來云、參社頭獻御馬間、別當成圓申云、此御馬欲進間、從去朔日、本御馬齋也、而此御馬を進、難神呂量、仍くしくひりをかきて、於御前申其由、取彼文、余ノ進る馬ヲ可立トイ文ヲトリタラハ、余進馬ヲ可

忠實神馬十列ヲ獻ズ

甚雨ニテ次第違亂ス、講師遲參

立也、其由件クシクハリヲ取、余進馬可立文ヲ取了、衆感悅、則立了、余聞之、悅

感心甚、依水ヲア□テ著束帶、下庭拜即了、

十五日、丁卯、天晴、巳剋神馬十列立、依放生會也、使伊勢守平朝臣基綱於東三

條立之、

〔中右記〕八月七日、○中右大臣殿御馬令奉八幡給者、使盛家云々、

十四日、○中兵衛佐宗能依本府催、令參八幡放生會、

十五日、早旦雨下、辰剋以後天晴、○中夜半許兵衛佐宗能從八幡歸來語云、放

生會間、神輿下給裡、（程カ）兩脚殊甚、次第違亂、但辰剋後天晴、講師遲參、於事懈怠、上

卿左衛門督能實卿、右宰相中將忠教、左少將顯國、（藏人）右中將顯實、頭、左兵衛

佐宗能、右兵衛佐仲章、左衛門佐不參、尉代官、右衛門權佐俊信、（兼右少辨、兩方勤仕）左馬

助業實、右馬助不參、

十六日、（辰）三萬六千神祭ヲ大極殿ニ修ス、

〔長秋記〕（目錄）康和四年曆記 八月十六日、大極殿三万六千神祭、

駒牽、

〔中右記〕八月十六日、○中入夜有駒牽、藤中納言、（仲實）新中納言、（國）右兵衛督、（師）

康和四年八月十七日

五三四

牽分使

小野皇太后
薨奏

源宰相(能)兩宰相中將家顯次第如常取手將左少將顯國右少將家定左馬助業實右馬助不參牽分使院政右少將將師重朝臣

〔長秋記〕

康和四年曆記 八月十六日略中駒引略

十七日巳皇太后藤原歡子小野山莊二崩御アラセラル

〔殿曆〕

八月廿五日丁丑天晴略中 小野皇太后宮去十八日崩仍今日薨奏云々於内覽免了

〔中右記〕

八月十七日略中 皇太后歡子崩

十九日朝間召使來催云俄可有陣定略中

陣定之間或人云皇太后去十七日夜半許崩給由有其告者皇太后諱歡子前二條關白教中女母四條大納言公任卿女也後冷泉院御宇時納宮庭爲女御去治曆四年四月臨天皇晏駕之剋忽冊爲皇后其後爲屋於小野堂舍年來修佛法而此五六月依病痾偏修念佛去十七日夜正念安住向西方崩給生年八十二云々可謂賢女歟

廿五日帥中納言季參仗座前皇太后宮進親信參陣外以外記奏聞遺令上卿奏聞固關警固廢朝五ヶ日者下御簾止音奏去寬治七年皇后宮例云々略中

小野御堂
修佛事ヲ
修メ給フ
御病ニ依
リ念佛ヲ
修シ給フ
御年八十
二
遺令奏
固關警固
廢朝五日
鳥部野ニ

火葬シ奉ル

開關解陣

固關開關ノ口傳

崩奏延引

御世系

小野皇后
ヲト號シ給

御傳

入内

女御

巳日火葬ノ條皇太后一日

卅日壬午○今夜有開關解陣傳事了頭中將顯實奏吉書昨日雖可被行依爲重日今日被行也今夜參内宿侍殿下同有御宿侍被談仰云固關行時者先行諸事了後行固關行開關之時者先行開關其後行諸事是口傳云々上卿帥中納言季

〔長秋記〕

康和四年曆記 八月廿六日皇太后宮崩奏而依院御衰日延引

廿八日解陣

〔百練抄〕

堀河天皇 八月十八日皇太后歡子崩小野山莊八十二二條關白女後冷泉院后

〔尊卑分脈〕

藤原氏 關白太政大臣左大臣從一位

教通關白從一位倫子承保二九廿五薨
靜圓權僧正牛車號木幡僧正
女子歌子後冷泉院后准三后號小野皇后皇太后常壽院本願

〔扶桑略記〕

後冷泉天皇 永承二年十月十四日乙卯右大臣藤原朝臣教通

三女歡子始參大内

四年三月十四日女御歡子誕生皇子即剋皇子天也

康和四年八月十七日

五三五

康和四年八月十七日

五三六

准三宮
皇后

比叡山麓
給ニ幽栖シ

白河上皇
美濃ノ御
莊券ヲ
上リ給フ

小野御堂
アニ三昧僧
アリ

落雷ノ奇
蹟

六年六月廿四日、右大臣藤原朝臣教通三女女御歡子准三宮、
治曆四年四月十六日、丁巳、立女御藤原朝臣歡子爲皇后宮、

〔今鏡〕

四のふちなみの上

三君

給て、皇后宮と申き、後に皇太后宮にあかりて、承保元年の秋、みくしおろし

給てき、猶後の位にて、ひえの山のふもとをのといふさとにこもりゐさせ

給て、都のほかにおこなひすまし給へりき、○中略、白河上皇、小野山、さて院

より御つかひありて、いと心くるしくおもひやり奉るに、うちいてなとこ

そよういして、ありかたくもたせ給へりけれとて、みのゝ國とかや、御庄の

券たてまつらせ給へりければ、まいりつかうまつるおとこ女これかれの

そみけれと、みゆきつけきこえける隨身にあつけ給けるとそきゝ侍し、其

とねりの名は、のふさたとかや、殿上人はなにかしの辨とかや、たしかにも

きゝ侍さりき、其をのゝかみ（る腕カ）なとは、猶のこりて、三昧おこなふ僧もまたか

すかにはへ（る腕カ）なり、后またおはしましけるおり、夕立の空ものおそろしく、な

るかみおとろゝしかりけるに、御經よみてゐさせ給へりけるを、かみお

ちて、御經などもかみの所はかりはやけて、もしはのこり、御身には、つゆの

こともおはしまさゝりける、いとたうとくあさましきことゝそきゝ侍し、
うせ給けるときも、いとたうとくて、淨土にまいり給とそ申侍し、

〔拾遺往生傳〕

下

皇太后宮歡子 皇太后宮歡子者故太政大臣藤原教通

之三女、後冷泉院之后宮也、生年十四、隨舍兄靜圓僧正、竊受習諸經、其後諳誦

法花經一部、人以無知、春秋十六、見擇入内、永承七年七月十九日、准后、治曆四

十七日戊午立后見日記

年四月十九日立后、此夕帝崩矣、自爾以降、偏發道心、如舊日々諳誦法花經一

部、并轉讀諸大乘經數十卷、逐日不懈、終身爲期、於二條東洞院亭、手自書寫最

勝王經、雲雨俄降、霹靂入殿、其時奉經奉筆、如存如亡、雷騰天晴、開眼見經、空紙

燒而字殘、御衣燃而身全、歸法之心、自此彌深、承曆元年、落飭出家、座主良眞爲

其戒師、一從入小野之寒雲、再不見長秋之曉月、遂改小野亭、號常壽院、迎請慶

曜大法師、受習眞言止觀、每日自修彌陀法花之法、逐年專展五時八講之筵、拋

眼前玢（寶）營身後善、○中賣二條亭施千僧供、又手自寫五部大乘經、於日別必書

法花經五紙、而聞夢中、禪僧持香爐來云、往生之業因、不如造大佛云々、忽感此

夢、造顯供養丈六彌陀像、其滅期先三日、嘔諸僧曰、最後之時、可唱虛空藏寶號、

又令修大威德法、爲攘臨終之邪障也、于時康和四年八月十八日、以五色幡繫

康和四年八月十七日

五三七

靜圓ニ諸
經ヲ受ケ
給フ

後冷泉天
皇崩後佛
道ニ專念

御經ヲ
寫セ給ハ

ズラセ給

御落飾
良眞御戒

師トナル

小野亭ヲ

常壽院ト

ナシ慶曜

ニ眞言止
觀ヲ受ケ

給フ千僧
供ヲ施シ

供佛ニ施

御寫經

阿彌陀佛

養立供佛

御終焉
慶曜夢想
スノ瑞ヲ啓

御容姿美
ハシ

大嘗會
女御代ニ
立タセ給
フ琵琶
男繪ニ長
シ給フ
御容姿

康和四年八月十七日

五三八

本尊手、右手捉幡流、左手持香爐、西向觀念、寅剋終焉、御年八十二、此時、慶曜大
法師參而啓白、今曉夢、無數聖衆、自一山頂、乘雲鳩集、作樂鴈列、夢中間之、傍人
謂曰、此是小野皇太后宮御往、生之儀、夢想揭焉、故急參也者、釋書異事、元亨

〔榮華物語〕

とみ

（寛仁三年）

（教通）

（生子）

（教通）

（教通）

三つにあらせ給ひければ、御袴著せてまつらせ給ふ、略中、小姫君は御髪
ふりわけにて、御顔つきらうたけにうつくし、さまざま美しく見奉らせ給
ふ、大姫君は、てゝもはゝも、誰もゝ我をのみこそ思ひ給へ、小姫君をは
思ひ給はぬそかしと聞え給へは、なとさはあるにか、さはかりうつくしき
人をとそ、おほしのたまはせける、

〔榮華物語〕

根合

御禊大嘗會など例のことなり、略中、右の大殿の姫君女

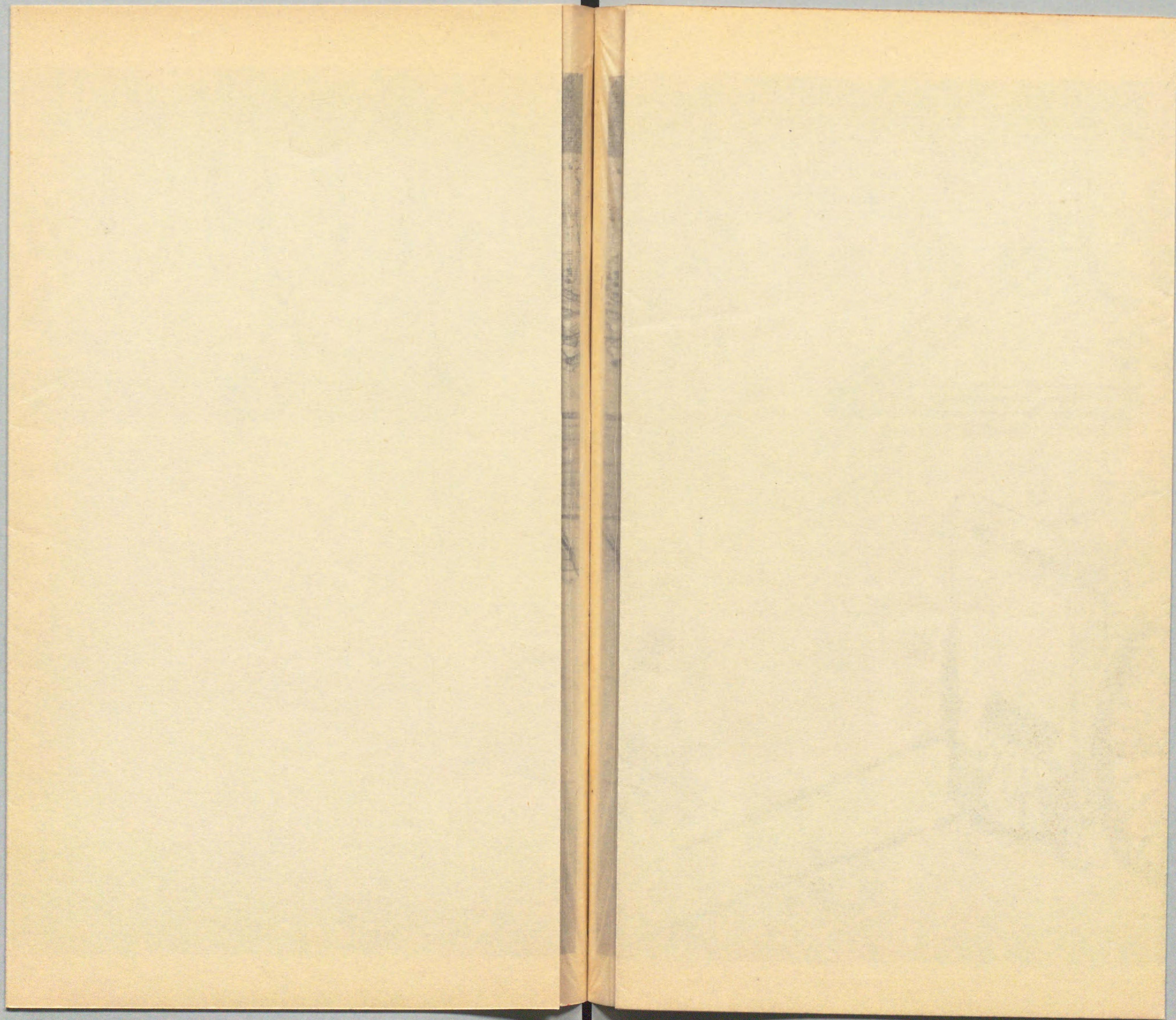
（教通）

（生子）

（教通）

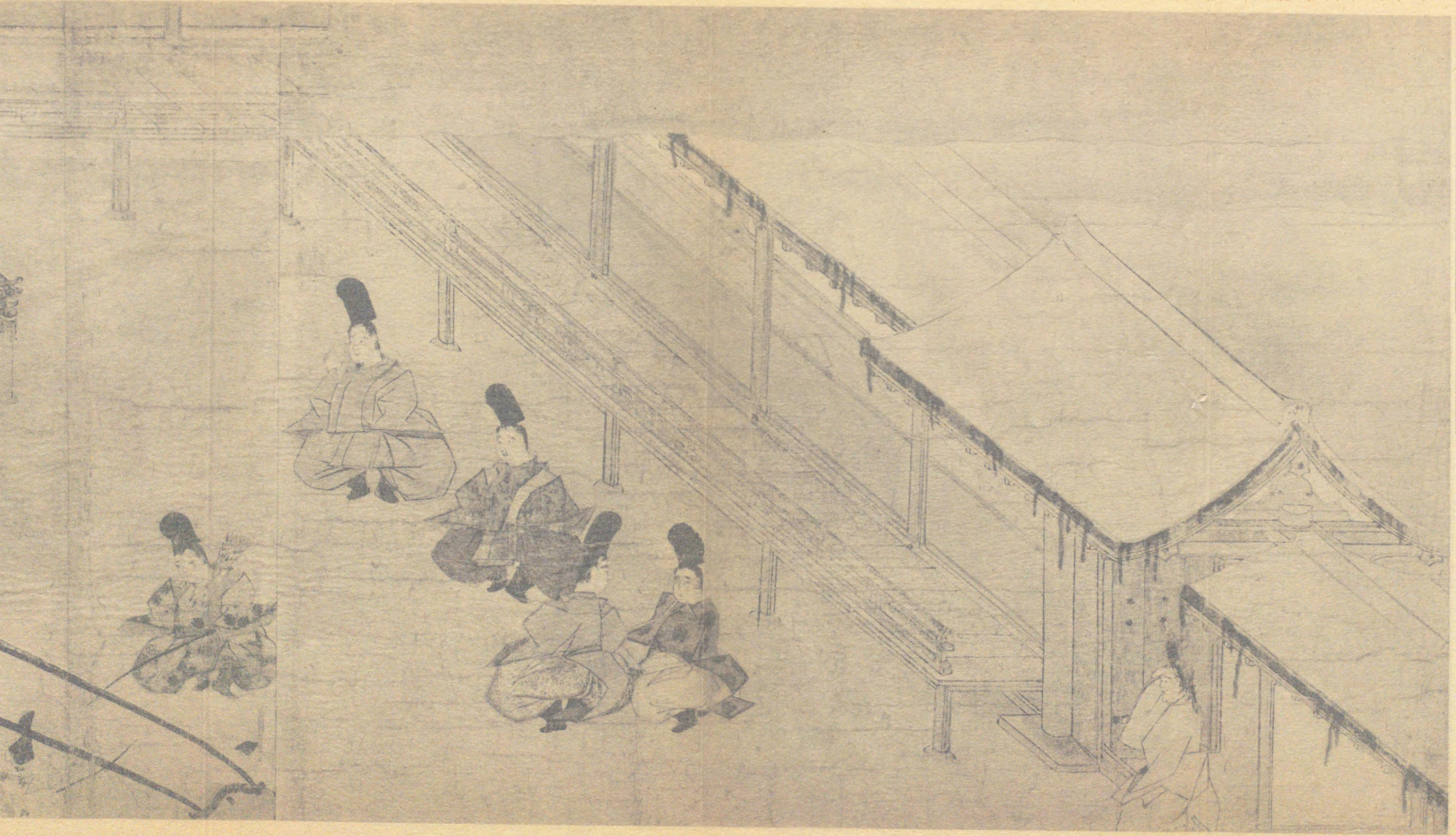
（教通）

御代にたゝせ給ふ、さほうありさまさきさきにかはることなし、いとめて
たし、略中、かくて右の大殿の姫君内に參らせ給ひぬ、京極殿なれば、いとせ
はし、琵琶ひかせたまひ、繪なとめてたく書かせ給ふ、をとこゑなど、繪
師はつかしうかゝせ給ふ、ゆるゝしうをかしようおはします、御かたちも
いとおかしけなり、あいさうつき、ふくらかに、さゝやかにそおはしましけ

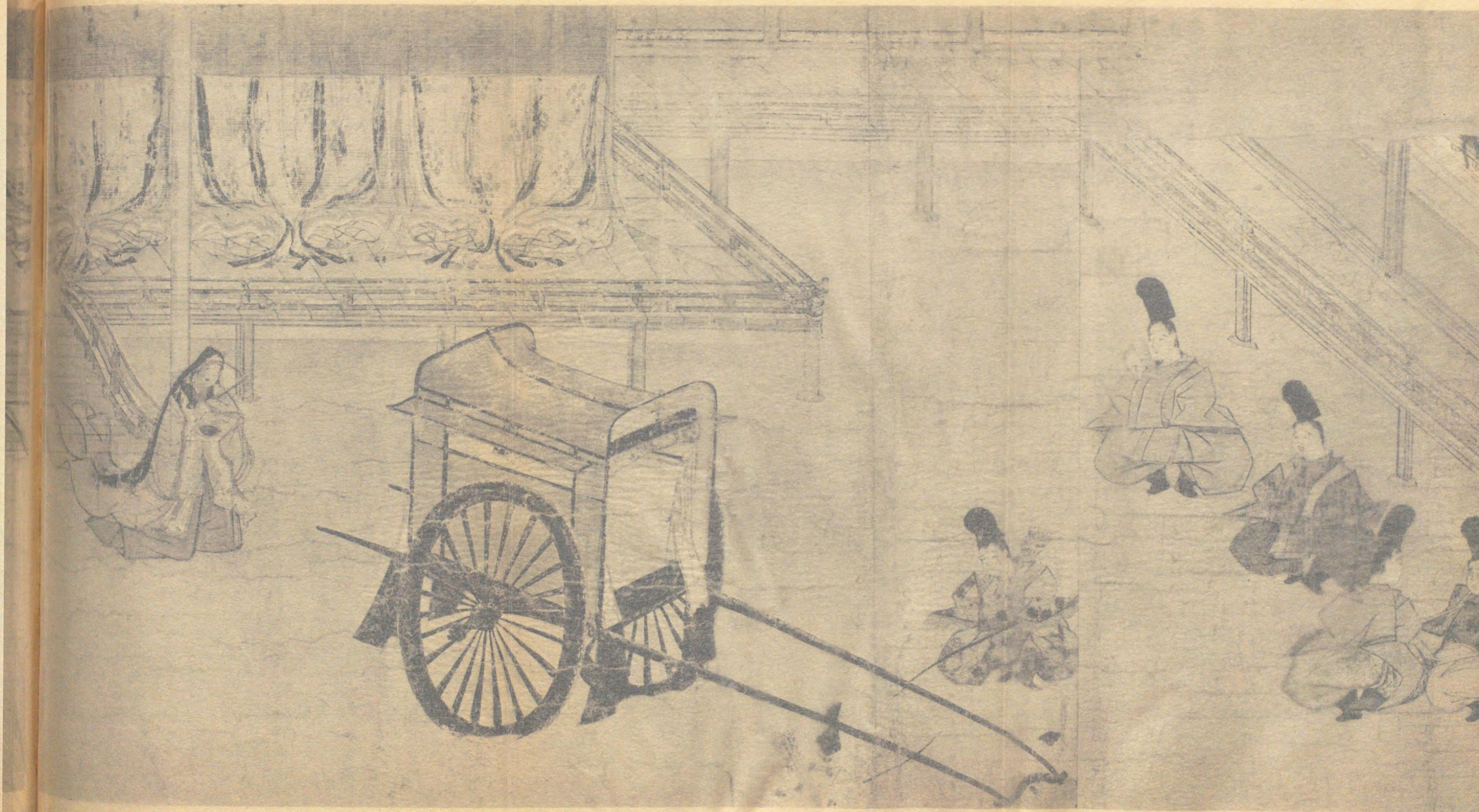


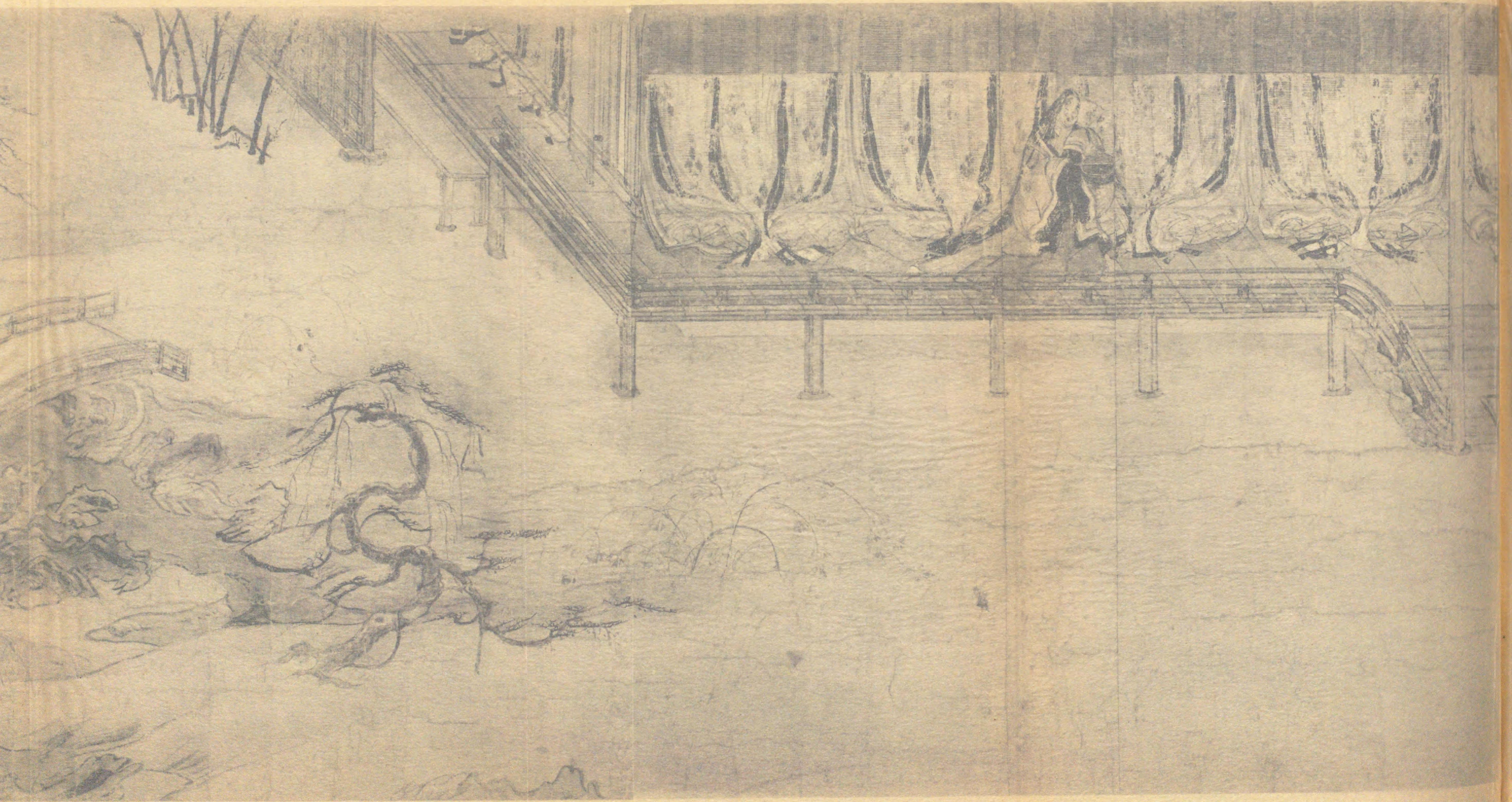
小野雪見御幸繪詞

皇太后、柑子ヲ白河上皇ニ上リ給フ圖
東京美術學校所藏

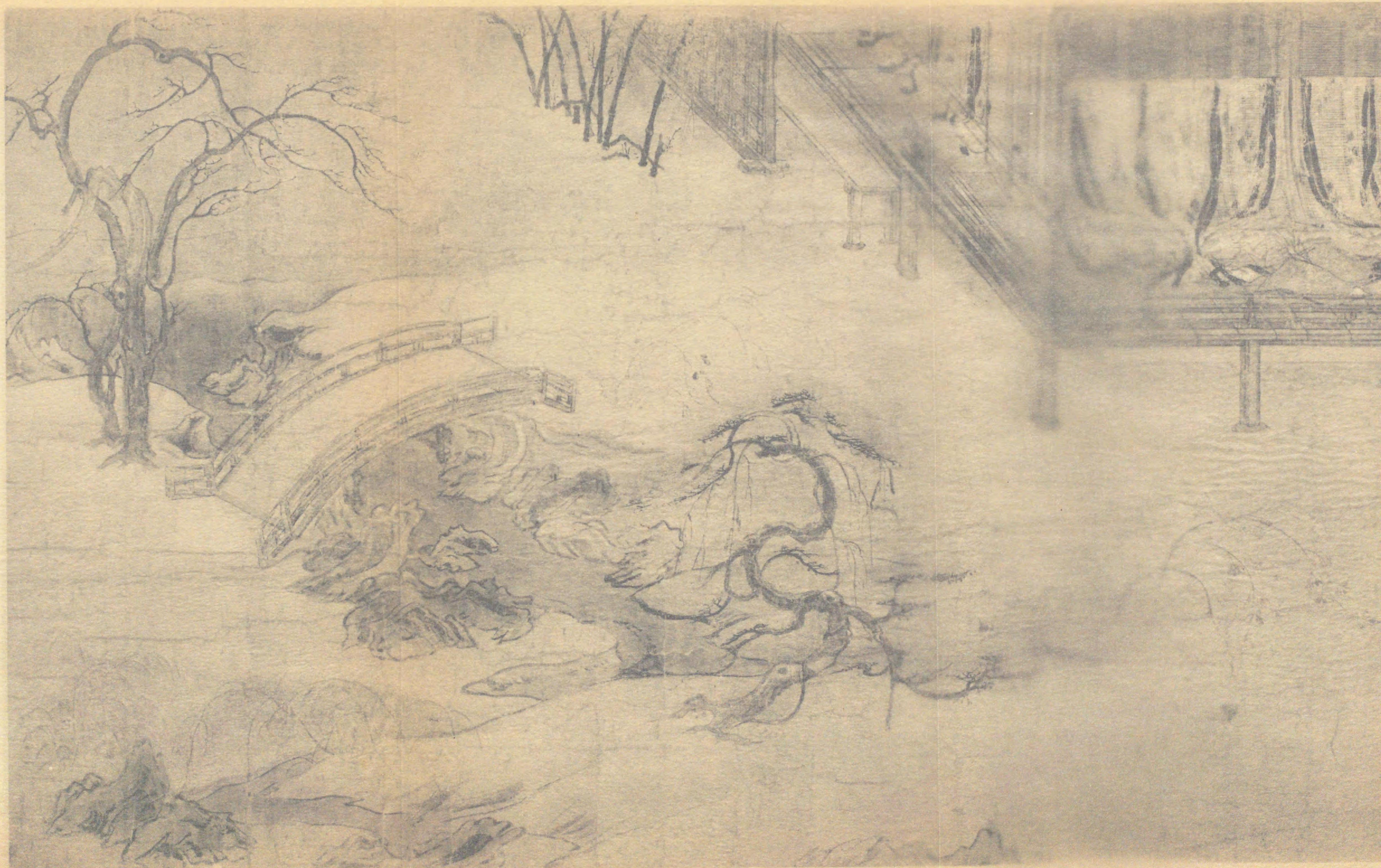


原寸 縦〇二九二





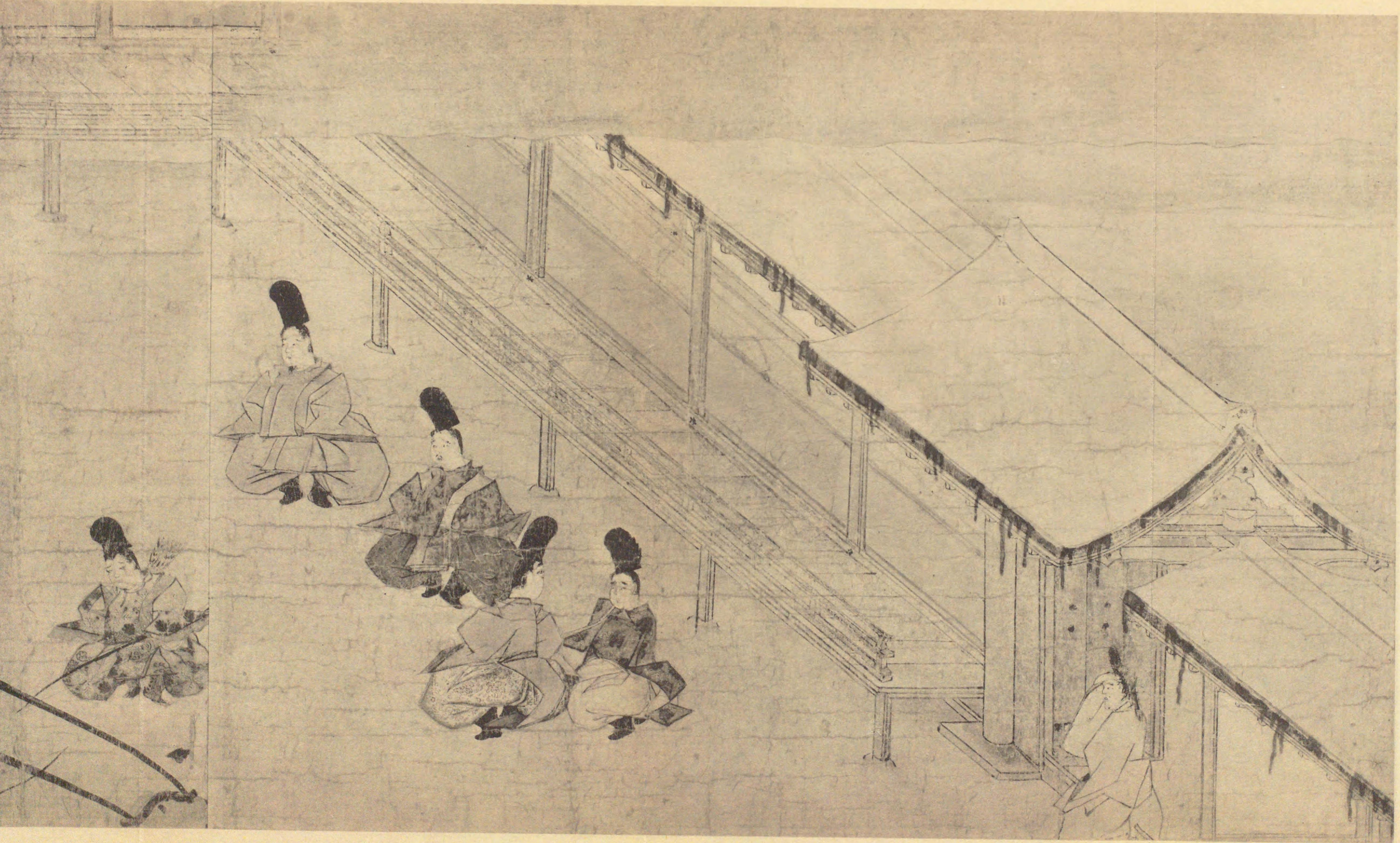
○詞書ハ寛治五年十月二十七日ノ條(第三編之六附載ノ補遺)ニ收ム

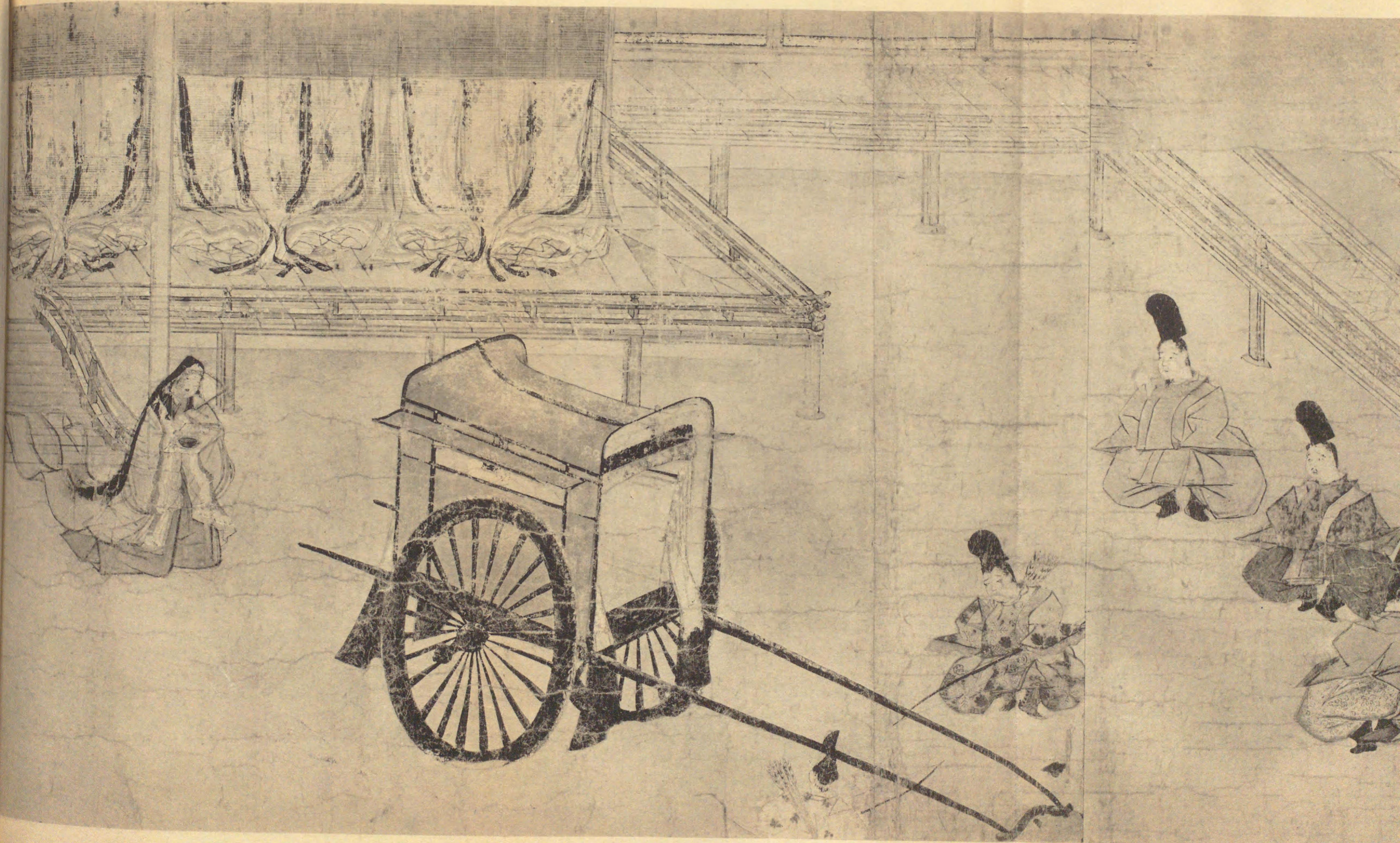


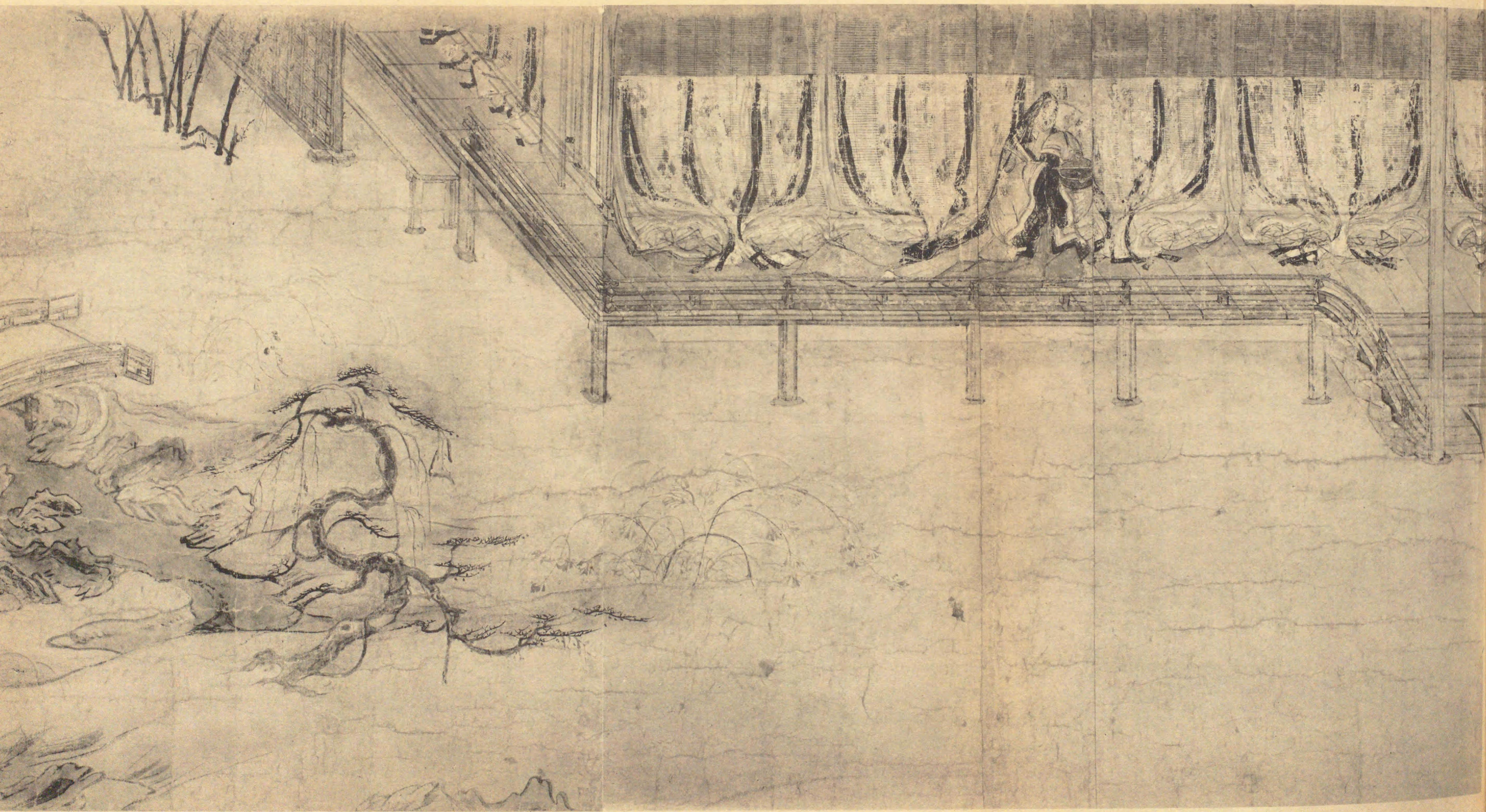
小野雪見御幸繪詞

皇太后、柑子ヲ白河上皇ニ上リ給フ圖
東京美術學校所藏

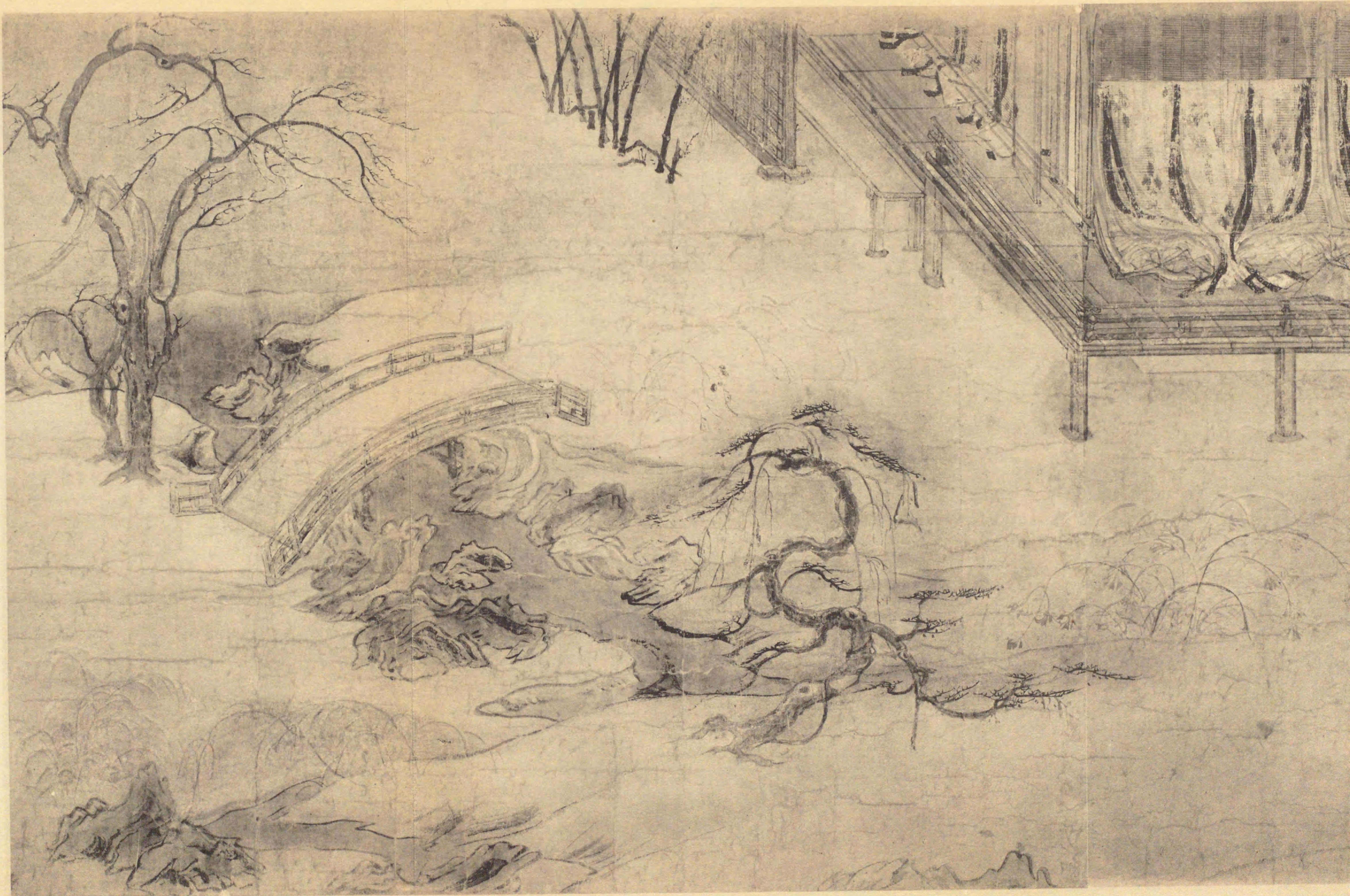
原寸
縦〇三九二







○詞書ハ寛治五年十月二十七日ノ條(第三編之六附載ノ補遺)ニ收ム



公任ノ名
殘

小野山里
ヲ遊覽シ
給フ

る、○中女御殿(御宇)いとおもりに、ゆゑしくておはします、五節に、女房梅
ともに、濃きうちたる、青摺の裳唐衣なときさせ給へり、はしたもの、女房の
局の人など、をかしくしたてつゝ、沓(公世)すりありく、四條大納言の名殘をか
く、ゆゑある御かたと人思へり、

〔榮華物語〕

後(御宇)

女御殿、里に久しくおはしますを、參らせ給へと常にあ

れと、とみにも入らせ給はて、ほういんのものし給ふ、小野のいとをかしか
なるも、御覽せまほしく思し召して、わたらせたまひて、心のとかに御行な
とせさせ給ひておはします、山里の秋の氣色、鹿の鳴く音などもあはれに、
秋こそことになとや思し召し知らせ給ひけん、内より御使の、霧をわけて
參るも、物語の心地してをか、殿上人など數多參りて、琴ひき遊ひなとし
つゝかへりぬるなこりも、若き人々はをかしく思ふ、内より侍従の内侍と
て、やかてかけて候ふ人を奉らせ給へり、所のさま御しつらひもいとをか
しく見ゆ、薄物の御几帳の裏うちかけて、わさと見えさせ給はねと、透きて
おはします程など、繪に書きたらんこゝちにてをか、女房なども、忍ひや
かに心にくきほとなり、やかて二三日はかり侍ひてそまかつる、

康和四年八月十七日

康和四年八月十七日

五四〇

〔續千載和歌集〕二春歌下 小野皇太后宮にまうてけるに、道なりける花は
散りて、かしこには盛なりければ、よみ侍りける、

辨乳母

都には散りにしものを山櫻われを待とや風もよきけむ

〔攝津國古文書〕〇内閣文庫所藏

左辨官下 東大寺

應如本領掌攝津國長渚御厨地事

右得左衛門權少尉兼明法博士中原範政去康和四年十二月十五日勤狀併、

略 〇中 皇太后宮職所進今年三月二日解狀云、略 〇中 右謹檢案内、件御厨爲職領

經數十年之間、鴨御社司惟季依申請至要之由、去應德元年八月十日、被相博

彼御社領栗野郷田漆町捌段貳佰玖拾步既畢、略 〇中 又職放券云、件長渚元

者、小一條院傳領、次式部卿宮、次二條關白家、次皇太后宮職傳領之後、寄進常

壽院、隨則恆例雜事每色無其懈怠、至于敷地者、東大寺所領也者、略 〇中

嘉承元年五月廿九日 〇署名

〔拾芥抄〕

下本 諸寺部九 常壽院 金岡立石云々、小野皇太后御願、奉寄

常壽院

攝津長渚
御厨ヲ鴨
社領山郷
栗野郷
ト相博シ
給フ
關白御傳
領ヨリ御
常壽院ニ
寄ス

御領

御舊跡ヲ
後白河法
皇觀覽ア
ラセラル
御陵

御陵地ヲ
定ム

宇治陵ト
稱ス

白河院

〔平家物語〕

卷灌頂 小原御幸

懸リシ程ニ法皇ハ、文治二年ノ春ノ比、建禮門院ノ小原ノ閑居ノ御栖居、御

覽セマホシウ被思召ケレ共、二月彌生程ハ、嵐烈ウ餘寒モ未盡、峯ノ白雪消

ヤラテ、谷ノツラ、モ打解ス、角テ春過夏來テ、北祭モ過シカハ、法皇夜ヲコ

メテ、小原ノ奥ヘ御幸ナル、〇中 鞍馬通りノ御幸也ケレハ、彼清原深養父カ

補陀樂寺、小野皇太后宮ノ舊跡觀覽有テ、其ヨリ御輿ニソ被召ケル、

〔陵墓一覽〕

後冷泉院皇后 藤原歡子陵 京都府山城國宇治郡木幡村

〔諸陵寮誌〕

〇上 宮内省諸陵寮所藏

明治十年十一月六日、〇中

後冷泉院天皇皇后 藤原歡子 陵

ヲ山城國宇治郡木幡村ニ定ム、

〔諸陵寮誌〕

〇下 宮内省諸陵寮所藏

明治廿七年六月廿二日、皇后陵以下ノ稱號ヲ定メ、〇中

後冷泉院天皇皇后 同中宮 藤原寛子ノ陵ヲ宇治陵

康和四年八月十七日

五四一

康和四年八月十七日

五四二

ト稱シ、○下

〔勘註後冷泉院天皇皇后歡子火葬塚〕

○宮内省諸寮所藏

後冷泉院天皇皇后歡子火葬塚決定ノ件、○大正十五年十一月九日ニ決定ヲ經タリ、後冷泉院天皇皇后歡子火葬塚

御火葬塚

謹テ按スルニ、後冷泉院天皇皇后歡子ハ、○中之ニ依テ、之ヲ考フレハ、歡子皇后ノ火葬塚ハ、宜シク此ノ内ニ在ルベシ、因テ前掲中右記康和四年八月廿五日ノ皇太后一日已火葬鳥部野云々ノ文ニアリ、鳥野野陵兆域内ニ在ル古墳ノ一ヲ以テ、歡子皇后ノ火葬塚ト認メマツル、因テ宇治陵内ニ、歡子皇后ノ陵ヲ決定セルハ、一ノ想定ニテ、記録ノ徵證アリシモノニアラズ、

大正十三年六月廿日

宮内省御用掛増田于信

○崩御ノ日姑ク中右記ニ從フ、十三代要略、一代要記、古事談、十訓抄、異事ナキヲ以テ略ス、歡子ヲ女御トナスコト、永承三年七月十日ノ條ニ、皇后トナスコト、治曆四年四月十七日ノ條ニ、皇太后トナスコト、承保元年六月二十日ノ條ニ、皇太后、北野御堂ヲ供養シ給フコト、延久五年

常壽院趾

御塔

八月十九日ノ條ニ、常壽院御建立ノコト、承保元年十二月是月ノ條ニ、小野山莊ニ白河上皇ノ御幸ヲ迎ヘ給フコト、寛治五年十月二十七日ノ條ニ、小野堂ヲ供養シ給フコト、嘉保二年三月十四日ノ條ニ見ユ、

〔參考〕

〔山城名勝志〕

十一 愛宕郡

常壽院

今市原村有小堂、世謂常壽院舊跡、有二基石塔、土人曰、小野小町四位少將墓、誤傳歟、疑後冷泉院小野皇太后御塔歟、又此小堂稱補陀洛寺、是又可虛說、

十八日、庚午右大臣忠實、興福寺僧綱ヲ奈良ニ遣シ、同寺衆徒ヲ慰諭セシム、尋テ、法皇、宇治橋ヲ復舊セシメ給フ、

〔殿曆〕

八月十八日、庚午、天晴、依奈良大衆事、召僧綱、下遣奈良、定眞、實覺、永緣等也

廿日、壬申、天陰、不出行、戌時許永緣、定深等來、大衆申事等取申了、頃之法眼實覺來、有各申旨、

廿一日、癸酉、天陰、○中午剋頭來、頃之退出、辰剋許奈良僧綱來、大衆返事申、右大辨宗忠參鳥羽了、

廿二日、甲戌、天晴、○中酉剋許法眼實覺來、戌剋退出、

康和四年八月十八日

五四三

僧綱衆徒ノ申狀ヲ忠實ニ傳フ
僧綱忠實ヲ訪フ

定深衆徒
ノ静マラ
ザルヲ告

僧綱已講
等ヲシテ
共ニ沙汰
セシム

忠實興福
寺衆徒ノ
申文ヲ院
ニ奏セシ

上座定深
復命ノ衆
徒ノ申狀
觀音像作
事停止ノ
不平ノ追
却範靜ノ

院御所一
切經御讀
無停止說
衆徒上洛
ノ根

定深南都
へ歸參ス

定深衆徒
ノ静謐ヲ
報ズ

廿三日、乙亥、天晴、略、中、奈良法印覺信亥剋許來、頃之退出、

廿四日、丙子、天晴、巳、剋許右大辨來、南京得業緣覺來、

廿六日、戊寅、天晴、略、中、法眼實覺來、

廿九日、辛巳、天陰雨降、午、剋許雨止、略、中、戊剋許右大辨宗忠來、奈良法印來、數

剋後皆退出、今日從興福寺上座定深許有書狀、大衆猶發由申上也、件書從右

大辨許所送也、如此不靜條、極不便歟、

〔中右記〕

八月十八日、早旦從內退出之次、參右大臣殿、東三、而興福寺僧綱三

人、定眞、實緣、爲平大衆亂發、所差遣御寺也、與御寺僧綱已講、相共可沙汰由、所被

仰下也、

十九日、朝間召使來催云、俄可有陣定、略、中、此間從興福寺大衆申文進上之、未

時許參內之次、參右大臣殿、進覽御寺申文、早可申院者、以消息進鳥羽殿了、

廿一日、早旦參右大臣殿、十九日、從東三條、暫渡相模前、所下遣興福寺之僧綱

三人、少僧都定眞、法眼、實緣、律師永緣、相具上座定深歸參、殿下令相逢給、天、大衆申旨一々聞

食之、先不空羅索觀音像奉作事、是爲寺家太平也、但依有無便聞、停止了、大衆

亂發條、依範靜猛惡也、只被追却範靜、大法師自寺中、平安歟、又院御所一切經

御讀經可斷之由有風聞、全無實也、又大衆參上京都條、是大無實也、如此條々
無實、風聞京都之事、偏天魔之所爲歟、將又爲御寺思、常之輩猥執奏歟、殿下聞
食此旨、早參上院可奏此旨者、午時許參鳥羽殿、近召御前、奏聞上件事、仰云、然
者、宇治橋如本可渡之由、可傳右大臣、且又參內可奏如此旨、酉剋許歸洛、入夜
參內、右大臣殿又參內給、此旨同申了、

廿三日、御寺上座定深下向御寺之次、早旦來、略、中

今日在蓬門之間、賓客多來入、或俗僧且逢、且否、

廿四日、參右大臣殿、

廿六日、山階寺上座定深書狀云、寺中大衆平了、但去夜子時許、故隆禪法印房

燒亡、失火云々、不及堂舍之者、

廿八日、略、中

上座定深消息奉了、

廿九日、略、中、入夜參殿下、御寺大衆事委令申了、

○興福寺衆徒權別當範俊等ノ房舍ヲ壞ツコト、本月五日ノ條ニ見ユ、

十九日、辛未、陣定ヲ行ヒ、前皇大神宮禰宜荒木田宣綱放火ノコトヲ議ス、

參會ノ公卿

宣綱ノ問注安久ノ拷問及ビ落書ノ議

權禰宜清高解職拷問ノ尋末長ノ尋問再尋從者宣綱從者ノ再尋從者

忠實落書正文及ビ宣綱所從ヲ内覽ス

〔中右記〕

八月十九日、朝間召使來催云、俄可有陣定、午未時許可參内者、申承

了由、（能後）申剋許參仗座、（能實）内大臣、權大納言、（能實）治部卿、（能實）左兵衛督、（能實）予源宰相

（能後）左大辨、（能實）參集、被下文書、予讀上之、伊勢太神宮前禰宜荒木田宣綱、（能實）依心柱

（能後）被解禰宜職了、（能實）依豐受宮并離宮院放火事并落書事、（能實）宣綱舍弟、（能實）於官被問注、

并宣綱從者安久等於檢非使廳被拷内記、又今度祭主親定申、重又落書豐受

宮云、祭主又爲御祭使下向者、可放火太神宮者、如此事可定申者、令被申旨、共

議雖異、大概又同歟、或權禰宜清高、信置解職被拷問、或又問注記中僧中講師

男末長、頗知事由有疑、召彼人等重可被尋問、或又於使廳被尋問宣綱從者、未

家伏、是及三度拷之故歟、早經拷三度之後、可被沙汰也、或又伴落書可召御

覽禰宜等不副進、奇怪之由被定申、左大辨書定文、及深更退出、

〔殿曆〕八月十八日、庚午、天晴、（能實）今日陣定云々、勢事也、

卅日、壬午、天晴、（能實）申剋許頭辨重資來、爲内覽也、伊勢太神宮落書、乃正文也、

兼疑人信綱所從等問日記也、即退出、

九月五日、丁亥、天晴、（能實）申剋許頭辨重資於鬼間、内覽伊勢落書也、

彼落書極不便也、宿侍、

彼落書極不便也、宿侍、

八日、庚寅、天晴、又陰、（能實）申剋許頭辨來、依伊勢太神宮事爲御使、右大臣、民部

卿治部卿前帥等許、行云々、

十三日、乙未、天晴、辰剋許頭辨來、（能實）重資、伊勢放火、落書、并同具書等持參、頃退出、

十六日、戊戌、天晴、（能實）申剋許頭辨重資持來、伊勢信綱弟信波承ふくの書狀、則

退出、

十一月廿七日、戊申、天晴、巳剋許參御前、於鬼間爲隆朝臣覽文、伊勢放火人宣

綱沙汰間文書也、

○陣定ノ日、中右記ニ據ル、宣綱放火ノコト、七月十六日ノ條ニ、放火ヲ

大神宮ニ祈謝スルコト、本月十二日ノ條ニ、宣綱等ノ罪名ヲ議定スル

コト、五年四月六日ノ條ニ見ユ、

二十一日、（能實）法皇、權少僧都賢暹ヲシテ、六字河臨法ヲ修セシメ給フ、

〔修法要抄〕（能實）六字河臨法

爲房卿記云、康熙四年八月廿一日、癸酉、院以賢暹僧都被修六字法、引十口伴

侶、廿七日、己卯、此夕上皇御乘船、河臨法御解除也、（能實）僧徒、

二十三日、（能實）右大臣忠實、藏人頭源重資等ヲシテ、參河守源有政ノ訴訟ヲ

御解除

同宣綱沙汰文書ヲ内覽ス

伴僧十口

御解除

康和四年八月二十四日

五四八

有政上京

別當停任
中ノ維摩
會執行ヲ
忠實ニ諮
ル
上座ヲシ
テ執行セ
シム

奏セシム、

〔殿曆〕八月廿三日、乙亥、天晴、略中

參河守源有政、頗依訴申事、去年冬頃、リ召上所候也、而於無音罷下、ケ、仍余召職事爲隆并頭辨重資等、令奏事由、其間爲隆頻來、

右大臣忠實、興福寺上座定深ヲシテ、維摩會、法華會等ヲ執行セシム、

〔中右記〕八月十四日、大夫史太宰府解狀、○十月十日等持參、又從興福寺、別

當停任之間、維摩大會、春日八講、以誰人可令行哉、由進解狀、仍早且進件申文、於殿下、東三

廿三日、御寺上座定深下向御寺之次、早且來、下長者宣云、寺家別當未被補之時、昔被行維摩會、且任彼例、宜令上座定深行維摩會、法華會、御社八講等者、九月十九日、○中次參殿下、召御寺上座定深、沙汰維摩會事、入夜退出、

○別當覺信ノ寺務ヲ止ムルコト、七月十日ノ條ニ、春日社秋季八講延引ノコト、九月三日ノ條ニ、興福寺維摩會ノコト、十月十日ノ條ニ見ユ、

二十四日、丙權大納言藤原公實、皇子ノ御誕生ヲ東寺ニ祈願ス、

〔東寺長者補任〕二八月廿四日、三條大納言并長者經範參詣東寺、（如説カ）本意王

燈明ヲ供

子誕生御者、前日事不日可令遂之由、重被申上、兼又奉供御燈明、（傳）道師忠縁、東

○公實、東寺ニ於テ、女御茨子ノ爲メニ祈願スルコト、三年十月三十日ノ條ニ、茨子、著帶ノコト、本月七日ノ條ニ、皇子御誕生ノコト、五年正月十六日ノ條ニ見ユ、

二十九日、辛巳前參議左京大夫正三位藤原公房薨ズ、

〔公卿補任〕九前參議正三位藤原公房、七十左京大夫、八月廿八日薨、

〔中右記〕八月廿九日、只今、未時或人告云、前參議公房、左京大夫薨云々、年七十三、

故春宮權大夫資房男、經任大納言養爲子、後三條院御時、爲藏人頭、上皇踐祚之初、渡之任參議也、

〔公卿補任〕參議正四位下藤原公房、故參議資房卿二男、母故參川守源經相

女、長久三七廿五從五下、皇后宮臨時御同四十二廿五侍從、永承五二六左

衛門佐、二月廿六日遷右少將、天喜元正廿七兼讚岐介、同三正五正五下、同五

正五從四下、少將同十一月五日兵部大輔、康平六五五從四上、大輔延久三正

七正四下、院御明門同四十二二補藏人頭、同八日更補、新帝受禪日同五十四十七遷右

五四九

官歴
本名顯房

康和四年八月二十九日

五五〇

兵衛督、承保元十二廿六兼左京大夫、同二正廿八遷兼左兵衛督、同四月十二日兼中宮亮、六月十三任參木、同三年正月廿二日兼播磨權守、十二月八日庚寅著座、申二點、同四年正月十一日敍從三位、行幸東三條院賜承曆三年十一月日辭督、上八、永保元年正月廿六日兼備後權守、十二月五日正三位、春日行賞、應德三年三月三日兼美作權守、寬治五年正月日兼備後權守、八月、辭參議、以男通輔申補五位藏人、上九、以

〔尊卑分脈〕藤原氏實賴孫

世系

資房

母春宮亮知重女、天喜五正廿四薨、五十一、

公房

正三、左京大夫、右兵衛督、參議、母參川守經相女、康和四八廿八薨、七十三、

通輔

正五下、木工頭、母主殿頭登任女、嘉保二四廿四卒、廿六、

〔尊卑分脈〕藤原氏北家

經任

母大納言、皇后宮大夫、治部卿、正二位、母佐理卿女、治曆二三十六薨、六十七、

公房

母三川守源經相女、號白髮宰相、資房二男、

通輔

木工頭、正五下、少納言、

公豪

母、

白髮宰相
ト號ス

〔僧綱補任〕

五興福寺本

權律師俊覺

寬治五年三月八日任、中左大臣

子、實左京大夫公房卿子〔宋考〕

〔宋考〕卅五

〔參考〕

〔花押彙纂〕

部之

藤原公房

花押

○石清水文書 田中家文書

承曆二年十二月廿二日大宰大貳宅解

三十日、壬午阿闍梨信覺ヲ法成寺修理別當ニ補ス、

〔殿曆〕

八月卅日、壬午天晴、○中令補法成寺修理別當、阿闍梨隆尊法橋可行

東北院事之由、同仰了、

九月八日、庚寅、天晴、又陰、辰刻許御堂上座隆尊法橋來申雜事、則退出、

東北院ノ
執行

康和四年八月三十日

五五一

信覺慶ヲ申ス

康和四年八月是月

五五二

十八日、庚子、天晴、略、御堂修理別當信覺爲慶賀、職事宗仲申之、
〔中右記〕八月卅日、壬午、略、

今日以信覺阿闍梨爲法成寺修理別當、以同寺上座隆尊法橋、可令行東北院事之由、以家司爲隆被仰下也、是法橋永範所勘當之替也、

○東北院上座職永範ヲ罷ムルコト、本月十四日ノ條ニ、右大臣忠實、法成寺ノ修理ヲ覽ルコト、長治元年十月二十七日ノ條ニ見ユ、

是月、院廳、兵衛尉爲兼姓關、等ヲ追放ス、

〔殿曆〕八月廿八日、庚辰、天晴、略、中次不勤直兵衛尉爲兼并長光等、從院放進（進）了、他事無沙汰、一兩人許歟、只如無沙汰、如此事末世無術事歟、

勤直セザルニ依ル

神事ニ依リテ燒亡奏ナシ

能遠第燒失ス

放火

政長ノ舊宅

何候ノ人々御物忌輕シ

九月小 癸未 朔 盡

一日、癸未、京都火災、權中納言藤原季仲ノ三條第燒失ス、

〔殿曆〕九月一日、癸未、天陰、申剋許微雨、略、中子剋許燒亡、帥季仲家、依神事、無燒亡奏、

四日、丙戌、天晴、略、中丑剋許燒亡、能遠朝臣宅也、

〔中右記〕九月朔日、癸未、略、

夜半許帥（季仲）中納言新造三條家燒亡、放火云々、

四日、略、中

臨曉能遠朝臣烏丸姉小路宅燒亡、是故備中守政長朝臣宅也、

○四日ノ火災、便宜合敘ス、

御物忌、

〔殿曆〕九月一日、癸未、天陰、申剋許微雨、辰剋許參御前、申剋下宿所、於御前御

語、候此座人々、源中納言國信、右大辨宗忠、宰相中將忠教等也、戌剋退出、

三日、乙酉、天晴、略、中今日物忌輕歟、有御燈云々、

十日、壬辰、天晴、略、中酉剋許參內、依御物忌、不參御前、

五五三

十一日、癸巳、天晴、卯剋參御前、午剋許下宿所、○中略、伊勢例幣、其間有宿所、○中略、入夜參御前、○中丑一剋下宿所、

十二日、甲午、天晴、辰剋許參御前、○中即下宿所、○中申剋許參御前、○中頃之

戌剋許退出、

廿一日、癸卯、天晴、○中明日御物忌也、

廿二日、甲辰、天晴、○中酉剋許參內、○中參內依御物忌、不參御前、侍宿、

〔中右記〕九月朔日、癸未、內御物忌間祇候、晚頭退出、

三日、○中今日雖御物忌、有御燈由御禊、

十日、從今日禁中四ケ日御物忌也、○中入夜參內、宿侍、

十一日、朝參御前、○中入夜宿侍、

十二日、終日祇候內、入夜退出、

十九日、從今日五ケ日、禁中御物忌也、

廿一日、終日候內、○中候女房陪膳、

廿二日、入夜參內、○中及深更參內、宿侍、○中依御物忌、垂南廂御簾、付御物忌云々、

廿三日、候內、御物忌、○中入夜退出、

廿六日、今明禁中御物忌也、終日祇候、

○中三日以後ノ御物忌、便宜合致ス、

二日、甲申右大臣忠實、文書ヲ内覽ス、

〔殿曆〕九月二日、甲申、天陰雨時々降、○中午剋許頭辨來、爲内覽也、

七日、己丑、天晴、○中酉剋許頭辨重資朝臣來、同剋許頭中將顯實來、各内覽、則退出、

十五日、丁酉、天陰雨下、時々晴、○中未時許頭辨來、先是五位藏人爲隆來、兩人爲内覽也、

廿日、壬寅、天晴、○中戌剋許頭辨爲内覽來、

廿四日、丙午、天晴、○中午剋許頭中將顯實來、爲内覽也、即退出、

○中七日以後ノ内覽、便宜合致ス、

三日、乙酉御燈、

〔殿曆〕九月三日、乙酉、天晴、○中今日物忌輕歟、有御燈云々、

〔中右記〕九月三日、○中

御物忌輕
キニ依ル

由御禊
御服藥近
御拜ナシ

康和四年九月三日

五五六

今日雖御物忌、有御燈由御禊、但及去晦日御服藥、○八月十一條參看依日數近々、無御拜由、頭中將顯實所、是先例者、

東大寺手搔祭ニ、東大、興福兩寺ノ衆徒鬪爭シ、互ニ放火ス、尋テ、右大臣忠實ヲシテ、鬪亂ヲ制止セシム、

〔殿曆〕九月七日、己丑、天晴、○中戊剋許頭中將顯實來仰云、奈良大衆可止之、

由有仰、即奉由申了、件事東大寺山階寺去三日合戰、其後猶依不靜事也、

十三日、乙未、天晴、○中巳剋許頭中將顯實朝臣來云、東大寺與山階寺合戰間、

雜事被仰也、可候様令申了、法眼實覺來、山階寺東大寺合戰間事謂也、

十四日、丙申、天陰雨降、申剋許頭中將顯實朝臣來、東大寺與山階寺合戰事也、

彼此各召諸司、仰可停之由奈何、余令申云、極能事候、尤可然、即還參了、戊剋許

右大辨來、同剋許頭中將又來、彼沙汰了則退出、召定深、○中戊剋許法眼實覺

來、則退出、興福寺僧也、故土御門右府殿子也、取家親也、

十九日、辛丑、天晴、午剋許律師永緣來、奈良僧也、爲籬中對面、暫退出、未剋許右大辨

宗忠來、○中奈良上座定深來、可被仰御寺閑之由、右大辨仰之、

〔中右記〕九月四日、早旦山階寺上座定深申上云、昨日東大寺大衆與山階寺

定深衆徒
注進ノ亂ス

永緣忠實
ヲ訪フ

忠實定深
ヲ召ス

諸司ヲ召
シテ鬪亂

告グ

實覺衆徒
合戰ノ狀

手搔祭ニ
東大寺僧
興福寺下
僧ヲ射ル
東大寺領
西里及東
興福寺東
里燒ク

定深ヲシ
テ春日社
テ春季八
講行ハシ

興福寺衆
徒合戰申
奏ス

忠實定深
ヲ召ス

春日秋季
八講延引
興福寺中
ヲ警固ス
八講ヲ行

大衆合戰、是事發者、東大寺鎮守明神祭、世號手間、御寺下僧作田樂、過東大寺

東南院禪師、覺樹、棧敷之程、從東大寺方射散田樂、問之、及夜陰合戰、又燒亡東

大寺領西里四町許了、是東大寺衆先放火御寺東里之故也、乍驚申殿下并院

了、件里二町許被燒云々、○中略

今夕上座定深馳參上、申合戰事、依神事間、於門前申事由、以頭中將、被奏東

大寺大衆可平之由、頭中將依天氣、遣仰別當永觀律師許了者、御社秋季御

八講早可行之由、仰上座了、則明旦可下向者、

五日、從內有召參入、爲御使參院、○中近召御前、其次令奏覽山階寺大衆一昨

日合戰申文、仰云、近日諸寺大衆連日亂發、或道理、或非道、此事不便聞食者、歸

參申御返事、入夜歸家、

十四日、○中次參殿下、御寺上座定深可遣召由有仰、及深更退出、

〔類聚世要抄〕九月十三日 春日八講始事

同曆記云、同四年、四月、依東大寺合戰、秋季御八講延引、四面鄉并庄々諸人兵

士等警固寺中當邊、

六日、秋季御八講依長者殿仰、自今日被始行云々、但社司等、時經、實經、警固御社云

康和四年九月三日

五五七

康和四年九月三日

方季弘俊慶治部卿
俊通息

〔東大寺八幡驗記〕御入洛先例事

東大寺衆徒田樂人
止推參ヲ
中御門轉
害門燒失
東大寺衆
徒南院ノ
南ヲ燒拂

堀河院御宇、康和四年壬午九月三日、恆例神事之時、山階寺下部依宿願構田樂之處、瓦工包友又爲果宿願、同作田樂推參轉害門之間、衆徒加制止之剋、及喧嘩之處、他寺惡僧等數剋自申時、合戰、即入夜火出來、中御門以南小屋燒失、翌日重轉害門之末、惡黨等令放火之間、中御門、轉害門、今小路同以令燒失畢、仍當寺衆徒又燒拂南院之南也（他力）、寺之東里畢、因之春日秋季八講○八月二十三日ノ條參看、延引、○石清水八幡宮、記錄十同ジ

〔東大寺別當次第〕

前律師永觀（康和四年）
禪林寺

九月、手搔會日、山階下僧田樂之間、彼此拏擢惡事出來、寺邊小屋放火焚燒○下略、本月二十日ノ條參看

○東大寺雜集錄、異事ナキヲ以テ略ス、東大寺衆徒、神輿ヲ奉ジテ入京スルコト、本月二十八日ノ條ニ見ユ、

伊賀守高階遠實、名張郡司ヲシテ、伊世四郎ニ、其所領田畠地子等ヲ領知セシム、

〔伊賀國古文書〕

○二内閣文庫所藏
代々國司應宣等案

應宣 名張郡司

可令領知伊世四郎所領田畠地子并苧桑等事

右任公驗理、可令領知之狀、所仰如件、仍宣、

康和四年九月三日

大介高階朝臣（保實）
在判

東大寺政所、同寺領伊賀黑田莊莊司等ヲシテ、領主ノ所堪ニ從ヒ、加地子ヲ辨濟セシム、

〔東大寺文書〕

○八第二回探訪

政所下 黑田庄下司源秀友永并住人等、

可令早隨院藏人所堪辨濟加地子事

右件人年來之間、依國司之妨牢籠、而今國司免判已了、作人何致遁避乎者、早隨領主之所堪、加地子可辨濟之狀、所仰如件、宜承知、不可違失、故下、

康和四年九月三日

都維那法師

別當前律師（本願）
花押

上座大法師

康和四年九月三日

五五九

公驗ニ依ル

國司免判ス

康和四年九月四日 六日

權上座大法師(花押)

寺主大法師

權寺主大法師

○東大寺政所、同寺領伊賀黑田柚司并ニ住人等ヲシテ、領主藏人某ノ所勘ニ隨ヒ、材木ヲ造進セシムルコト、寛治四年十一月六日ノ條ニ見ユ、

四日、丙戌廢務以後政始、

〔中右記〕九月四日、○中今朝有政始、廢務以後也帥中納言、(季世)左大辨、(基)參勤云々、

渡參陣、有申文者、

六日、壬戌丹波守高階爲章、留守所ヲシテ、東寺領丹波大山莊ニ檢田使ヲ停止シ、本莊外作田所當ノ地利ヲ辨進セシム、

〔東寺百合文書〕○山城五十六之七十七止

應宣 留守所

仰下大山莊訴申二个條事

一可早令停止檢田使事

大山莊ノ訴ニ依ル

國使ヲ以テ檢田スベカラズ

米光保ヲ除ク

右件庄以國使專不可檢田、早可令停止、

一可早令辨進被立券本庄外作田所當地利事

右件作田殊町餘、除米光保之外、官物可令徵納庄家之、國方責早可停止、

康和四年九月六日

大介高階朝臣(花押)

○爲章、大山莊下司ヲシテ、免負セシムベキ米光保ノ作田ヲ定メシムルコト、八月十二日ノ條ニ、大山莊ニ國司ノ濫妨ヲ停止シ、東寺ヲシテ之ヲ領セシムルコト、十月四日ノ條ニ見ユ、

八日、庚寅大外記中原師遠、天文奏ヲ上ル、尋テ、天文博士安倍宗明、亦上ル、

〔殿曆〕九月八日、庚寅、天晴、又陰、○中午剋許大外記師遠持來天文奏、予可慎

之由所示也、依凶會日不始祈、以後日可始也、

九日、辛卯、天晴、○中大外記師遠問天變事、於南面相會也、頃之退出、

十一日、癸巳、天晴、○中未剋許天文博士宗明持來奏、余慎也、召前委問、

十八日、庚子、天晴、○中略、忠實、宇治、ル、白衣觀音法、義朝阿闍梨、八字文殊法、齊尊律師於宇治始之、依天變也、

康和四年九月八日

五六一

忠實ノ依
凶日ニ延
引リ祈フ
引ス
忠實師遠
問フ天變
問フ宗明
慎ノコト
同ノ衣觀
同法衣
音治ニ修
字治ニ修

忠實院ノ御儀奏ス

同宗明ノ天文奏ヲ

流星奏ス
宗忠ヲシテ密奏ノ趣ヲ尋問ス
哭星變

廿一日、癸卯、天晴、略中大外記師遠持來天文奏也、
廿二日、甲辰、天晴、略中召師遠、同天文奏事、院御慎也、參院、次奏此事、
廿四日、丙午、天晴、略中、午刻許、天文奏持來、宗明、
十月十日、辛酉、天晴、略中、今日師遠、天文奏持來、
廿一日、壬申、天晴、不出行、略中、宗明天文奏持來、一通止之、一通加封奏了、

〔中右記〕

八月廿七日、略中、戌時許、天有流星、光亘天、見驚之云々、
九月廿一日、略中、晚頭、大外記師遠進天文奏、予依仰尋問密奏趣、是則哭星變、天子有哭泣事者、但不指其期、重變前例甚有恐、必可徵者、重仰云、不指期變、以幾許日數可爲期哉、師遠重申云、哭星前ニ不指期、但天文習不指其期、以一年爲其限者、

○天變ヲ大神宮ニ祈ルコト、本月十一日ノ條ニ、天變御祈ノコト、同月二十七日ノ條ニ、右大辨藤原宗忠ヲシテ、法皇ニ天文密奏ヲ進メシメ給フコト、十一月七日ノ條ニ見ユ、

九日、平座、

〔殿曆〕九月九日、辛卯、天晴、略中、酉刻許、左大辨來、今日平座也、

菊酒ヲ賜

ヲ奏ベキ由

一獻

見參

〔中右記〕

九月九日、晚頭、參內、左兵衛督、能右兵衛督、仲予、左大辨、基參仕座、令頭中將奏可賜菊酒之由、上奉仰之後、尋辨之處未參、頭辨從殿上來、仍以頭辨可敷座之由下知了、則起仗座、徘徊中門邊、頭辨申事具由、人々著座、一獻、右少辨俊信、二獻、依無次居粉熟、三獻、同人、汁物之後、外記進見參、三上卿見了返給外記云々、居軾如本、挿文杖立小庭、上卿進弓場殿奏聞了、後歸著仗座、外記奉見參退出、依少納言不參、上卿見參目錄共給辨了退出、是先暫候御前、及深更退出、

十一日、伊勢例幣、

〔殿曆〕

九月十一日、癸巳、天晴、略中、今日例幣也、仍申刻許、大內記兼平持來宣命草、暫後又清書、七持來、依御物忌、於石灰壇有御拜、依密々儀、余不參、其間有宿所、

〔中右記〕

九月十一日、略中、今日例幣也、上卿內大臣、行事、右中辨長忠朝臣、宣命有別放火事、天變事云々、
○荒木田宣綱放火ノコトヲ大神宮ニ祈謝スルコト、八月十二日ノ條ニ、師遠等、天文奏ヲ上ルコト、本月八日ノ條ニ見ユ、

宣命辭別
變ヲ放火天
變ヲ載ス

宣命草
石灰壇ニ
於テ御拜
アリ

法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、政事要略ヲ中宮屬正則姓關ノ許ヨリ召サシメ給ヒ、又、檢非違使廳日記ヲ天覽ニ供ヘシメ給フ、

〔中右記〕九月十一日、中申時許參鳥羽、召御前申御返事、中次被語仰云、

中宮大夫屬正則許ニ政事要略ト云文候之由風聞、早可召取歟、我朝一本書也、又故季綱所カ可撰之使廳日記十一卷令見給、且又可申此旨者、

十四日、未剋許參鳥羽、從內令申給事、故越後守季綱朝臣所撰之檢非違使廳日記十一卷可見給者、仍從院件書持參內、

十二日、甲是ヨリ先、安藝守藤原經忠ノ第ヲ以テ、前齋院令子內親王御所トナス議アリ、是日、經忠ノ第燒失ス、

〔殿曆〕九月十二日、甲午、天晴、中巳剋燒亡、安藝守經忠朝臣住宅也、

〔中右記〕八月六日、中未剋許爲御使、參鳥羽殿、近召御前申事由、院御所事、中一々有御返事、

九月六日、申剋許從內有召、則馳參、爲御使參鳥羽殿、初被召入北面御所方、前齋院御所經忠中及深更歸參奏御返事、中但仰云、明日又參院、經忠、能仲十月二十日、等事可申者、不能委記、

本朝一本
ノ書
季綱所撰
使廳日記

忠實院御
所ニ何候
ス

七日、未剋許參鳥羽、召御前申昨日御返事、經忠宅晚頭參內、又奏御返事之處、從明日長凶會也、中下

十日、中午時許從院有召、馳參、召御前仰云、安藝宅事、中可奏聞、所カ入夜參內宿侍、

十二日、中巳剋許六條堀河邊小屋燒亡、

○令子內親王、禁中ニ御參入、弘徽殿ヲ御所トシ給フコト、十一月十七日ノ條ニ、經忠ノ第二遷御ノコト、五年七月二十六日ノ條ニ見ユ、

十六日、戌法皇、鳥羽殿ヨリ、美作守藤原顯季ノ高松第二御方違御幸アラセラル、

〔殿曆〕九月十五日、丁酉、天陰、雨下、時々晴、中抑爲御使、經忠右大辨被參、則退出、

中未時許頭辨來、先是五位藏人爲隆來、兩人爲內覽也、二日ノ於爲隆者、爲勅使參鳥羽院、仍則退出、

十六日、戌天晴、中今夜院御出京、

十八日、庚子、天晴、中余歸京、其次參院、高松還亭、

〔中右記〕九月十五日、晚頭與頭所カ中將同車參院、中又明日依御方違、可渡京

節分ニ依
ル前駟ノ公

著御
覺行法親
王供奉シ
給フ

之由可申、入夜歸參、申件事等退出、
十六日、酉時許參鳥羽殿、依節分御方違、依可有御幸高松也、而秉燭之程、參著
鳥羽北殿門前間、已御出、仍忿騎馬加前駟中、民部卿、藤大納言、新大納言、右衛
門督、帥中納言、藤中納言、新中納言、右兵衛督、源宰相、右宰相中將、殿上人卅人
許前駟、戊剋許著御高松、仁和寺御子又別車被候、

○法皇、鳥羽殿ニ渡御アラセラレ、城南寺明神御靈會ヲ覽給フコト、本
月二十日ノ條ニ、高松殿ヨリ鳥羽殿ニ還御アラセラル、コト、本月二
十六日ノ條ニ見ユ、

十七日、己亥、吉田社遷宮日時定、

〔中右記〕九月十七日、己亥、天晴、○中

今夕新大納言、經實被勸申吉田遷宮日時、

○吉田社遷宮ノコト詳ナラズ、

右大臣忠實第二度上表、

〔殿曆〕九月十六日、戊戌、天晴、○中、依明旦上表、示親公卿新大納言經實、左兵
衛督能實、右大辨宗忠、左大辨基綱、大藏卿道良、民部卿俊明治部卿俊實、宰相

忠實親近
ノ諸卿ニ
上表ス

表作者
清書人不
參

知實ヲシ
テ清書セ
シム

表使
勅使

祿ヲ勅使
ニ授ク

吉書

忠實參内

中將忠教、宰相中將家政等也、此由示爲隆、

十七日、己亥、天晴、今日上表第二度也、委旨見裏、○中、依上表、辰剋許渡東三條、

午剋許新大納言、經實、中宮權大夫能實、右大辨宗忠、宰相中將忠教、大藏卿道

良等來、前上野守藤原朝臣敦基持來表草、於出居開見之後、敦基朝臣則退、召

爲隆朝臣給之、仰云、可清書、爲隆申云、所召候清書人定實朝臣、右京大夫、前兵衛佐

顯仲、故公經朝臣子等各申障不參、爲之如何、但職事信濃權守藤原朝臣知實

所候也、余云、極有便、伴朝臣兄弟知綱并知家、故殿御時、前實皆清書、吉例也、早可

令書也、則退書寫間頗良久、酉剋許書了、爲隆持來、余開見了、人々見之、余仰民

部大輔忠長取遣筆、則持來、并月之下上表上、年書名如例、入筥上裏、以少將有

家朝臣爲使、其後人々退出了、戊剋許勅使來、右近少將源朝臣師時、從上四位、爲隆

來示之、余出中門跪取之、表返給也、函上檀紙二枚をもて押裏上、還昇延勅使、余出

庭中拜舞、改座同延勅使、次余出著、取祿授勅使、大辨右大辨宗忠朝臣取之、授

余、々取之、授勅使、々々下庭中、此間余立座隱、此間勅使拜退出了、次申文、先頭

辨重資、官方、頭中將顯實、藏人、泰仲朝臣、家方、次著直衣參内、表後依吉日也、○
略、酉剋著裝束來人々、新大納言、右大辨、宰相中將忠教、大藏卿等也、

康和四年九月十七日

五六八

〔中右記〕

九月十七日、己亥、天晴、今日右大臣殿有第二度上表、仍午時許參東

三條、御表敦基朝臣作之、清書之人俄各他行、散位藤知實書之、新大納言、左衛門督、右宰相中將、忠、大藏卿等參集、○中略、宗忠參院ノコトニカ、又白地參殿下、御表使左少將有家朝臣也、已及、又參院申御返事、參內、於直廬著束帶、參殿下、於東對南廂儲勅使座、戊剋許勅使右少將師時朝臣參入、先於中門下付藏人大進爲隆、殿下家、令申事由、殿下令相逢給、天、被受取表函、無勅答返給辭表、次召勅使令著堂上倚子、主人於前庭拜了歸來、其後人々候南廂、覽吉書、官頭辨、藏人方、顯實、將家司、前伊與守、泰仲朝臣、次令參內給、則有御退出、○中略

重日上表是先例者、前伊與守泰仲朝臣是未公文也、申吉書如何、殿下仰云、故大殿御時、寬治元年前美濃守行房申吉書、何事在哉、

〔長秋記〕

康和四年秋冬別記

九月十七日、右府上表使、有家臺盤間不憚置之、頭辨、卜箸持參表事、表使坐小板敷、表筥、大盤二脚、二間之置事、今日

依置物置上事、但顯實說上大盤半許置由、返表使儀、委、主人拜間坐地、

○忠實初度上表ノコト、七月五日ノ條ニ、同第三度上表ノコト、十月七日ノ條ニ見ユ、

勅答ナク
上表ヲ返
付セラル
吉書

十八日、庚子、右大辨藤原宗忠ヲシテ、御笛ヲ法皇ニ獻ジ給フ、

〔中右記〕

九月十八日、候内、爲御使參院御笛令獻給、

太皇太后、宇治ニ渡御シ給ヒ、故關白師實ノ爲メニ護摩ヲ修セララル、右大臣忠實等供奉ス、

〔殿曆〕

九月十三日、乙未、天晴、○中略、戊剋許雨降、爲太皇太后宮御使大進朝實

朝臣來、

十五日、丁酉、天陰、雨降、時々晴、○中略、明後日太皇太后宮、并北政所渡御宇治、仍

忠實前駐
等ヲ沙汰
ス
九壇護摩

前駐并引替等、致沙汰、出車等、又召男共、北政所太宮同御同車也、前駐布衣、（顯實）、奉爲故殿彼宮九壇阿彌陀、乃、護摩を令修給也、依件事渡御也、余御共、（尾張）、可

參、仍前駐并催引替、行事職事佐實、（尾張）、權守、

十六日、戊戌、天晴、○中略、次參北政所御方、酉剋許罷歸、

十八日、庚子、天晴、卯剋許參枇杷殿、今日宮并北政所宇治、（尾張）、渡給也、仍御共所

參也、辰剋許出御、午剋許著御泉殿、申剋許余歸京、

廿七日、己酉、天晴、辰剋許乘船、參北政所殿、則退出、

十月三日、甲寅、天晴、（尾張）、辰向高陽院、○中略、則參宇治、今日宮并北政所歸京、仍參御

忠實及ビ
麗子扈從
ス
忠實歸京

康和四年九月十八日

五六九

還啓

麗子ト御
同車

尊勝寺内
御堂建立
ニ依ル

康和四年九月十九日 二十日

五七〇

迎、其次見紅葉、申剋還御、戊剋許還家、中還御被候人々、新大納言、經實、左兵衛督、能實、宰相中將、忠敬、同左中將、家政、余等也、殿上人四位少將有家、備後介有賢、少納言懷季、民部大輔忠長等也、諸大夫廿人許、於九條□燈、大宮北政所同車、前駟皆布衣、

〔中右記〕九月十八日、中

今夕太后并故殿北政所渡宇治給云々、

十九日、辛法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、明後年東御忌方ノコトヲ奏セシメ給フ、

〔中右記〕九月十九日、中晚頭爲御使參院、中又從院令申給事、明後年東

御忌方也、可有御用意也、是明後年新御願御堂可被候者、日ノ條參看、仍所申也、

二十日、壬法皇、高松殿ヨリ鳥羽殿ニ渡御アラセラレ、城南寺明神御靈會ヲ覽給フ、是日、左兵衛佐藤原宗能ニ院昇殿ヲ聽ス、

〔中右記〕九月廿日、此曉上皇白地有御幸鳥羽殿、是今日鳥羽城南寺明神御靈會也、爲御見物、有此御幸也、不及廣催云々、已剋許從右衛門許被示送云今

高松殿ニ
還御

宗忠前駟
ニ加ハル

宗能參院
慶ヲ奏ス

宗能初
テ出仕ス
院ヨリ御
ニ給フ

朝御幸之次、兵衛佐宗能被聽院昇殿者、是從内依令申御也者、恐悅之由返報了、酉時許參鳥羽、今夕依可有還御于高松也、漸及秉燭程、於作路末御幸已成、仍於途中忽騎馬、加前駟中、藤大納言、右衛門督、源宰相許也、殿上人廿人許、次戊剋許還御高松、謁右衛門督、談云、息男宗能昇殿事感賀之由、有事次之時、可令奏給由申付了、今夕依吉日、宗能令初參院、令給祈藏人尹通令奏慶、於殿上口拜舞、付簡儀如内昇殿事、令退出、

廿八日、未時許相具宗能、參鳥羽殿、近召御前被仰雜事之次仰云、下略東大寺衆徒神輿ヲ擁シテ東寺ニ入

十月廿日、辛未、先早且依吉日、初渡兵衛佐新所、宗能行實女ト婚スルコト、今日兵衛佐初可出仕也、可令參院内、從院御牛一頭下給之由、甲州所談也、返々恐悅、

○法皇、鳥羽殿ヨリ高松殿ニ御方違御幸ノコト、本月十六日ノ條ニ、高松殿ヨリ鳥羽殿ニ還御ノコト、本月二十六日ノ條ニ見ユ、

二十二日、甲辰、贈太皇太后賢子國忌、依リテ、御念佛ヲ法勝寺常行堂ニ修シ、又御經供養ヲ行フ、

康和四年九月二十二日

五七一

中宮御膳
ヲ供シ給
殿上人濫
行遊

導師

結願

〔殿曆〕九月廿一日、癸卯、天晴、午剋許爲隆來、令沙汰御堂事等、則各退出、○中
酉剋許參御堂、取出御帶、烏犀、以藏人知信進內、依明日御國忌也、○中

廿二日、甲辰、天晴、午剋許沐浴、依御國忌、自宮御方、中宮、被供御膳也、仍諸大夫
藏人五位被催、余職事此中有兩三、○中、殿上人辰剋許濫行遊云々、御國忌也、
件遊尤不便也、可有沙汰事歟、殿上人不知案内歟、此事末世無術事歟、

〔中右記〕

九月廿二日、○中今日御國忌也、御前齋食儀如常云々、陪膳頭中將、
顯僧陪膳、五位藏人爲隆、藤大納言、公左衛門督、雅後新中納言、國權僧正良意參入、但依

御物忌、垂南廂御簾、付御物忌云々、今日又法勝寺常行堂御經供養、導師權少
僧都慶增、後明民部卿以下公卿十餘人、殿上人濟々參入云々、

廿三日、○中參法勝寺常行堂御念佛、入夜退出、

廿四日、○中及夜陰參入法勝寺常行堂、御念佛結願、雅後內大臣以下公卿十餘人、
兩方殿上人濟々、亥剋許事了退出、

〔長秋記〕

目錄康和四年秋冬別記 九月廿二日殿上人宿所濫吹事、狂遊、御國
忌儀、

二十五日、丁未高陽院ヨリ内裏ニ遷幸アラセラル、中宮、同ジク遷御アラセ

引出物馬

儉約ヲ旨
トス

女房贈物
絹不足ス

ラル、右大臣忠實等、之ニ供奉ス、是日、忠實室源師子ヲ從三位ニ敘ス、

〔殿曆〕

九月七日、己丑、天晴、早旦見馬來、廿五日高陽院立御新也、引出物馬也、

以廣房、進士民部卿許、其間事、示送、午剋許返事、○中午剋許爲隆來、還御

内裏間事等令沙汰、酉剋各退出、朝旦見馬、還御内裏間、御引出物、ヲ擇也、未剋

許擇了、依寬弘例、ウルハシキ定、可可定也、雖然世間沙汰不似彼時、仍以儉約

所行也、雅實内府、トとひあハセ、天所行也、御馬十疋、八疋、六疋間御贈物、又女房贈

物、中宮御方贈物、此外事不可有云々、其定仰下了、

八日、庚寅、天晴、又陰、○中同剋許見馬所飼云々、○中朝旦見馬皆別様也、

十日、壬辰、天晴、○中午剋許可參内者也、職事爲眞御出事、ヲ行、職事定仲來、還

御内裏間沙汰、此間所儲也、

十四日、丙申、天陰、雨降、○中藏人重隆持來請奏、盛季又同、職事知實申之、申剋

許泰仲朝臣、五位藏人爲隆來、遷宮内裏間、女房贈物致沙汰、絹不足、仍遣召美

濃守知房朝臣許、卅疋、依無錦遣尋内府許、故何者加賀守季房彼内府をと、

ナリ、仍所示送也、使雅職、戌剋許還來云、隨召可進、極悅思也、

廿三日、乙巳、天晴、○中酉剋許見馬、

加階ノコ
トヲ奏ス
勸賞

御贈物
加階ノ人
々々

廿四日、丙午、天晴、大外記師遠（中略）之所召遷宮間、加階次第持來、以宗仲令取之見、則是夜前可注進之由所仰也、爲隆來、則退出、遷宮間雜事示了、申剋許右大辨（宗憲）來、遷御間加階事令奏、次可進見馬十疋、戊剋許爲隆來、遷宮間雜事令沙汰、廿五日、丁未、天晴、（中略）同剋許右大辨來云、又今日可有賞、而於數者令申院、其是依加階所望、御返事後可被仰左右、余謹奉之由申了、則還參了、未剋許來云、（右大辨）五人許也、余申云、謹承候了、但（女階一人、宰相中將家政、新大納言男忠宗、辨、右大辨等也、申其由、則重仲等也、申其由、則被加今一人了、酉剋許著東帶參內、先參宮御方、以內侍被仰云、今夜宮司一人加階、其何樣、可有事乎、余申云、左右只御定、但令申內給、天、令左右給尤能候歟、被仰奇、申者、仍參內御方令申此由、被仰云、去七月、於尊勝寺有此事、日、七月二十一、於今度者不可然歟、次御裝束、次余著殿上、內府、民部卿有此座、次御畫御座、余參進候廣廂、內府同之、他公卿不參、是依無御膳并公卿饗祿也、次御贈物、御本入銀筥、以羅裏上、付銀松枝、新大納言經實取之、次箏入赤地錦袋、右兵衛督能實取之、御覽了、付藏人、先是宮御方有贈物、和琴、入青地錦袋、幸次御馬十疋、近衛次將并諸衛佐引之、（片口近衛將曹、將監、府生、取一兩廻後引出了、）次有賞事、召頭辨重資被仰、口宣也、依有前例、余口宣、可有之由、申也、仍以頭辨被仰下

行幸ノ儀

名對面
吉書
家政等慶
ヲ申ス

了、（府奉之、）從三位家政、正四位下能遠、清實、從四位下重仲、從五位下忠宗、從三位師子、次行幸如常、其儀渡御南殿、余候御共、取御尻、著御南殿後更經本路、路下自小板敷至陣後、著靴、（シテ）經陣前、列立庭中如常、余渡階前立東、隨身經階下、其沙汰如常、自西門出御、（有、）有御綱事、余仰之如常、御輿寄了、下御後、少納言奏後名對面、先、離列至軒廊、昇自東階、參南殿御後之間、取御尻候御共、則下宿所、頭辨覽吉書、宰相中將家政、清實申慶賀、此後無別事、廿六日、戊申、天晴、卯剋許參御前、已剋許下宿所、申剋許又參御前、此次、必參宮御方也、十月三日、甲寅、天晴、（中略、）太皇太后、宇治ヨリ還啓ノコ、戊剋許還家、々司重仲四位後始申文、於南出居相合見了、（宗仲）〔中右記〕八月廿八日、未時許相具中將、兵衛佐等、令見內裏、御渡近々之間、被掃治也、九月六日、申剋許從內有召、則馳參、爲御使參鳥羽殿、初被召入北面御所方、（高陽院令立、御時賞事、）及深更歸參、奏御返事、仰云、早行向右大臣拜賀、陽院令立給時、可有家賓、由、可仰、參右大臣殿申件旨、夜半許歸家、

廿一日、○中入夜參院、仰云、還御內意之後、大極殿并新御願中殘御堂作事、
年七月一日、等、慥可問道言朝臣可申者、

廿三日、○中今日召道言朝臣、被尋問方角事、

廿五日、早且從內有召、勤仕女房陪膳、且又為御使、參殿下、四ヶ度往反、是今夕
勸賞沙汰也、晚頭退出、此間闕以民部卿被申院也、入夜重參內、今日從高陽

畫御座
出御
御贈物

院還御內裏、其儀先奏行幸日時、召仰之後、出御畫御座、執柄殿下令候廣庇給、
先有送物、箏一張、入袋、御手本二卷、入銀、新大納言經實卿左衛門督能實卿取

之、又被奉御馬十疋、不置移、少將有家朝臣、師時朝臣、實隆朝臣、師重朝臣、藏人

兵衛佐能明、同宗能近、衛官人等、相從、引廻、此間中宮御方送物、和琴、宰相中

中殿南庭、出從、東到西、中門、分給、左右、馬寮、察、女房中有送物、織綾廿疋、八丈絹五十疋、綿次被仰下勸賞、從三位藤家政、宰相

正四位下能遠清實、從四位下重仲、從五位上忠宗、侍從從三位源師子、右大臣

從下內大臣於仗座召內記被仰下、頭辨付、風次寄御輿、鳳、少納言實行鈴奏、

先關供奉公卿右大臣殿、左大內大臣、右大藤大納言、公實左衛門督、後等右衛門督、

宗通源中納言、國信右兵衛督、師左宰相中將、顯通下官、右宰相中將、忠教源宰相中將、顯

雅新宰相中將、家政從西門出御、經中御門大宮大路等、從陽明門左衛門陣并日

供奉公卿

出御

勸賞

吉書

中宮行啓

藤壺二渡

御竈神

勸賞先例

忠實雅實
宿仕
家政著陣

華門入御、鈴奏實行、頭辨奏吉書、於御直處於仗座下申內大臣、大臣又頭中、先
例無申文之由、大外記師遠申、仍人々退出、供夕膳、無所々饗饌、先例者、今夕又
中宮行啓、新大納言、經實左兵衛督、能權帥中納言、季世源宰相、無後刑部卿、顯世供奉、宮
御車入從北陣渡御藤壺、
內侍所、藏人少
御竈神、藤中納言、仲實
今夕宿侍、

行幸執柄人家勸賞之時、男女階給數例

寬弘五年、七人、同七年、六人、同八年、四人、長和二年、八人、此外、中同四年、八人、此外、
中宮々寬仁二年、九人、此外、中萬壽元年、十人、長久三年、四人、天喜二年、四人、此外、
宮司同四年、七人、承保二年、四人、此外、同一年、一人、承曆四年、六人、永保四年、五
人、嘉保二年、三人、永長二年、五人、康和二年、六人、

廿六日、○中右大臣殿內大臣殿宿侍給、右大臣殿、御直房、今夜又宿侍、
十月十三日、○中今日新宰相中將家政敍三位後著陣云々、

康和四年九月二十六日

五七八

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記

九月廿五日、自高陽院遷御內裏、御送物事、

同行啓、

〔婚記〕

久安四年七月廿日、○中 大北政所、師子、

康和四年九月廿五日、敍從三位、右大臣室、元從五位下、
明分天皇自高陽院遷宮賞、

〔公卿補任〕

九 參議正四位下藤家政、廿三、九月廿五日從三位、院遷御內裏、
院遷御內裏、

賞、
本家

〔公卿補任〕

十 大治五年 參議正四位下藤忠宗、四十、同四九廿五從五上、
自高陽院遷宮賞、

宮賞、
陽院遷

○一代要記、十三代要略、異事ナキヲ以テ略ス、高陽院ニ移御ノコト、二年八月十六日ノ條ニ、忠實、高陽院ニ移ルコト、本年十月十三日ノ條ニ見ユ、

二十六日、申法皇、高松殿ヨリ、白河ニ御幸アラセラレ、紅葉ヲ覽給ヒ、鳥羽殿ニ還御アラセラル、

公卿十餘
人供奉

〔殿曆〕

九月廿六日、戊申、天晴、○中次參御幸、雖然依遲參、不前驅、追參鳥羽、今夜侍宿、

〔中右記〕

九月廿六日、○中 略

法皇午時許從高松御幸白河、歷覽紅葉、晚頭還御鳥羽殿云々、藤大納言以下公卿十餘人、殿上人卅餘人供奉者、

○法皇、高松殿ニ御幸アラセラル、コト、本月十六日ノ條ニ見ユ、

二十七日、己酉權少僧都賢暹ヲシテ、普賢延命法ヲ仁壽殿ニ修セシム、

〔阿婆縛抄〕

七十五 普賢延命法日記

康和四年九月廿七日、己酉於仁壽殿、被修普賢延命御修法日記、

○略以照陽舍爲晝宿所、十月十九日日中結願、同以廿日、於同殿、令修熾盛光法、伴記在別、○十月二十條參看、

大阿闍梨權少僧都ム賢暹 伴僧廿口、大衆十人、
中堂十人、

靜仁法橋、林命阿闍梨、永意（阿闍梨下同）宗暹（阿闍梨下同）源覺（阿闍梨下同）、增舜供奉、經海（阿闍梨下同）、院照（阿闍梨下同）、靜豪（阿闍梨下同）、覺鎮（阿闍梨下同）、忠圓、永助、舜快、行壽、助暹、春覺、行延、喜圓、長仁、暹源、

康和四年九月二十七日

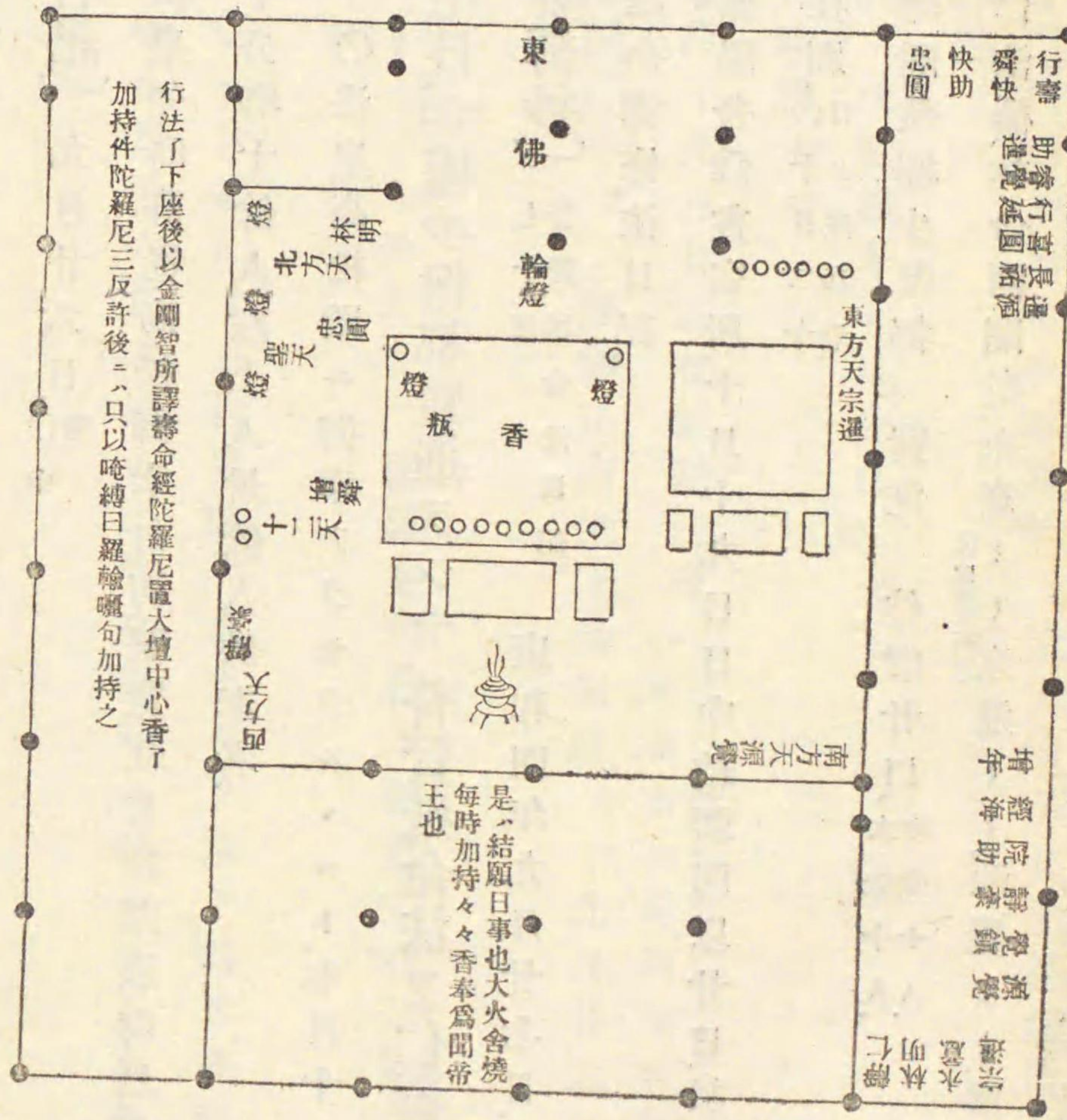
五七九

晝宿所

伴僧二十
口

康和四年九月二十七日

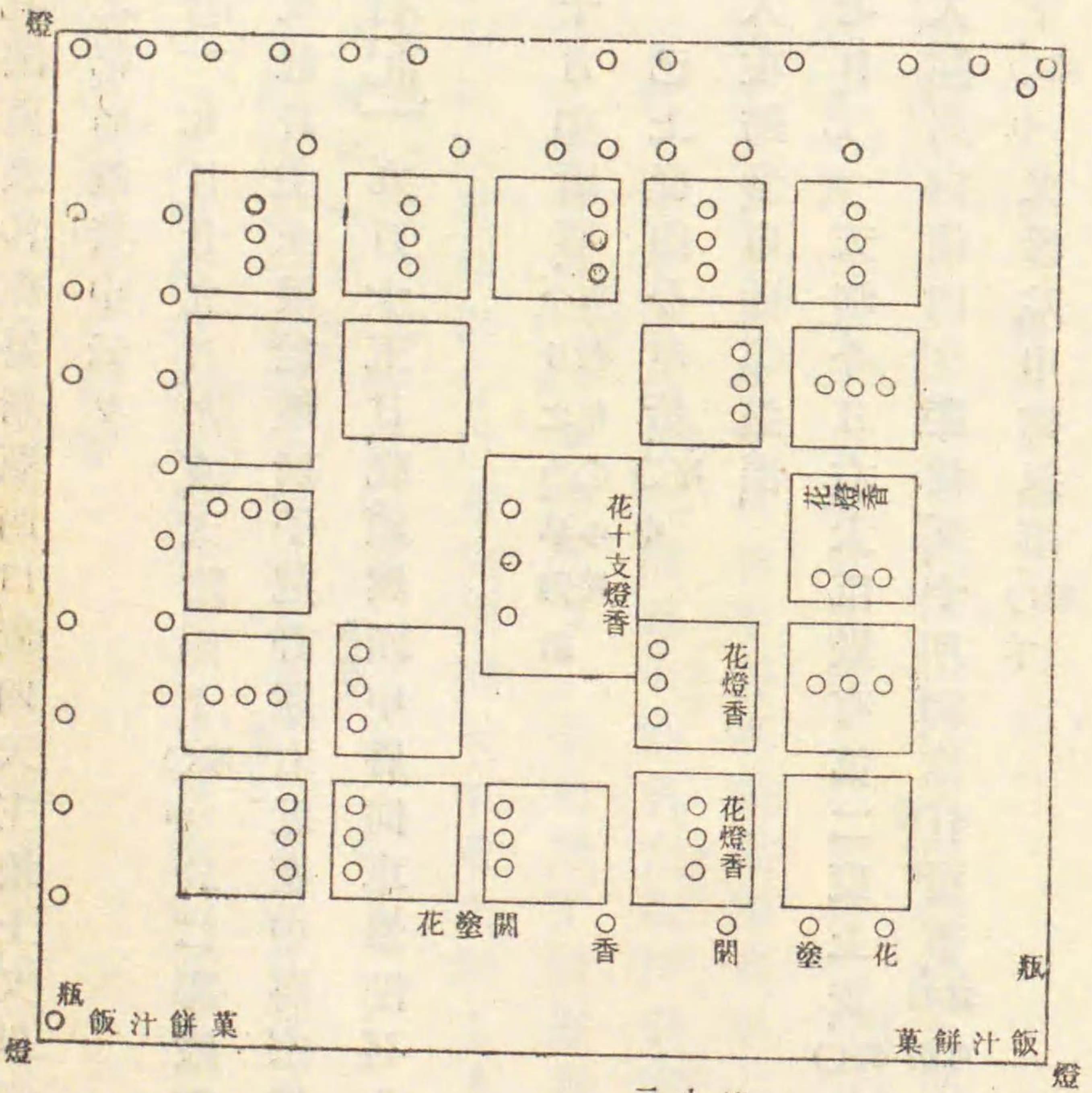
御物忌ニ依リテ行幸ヲ停ム



今夜雖可有行幸、依御物忌、^(行幸カ)留御云々、初夜時、大壇僧都護摩壇永意、四天王壇、十二天壇、聖天壇等、阿闍梨如圖、已上三壇行法、亦初夜許也、但結願日、

御修法第一日
行幸アリ
結願
行幸アリ
壇供ノ圖

唱禮院照、後々以永意、經海、院照、番々爲護摩師、第一、第三日有行幸、第四、五、六、七、又依御物忌无行幸、第二、七月初日、依神夏、移壇所於侍從厨、第三、七、日、第六日、如本移於仁壽殿、第八日、中時結願、有行幸、僧皆淨衣裝束也、



康和四年九月二十七日

取乳酪蘇及沙糖、盛新瓶四口、置四天王壇上、又以淨水著於瓶內、採十二種果樹之花、而置其中云々、

御修法第三日
壇所ニ渡

〔殿曆〕

九月廿九日、辛亥、天陰雨下、○中於仁壽殿有修法、妙法延命也、阿闍梨權少僧都賢運伴僧廿戌、剋許主上渡給壇所、子剋許還、右近衛中將宗輔取晝御座御劔前行、

〔中右記〕

九月十五日、晚頭與頭中將同車參院、召北面、昨日內令申給事等、○略

十月御祈事、今月之内、早御祈可被始、○中略

已上從內令申給、○中略

入夜歸參、申件等退出、

十七日、己亥、天晴、今日右大臣殿有第二度上表、○中此間院並內共有召、仍先

參入院、爲御使四ヶ度往反、十月御慎打祈事、御力如法延命法、賢運僧了又白地參

殿下、○中又參院申御返事、○下

廿八日、○中略

於仁壽殿、權少僧都賢運率伴僧廿口、被修如法延命法、主上出御壇所、西廂爲御所、

御修法第二日
壇所ニ出

延命法結願

十月十九日、早旦者於仁壽殿、所被修之如法延命御修法結願、三七日、權少僧都賢運勤之、因之渡御仁壽殿、

○法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、御慎ノコトヲ奏セシメ給フコト、十月十九日ノ條ニ見ユ、

天變御祈トシテ、仁和寺覺行法親王、鳥羽殿ニ於テ、孔雀經法ヲ修シ給フ、

〔中右記〕十月十三日、辰時許參鳥羽殿、是仁和寺御子、從一日所被從孔雀經

御修法、二七ヶ日後、今日日中時所被結願也、於北御所北寢殿南面有此法、南

簀子敷上達部祇候、後明民部卿、藤大納言、公實左衛門督、雅後右衛門督、源中納言、宗忠下官、源宰

相、忠敏右宰相中將、忠直直衣、未時許事了後加持了給布施、宮被物民部卿取之、布施顯

季朝臣取也、伴侶廿口布施、諸卿次第取之、殿上人相加、衣冠伴僧之中僧綱三

人、少僧都覺意、律師寬照、一人師寬照、一人申剋歸洛、

〔孔雀經法記〕同四年壬午九月廿七日、近日有天變、爲消件變、於鳥羽北殿、令

勤修御、大阿闍梨御室伴僧廿口之内、僧綱三口、同十月十三日、御結願了、

〔御室相承記〕中御室

同孔雀經法康和四年九月廿七日、己酉、天變御祈於鳥羽北殿被行、之同之十月十三日、甲子、午結願、○仁和寺御傳異事ナシ、

康和四年九月二十七日

結願
參會ノ公卿
加持
布施
伴僧二十

〔真諸寺院記〕

仁和寺歷代先蹤

第三代二品覺行法親王

御修法事

〔孔雀經法〕

勸賞

〔庚和〕

同四年九月廿七日、天變御祈於鳥羽殿被行之、有勸賞伴僧廿口、

○師遠等、天文奏ヲ上ルコト、本月八日ノ條ニ見ユ、

二十八日、庚東大寺衆徒、興福寺衆徒ノ狼藉ニ依リ、同寺八幡神輿ヲ奉ジテ入京シ、東寺ニ據ル、仍リテ、官使ヲ差遣シテ、衆徒ノ陣頭ニ嗾訴スルヲ停メシム、

〔殿曆〕

九月廿八日、庚戌、天晴、不出行、東大寺大衆、相具神輿參東寺之由、以下人説聞也、仍頭中將〔釋實〕ヲ尋處、不聞之由答也、而自院件事以右大辨被申内了、不可參陣頭之由、以官掌被仰也、仍不參也、

廿九日、辛亥、天陰、雨下、午剋參内、東大寺大衆不參、雖然檢非違使候陣、今夜侍宿、

十月二日、癸巳、天晴、不出行、〔略〕中申剋許藏人惟兼來云、〔中略〕中宮女房ノ紅ル、本月十八日、東大寺之大衆參著東寺、何様〔可〕可有事哉、余申云、如此間不可

忠實東大寺衆徒集
寺ニ參集
實否ヲ
訊ス
檢非違使
候
セシム

法皇衆徒
沙汰シ給

衆徒ノ訴
理ナシ
衆徒陣ニ
參向アリ

東大寺末
寺ノ衆徒
ヲ催ス
勅使法性
寺邊ニ馳
向フ
檢非違使
路次ヲ固
ム
神輿歸座

然、止了、

〔中右記〕

九月廿八日、未時許相具宗能〔略〕○本月二十參鳥羽殿、近召御前、被仰雜事之次、仰云、東大寺大衆依訴山階寺事、只今俄參集九條、東寺内昇神輿、甚不便聞食、先遣官使、且加制止、且又有訴申事者、可進申文許之由、可被仰下旨、汝參内辨奏聞者、戌時許參内、奏達院仰旨、且又以消息申右大臣殿了、召頭辨〔宗也〕下知東大寺朝秀〔座〕被沙汰、今夜宿侍、

廿九日、晚頭退出、東大寺衆猶在九條、東寺中云々、訴申之旨無所據歟、

十月三日、晚從或人許告云、東大寺衆、〔略〕從一日、在九條、依有訴〔申力〕事、可參陣頭者、仍乍驚參内、雖然未參向、是依有制止歟、

〔東大寺八幡驗記〕

御入洛先例事

○上爰衆徒殊含鬱憤之餘、相催末寺等、同廿八日、衆徒等頂戴八幡三所神輿、令上洛之處、上自王侯相將、下及輿僮草隸、悉無不驚歎、則勅使馳向法性寺之邊云、所詮於愁訴者、閣是非被裁報、更不可有陣參之儀等云々、仍直雖奉入東寺、猶爲御用意、仰檢非違使等警固路次畢、寺訴開肩、神輿增威、同十月一日、御歸坐而已、〔略〕被解官ノ別且見于知足院殿御記等、依此事、興福寺別當

康和四年九月二十八日

五八五

東大寺八幡神輿ノ初度入洛

康和四年九月二十九日

五八六

〔東大寺別當次第〕前律師永觀禪林九月（康和四年）手搔會日、山階下僧田樂之間、○條參看、彼此拏擢惡事出來、寺邊小屋放火焚燒、依此事八幡神輿入洛、是初度也、

〔東大寺文書〕

○十四 第二回探訪

記錄 當寺東寺（本末）□□事

堀川院御宇康和四年九月廿八日、傍寺惡徒依動神襟、當社神輿忽勸入洛之、○上剋、有朝議、依爲當寺末寺、以東寺被成爲行宮、○上

○東大、興福兩寺ノ衆徒、鬪爭スルコト、本月三日ノ條ニ見ユ、

二十九日、（應神天皇河內譽田山陵鳴動ス、）

〔石清水文書〕

（五）宮寺緣事抄

康和四年九月廿九日、譽田山陵振動如雷事、

鳴動雷ノ如シ

末寺東寺ヲ行宮トナス

忠實伺候

三獻見參目録ヲ奏ス

十月壬子朔盡

一日、壬子、平座、

〔殿曆〕

十月一日、壬子、天晴、午剋許參御前、申剋許退出、平座、不參、納言國信、宰相師賴所參著也、殿（上人）□□十餘人許候、

〔中右記〕

十月朔日、（壬午）晚頭權中納言國信卿、參議右兵衛督師賴參宜陽殿座、有平座事、一獻少納言懷季、二獻頭辨重資朝臣、三獻依（無力）□□他人、又懷季、見參目録奏下如恆云々、

御物忌、

〔殿曆〕

十月一日、壬子、天晴、午剋許參御前、申剋許退出、○中今日御物忌也、

四日、乙卯、天晴、○中大内御物忌也、

七日、戊午、天晴、○中今日内御物忌、○中今度侍宿、

十七日、戊辰、天晴、○中次參内、依御物忌、不參御前、

十八日、己巳、天晴、巳剋許參御前、（宗忠）右大辨候晝御膳、余陪膳、酉剋許退出、

廿五日、丙子、天陰、雨、申剋許雨止、戌剋許參内、依御物忌、不參御前、○中參内、

廿六日、丁丑、天晴、辰剋許參御前、陪膳、戌剋許退出、

康和四年十月一日

五八七

〔中右記〕

十月朔日、壬午、凶會、從今日、四ケ日禁中御物忌也、

四日、○中略、政始ノ、依御物忌、以外記、兼先內覽、 被申殿下之先可被奏者、
略○中今夜宿侍、

六日、從今日、又三ケ日、禁中御物忌也、晚頭退出、

七日、略○中今日御物忌也、

十一日、從今日、禁中八ケ日、御物忌也、終日祇候、○中及子刻許、略○中歸參內宿侍、

十二日、候內、晚頭退出、

十六日、略○中

依召、夜半許參籠內御物忌也、

十七日、終日勤女房陪膳、○中今夕又宿侍、

十八日、終日勤女房陪膳、宿侍、

廿五日、終日勤女房陪膳、從今日四ケ日禁中御物忌也、雨脚濛々、入夜退出、

○六日以後ノ御物忌、便宜合致ス、

四日、^乙內裏還御ノ後政始、

宗忠御物忌ニ籠ル

辨官一人ノ例多シノ吉書有無ノ議

雨儀路ヲ用フ申文請印

南所ニ勤シノ備ナ

著陣

〔殿曆〕

十月四日、乙卯、天晴、略○中已剋許頭中將內覽、

〔中右記〕

十月四日、朝間候御前、今日政始也、^{去月廿五日、還御、}仍參結政、右少

辨俊信、少納言懷季參入、此外中少辨皆有故障、以史兼時、取御氣色之處、可依

先例、大外記師遠申上、辨官一人申文之例多存、此間藤中納言仲實卿著左衛

門陣座、予著結政座、可有吉書由相尋之處、不儲史生之由、座頭史相忠申上、此

事如何、但於今者何爲哉、^{後左大辨云、吉書先年首政始、并新任之史兼時、}內覽

文、次第□候□如恆、可著應由召使催之、南申文令結申、了後著應座、先外記定

重出來法申、^{用雨儀路、申云、辨官一人、}上卿命云、令申、與、次少納言、右少辨、外

記一人、史三人、申文如常、次請印、少納言、懷、外記輔兼勤之事、了出立外記門、予

先起座、^{前略力}外記門、^{不揖、依有}南行宿左衛門陣程、北面立、上卿相揖、予前行、^{前略力}南可

門、立門南脇、^{北面、}上卿相揖入南、^{前略力}予於小屋邊著淺履、著南所座、次第如

例、□史兼時申文、可有勸盃歎如何、而無其儀、^{勸盃是又如此、}仍起座於南所門

前出立、入左衛門陣間、上官等列立、伴陣門內南方、^{西、}此事可尋、次第相揖而過、入

左兵衛陣南行、上卿入從敷政門著陣奧座、此前內大臣被參仗座、命□政始之

由、 給、爲申行軒廊御卜、 參內也、^{別條}但暫起座之間、先於陣座、可有吉

國留守所ヲシテ、東寺領ニ檢田使ノ停止等ヲ沙汰セシムルコト、九月六日ノ條ニ、大山莊米光保ニ官物ヲ責徵スルヲ停止セシムルコト、五年八月十四日ノ條ニ見ユ、

五日、丙辰、弓場始、

〔殿曆〕十月五日、丙辰、天晴、中著直衣、申剋許參内、今日弓場始也、酉剋著東帶、參御前、先著殿上、少納言實行所掌也、伴人依遲參、及戌剋事始、極不便也、弓場始也、出御、余候御共、頭中將顯實朝臣晝御座、取御劔前行、殿上人、ヒシツク候、頭辨重資進御御、余取御下襲尻候、出御後余候御後、出居將有家朝臣、四位少將、警蹕、次第如此、小抄一度始程、余取弓矢著座、未了前立座參御後、還御、所掌實行、少納言上卿藤大納言公實、今日能射、藤中納言仲實、右宰相中將忠教、右近少將從四位上師時、射手仲實、中納言國信、宰相中將顯通、宰相中將忠教、新宰相中將顯雅、師時、四位少將實隆、四位少將師重、顯國、藏人家定、右少將今夜懸物遲、所掌行事藏人知信、持仍無拜、亥剋事了、召後雨降、二三度間甚下、中供御膳、陪膳顯實、先懸的、出居將令懸代的、參會公卿、藤大納言公實、左衛門督雅俊、藤中納言仲實、源中納言國信、右兵衛督師賴、右宰相中將顯通、右大辨宗忠、

出御

還御

上卿能射

懸物

御膳ヲ供參會公卿

出御

中宮懸物ヲ獻セラ

還御

源宰相能俊、右宰相中將忠教、同宰相中將顯雅、左大辨基綱雖參内、不著座、主殿頭行綱朝臣給衝重、是失也、

〔中右記〕

十月五日、中略未時許歸參内、今日依式日有弓場始、其儀、秉燭之後、

出御、弓場殿、頭中將顯實朝臣持御劔前行、右大臣殿候御衣尻給、出居著座、出御、左少將有家朝臣懸的替的、左少將有家朝臣依御氣色、出仗座召公卿、入從軒廊東藤大納言、左衛門督、藤中納言、新中納言、國信、右兵衛督、師左宰相中將、顯雅、宗忠下官源宰相、能俊右宰相中將、忠教右少將師時朝臣、右少將家定、左少將師重朝臣、一度始後、居公卿并出居等衝重、藏二人立射、分錢案、中宮被獻懸物、藏人盛季付巽角柱、此間手本、火、主殿頭行綱、前、所衆某丸預居衝重、藏人頭命令撤、衆人有咲氣、頃而右大臣殿令加座給、參議平伏、二度始間候御膳、御臺二本、頭中將顯實朝臣陪膳、殿上四位役送、射手暫罷、三度了、而中將顯雅的二、前、右宰相中將忠教的一、後、師重朝臣的一、後、前後同、仍無拜、頃而還御、左宰相中將稱蹕、今夜甚雨、

〔長秋記〕

康和四年秋冬別記 十月五日、弓場始、

實行兼日承、遲參間、藏人少將承之、有家出居事、

依雨改出居(所カ)出掌座召掃部司出居未西面實行參會勤仕、
供御膳間燒主殿頭暫退、
六日、丁京都火災、

〔殿曆〕十月六日、丁巳天晴、略中冷泉院與西洞院放火、(殿カ)北政所女房家也、燒了、

〔中右記〕十月六日、略中

夜半許、故頼綱朝臣女子西洞院冷泉院宅燒、是強盜之所爲云々、近日京中
間有此事、頗以有恐、

○檢非違使等ノ懈怠ヲ戒メテ盜賊ニ備ヘシムルコト、本月十九日ノ
條ニ見ユ、

七日、戊午賀茂社寶殿御戸ノ開カザルコトヲ軒廊ニトス、尋テ、同社ニ奉幣
シテ之ヲ祈謝ス、

〔中右記〕十月七日、略中、略右大臣忠實第三、今夜帥中納言季仲卿參仗座、行

軒廊御下、鴨社寶殿御戸不開之由者、(又カ)陣時杭失了、可令作之由日時被勘申
云々、件内覽被免也、是御上表後、不御覽吉書前也、

十三日、略中、今日公家被立奉幣使於賀茂一社云々、是一夜軒廊御下事被謝

放火
麗子女房
家燒失ス
強盜ノ所
爲中不安

陣時杭造
申作日時
申

上卿
使

御物忌ノ
日上表ノ
先例
作者

參集ノ公
卿

忠實加署

勅答草

申者、上卿帥中納言、使宰相中將、顯雅、

〔殿曆〕十月十三日、甲子天晴、今日公家奉幣賀茂、上卿帥季仲、使新宰相中將
顯雅、

○陣時杭造作日時勘申ノコト、便宜合敘ス

右大臣忠實第三度上表、

〔殿曆〕十月七日、戊午天晴、辰剋許東三條、是依第三度上表也、今日内御物忌、

雖然依有先例進、長元九年、宇治殿被進、寬治七年、故後、宇治殿被進、使少將有家、四位、少將、作者敦基、不賜祿、

是以前二度預祿之故也、故宇治殿御時如此、清書定實、不賜祿、今日又前齋也、

○本月八日、是又有先例、寬仁二年、祈年、祭前後、有此事、今日第三度上表也、辰剋許渡東三條、

著直衣冠等、未剋許於出居、開見表、敦基持參、召也、於前讀之、(能實)左兵衛督、右大

辨、(家政)左大辨、(家政)右宰相中將、(家政)左宰相中將、大藏卿等有此座、讀了敦基朝臣退、召爲隆

給表、仰云、早可清書、取文退、清書間數剋、申下間書出、爲隆持來、(忠實)余加署、(忠實)民部大

少輔、(忠實)長、(忠實)持來也、檀紙一枚かさね卷、かけ紙二枚、其上又一枚を卷入筥、以檀紙四

枚裏上、結中、(忠實)召爲隆、召有家、々々參進、余給筥則退出參内、頃之還來云、付

頭辨了、(忠實)戊剋許大内記兼衛持來勅答草、職事宗仲申之、余開見了、返給云、於清

勅答使

勅使ニ祿ヲ授ク

吉書

忠實參內宿侍

忠實東三條第二赴

御物忌ニ依リ上表ヲ藏人頭ニ付ス勅答使

忠實拜舞

書者不可覽、勅答上卿帥中納言季仲著束帶、勅答使數剋不來、亥了、勅答使時、宗勝也泰仲朝臣申之、余於中門相逢、跪取之、歸昇於內出居、開見了、右大辨宗以泰仲朝臣延勅使東對廣廂、儲座如先々、余下自中門廊、當勅使座拜、下間職事、燈火候、改座、同以泰仲朝臣延勅使、々々著座後、余又著座授祿、宰相中將家政取祿授余、勅使欲拜間、余立座隱、次吉書、官方右少辨俊信藏人方頭辨重資家方泰仲朝臣、今日依吉日參內、後日無日次、仍所參也、參內次向二條、於宿所有吉書、頭中將顯實朝臣申之、今夜侍宿、

〔中右記〕

十月七日、早旦參入右大臣（飛力）□今朝白地渡東三條給也、是今日依可令獻第三表給也、晚頭於東對南庇方人々參集、左兵衛督、（宗忠）予左大辨兩宰相中將、（忠實）家政、大藏卿、道、表作者敦基朝臣、自獻御表草令讀、次令右京大夫（宗實）□、清書了入宮裏檀紙如恆、以左少將有家朝臣被獻內、入夜歸參云、依內御物忌、於無名門前付頭辨云々、於□侍令藏人知信書宿紙、□者、亥剋許勅答使右少將師時朝臣參來、先於東中門外令申事由、泰仲朝臣□相逢、主人令相逢給、共跪取給勅答函、次以泰仲朝臣令召勅使、令著倚子、對南孫庇、裝束如初、主人於前庭有拜舞、勅使暫立隱、次□令直座□、又召勅使、主人給祿、宰相中將家政傳、勅

吉書

作者ニ祿ヲ給セズ

勅答作者

上表文

使取祿二拜了、退出、其後於南庇方御覽吉書、官右少辨職事方頭辨重資朝臣家司仲臣朝、今夜依吉日、令參內宿侍給也、於御直廡、頭中將申書云々、今度不給祿於作者、被仰云、我

家々司者作表之時、先例每度不給祿之故也、

今日御物忌也、而雖內御物忌御上表、御堂宇治殿御時有此例也、又今日伊勢奉幣前齋也、○本月八日、條參看、伴日上表例、（實記）□二年四月三日上表例也、又長和之間、有此事云々、○中、帥中納言便令作勅答、上卿奉行、大內兼衡內覽勅答草、新任大臣第三度有、左少將有家朝臣談云、主上御內裏之時、爲使近衛□將有其路、右□將者入從和德門、經陣座渡階下、於無名門外、自持表函置殿上大盤續、（實記）日程云々、左□入從敷政門、渡階下、次々俄同右者、此事可尋知之、

〔本朝續文粹〕

表五下

知足院禪定前太相國辭右大臣第三表

敦基朝臣

臣忠實言、去月十七日、中使從四位上行右近衛權少將源朝臣師時、出自彼蒼不許所請、如履薄氷而待炎日、同舉朽枝而凌勁風、臣某、中謝、臣伏檢家譜、曩祖忠仁公以來、累祖一族先昇丞相之職、續爲輔佐之臣、唯寬仁、（實通）大相國初在納言、

康和四年十月八日

六〇〇

早執機務、著功名於鐘鼎、傳微行於家門、臣德譴能寡、任重位尊、謬荷殊異之寵、頻浴褒崇之恩、居亞相而理政績、適繼希代之蹤、超著德而列台司、猶持周衛之節、止足知分、月照九井之西、重載畏危、浪嶮三峽之裏、負乘之責、寧所克堪、方今屬休明之聖朝、託菲薄之陋質、螢燭光微、那增日月之照耀、牛溲水淺、難添溟渤之波濤、何勵昏蒙之性、強裨時雍之仁、抑上有黃炎之主、下得風力之臣、振鷺宛庭、誰非六翮之翹楚、鳴騶入谷、豈無八駿之逸材、譬猶岱陰之麓、衛陽之林、掄良材而無盡、鍾山之玉、泗濱之石、採奇寶而不稀、多士之朝、於茲為盛、伏望陛下曲垂乾鑿、關四門、以廣招賢之路、整六典、以弭曠官之訕、不勝荷懼征營之至、謹重奉表陳讓、以聞、臣某誠惶誠恐頓首々々、死罪々々、謹言、

康和四年十月七日

右大臣正二位兼行左近衛大將臣藤原朝臣

○忠實第二度上表ノコト、九月十七日ノ條ニ、忠實ノ左近衛大將ヲ罷メ、隨身兵仗ヲ賜フコト、十一月二十五日ノ條ニ見ユ、

八日己未、大神宮恆例神事ノ延引ニ依リテ、臨時奉幣使ヲ同宮ニ發遣ス、

〔殿曆〕十月七日、戊午、天晴、略、○中今日又前齋也、略、○明日伊勢奉幣也、

前齋
上卿
宣命草ヲ
奏ス

八日、己未、天晴、午剋參御前、今日伊勢奉幣也、上卿內府也、申剋許奏宣命草、後

退出、於清書內覽者免了、件奉幣依觸穢、恆例神事延引、仍所被行也、

〔中右記〕十月七日、略、○中又今日伊勢奉幣前齋也、略、○下

八日、天晴、有臨時伊勢奉幣、上卿內大臣、行事頭辨云々、是依一日御卜穢氣事歟、

○大神宮恆例神事ノ延引ヲ軒廊ニトスルコト、本月四日ノ條ニ見ユ、
十日、辛酉、興福寺維摩會、右大臣忠實、同寺別當覺信ノ勅勘等ニ依リ、同會ニ違亂ノ起ルヲ慮リ、勅使右少辨藤原俊信ヲシテ、先規ノ如ク之ヲ執行セシム、

〔維摩會講師研學豎義次第〕四年、壬午、講師忠實、年六十五、滿五十、照大江氏、長

弟子、東寺濟尊、僧都弟、勅使右少辨俊信、權律師、永祿十月九日蒙專寺探題宣、依長吏法印聲務也、

研學、懷尋、年四十四、滿廿九、權僧正頼信入室、濟尊法印弟子、

〔三會定一記〕一、同四年、五十七、宣講師忠實、法相、豎義、懷尋、四十四、

東大湛慶、探題、兼帶也、永、〔宋書下同シ〕、勅使右少辨俊信、

〔僧綱補任〕五、興福寺本、講師忠實、興福寺、六十五、

豎者、懷尋、四十四、、〔宋書〕、

康和四年十月十日

六〇一

講師
勅使
研學

具書ヲ勅
使ニ授ク
覺樹ヲシ
テ如意ヲ
渡サシム

定深ヲシ
テ沙汰セ
シム
永緣ヲ暫
ク探題ト
ナス
興福寺衆
徒覺信ノ
勅ヲ免
ゼラレン
コトヲ請
フ
法皇聽許
シ給ハズ

維摩會ノ
五師子如
意ヲ東大
寺ヨリ渡
サシム

東大寺ヲ
シテ聽衆
シム

堅義申文

寺中衆徒
競發ス
執行別當
無クシテ
行フ先例
ナシ
先例無シ
フト雖モ行

康和四年十月十日

六〇二

〔殿曆〕五月十七日、辛未、天晴、中戊剋許、以頭辨重資、令奏維摩會講師事、頃之還來云、聞食了、但公請不勤者、頗不便歟、雖然聞食了、仍召大外記師遠仰之家司右中辨時範朝臣、伴講師、忠尊得業

十月九日、庚申、天晴、中辰剋許、右少辨俊信來、問爲來、又右大辨來、明日維摩會具書等、賜俊信、册十聽衆、又爲隆書之、

十日、辛酉、天晴、中午剋許、頭中將來云、夜前如仰、如意事、令奏達、早可渡之由、覺樹許、仰遣了、覺樹返事云、早可遣余云、極能事也、中將則退出、

廿一日、壬申、天晴、不出行、中今夜奈良法印來給、頃之被退出了、

〔中右記〕

五月十七日、中今夕三會講師宣旨被仰、興福寺忠尊

九月十九日、中次參殿下、召御寺上座定深、沙汰維摩會事、入夜退出、

十月九日、早旦參入殿下、維摩會文書下給、勅使右少辨俊信、以爲隆傳給之仰云、本寺

別當有勅勘問、七月十日大會之事、定狼藉歟、慥任先例、可催行者、又以權律

師永緣、暫可爲專寺探題之由、給長者了、午時許爲殿下御使參院、奏覽興禪寺

大衆申文、是從承和年中、三會定一之以後、維摩大會無執行別當被行之事、全

無先例、仍可免給法印覺信勅勘之由、見申文、僧綱、已講五師、得業、連判、仰甚不

快也、不可免給、其次有不請御氣色、乍恐返申文歸洛、申件旨於殿下了、維摩會講師所持之五師子如意、年來在東大寺東南院房門跡之人覺樹之許力□□由有其聞、是東南院寺御寺向背之比也、仍有此事、被奏事由、早可渡之由、頭中將下知云々、又東大寺聽衆依件事、不可渡之由、同有其聞、有宣旨下知綱所、已講勝還以下被渡也、

十日、未時許參殿下、白地坐高陽院、本月十三條參看給之間、御寺人々申文進覽之、

十一日、中次參一條殿、東御方白地可令渡、右大臣殿給爲御共參入之次、御

寺僧侶堅義申文廿餘通進覽了、

十七日、中略

公文從儀師從維摩會歸來談云、初日法會始間、寺中大衆競發、申云、三會定一之後、無執行別當被行例、引勘之處、全所不見也、就中無談、供別當堅義、并□舉之間事、甚以不便也、勅使辨□答云、長者殿件旨雖令申請給、別當法印至在院勅勘者、力不令及給也、雖然又大會不行甚不便也、仍雖無先例、所被行也、又東大寺與御寺大衆去月合戰之後、互不和平之間、東大寺聽衆不可渡之由、兼有其聞、仍被下宣旨之處、已講勝還、等之□八人無事渡了、□聖寶僧正

康和四年十月十日

六〇三

宣旨ニ依
リテ五師
子等ヲ渡
ス勝退精
義優妙

他寺探題

勅使房番
論義上座
衆徒ノ列
座ヲ答ム

別當ナキ
ニ依リテ
細殿舉ナ
シ

院勅勅ハ
左右ヲ論
ズ可カラ
ズ

忠實權寺
主維覺ヲ
召ス

康和四年十月十日

六〇四

五師子如意在東大寺東南院房初日不渡次日依宣旨渡了講師忠尊初
日持私如意登高座已講勝退精義優妙也專寺堅者懷尋覺嚴各極辨說第
三日無堅義第四日東大寺華嚴宗堅者一遂業權律師永緣專寺探題別當
法印
勅勒之間依爲他寺探
題之由被下長者宣也精義之間絕才學云々初日補闕請之間探題永緣與
綱所許行向勅使房可沙汰也而上座定深來此座欲預沙汰頗以奇怪也上
座不可行向事也又十五日勅使房番論義之事依有長者宣參會僧綱并探
題永緣許可沙汰也上座定深預此座仍從聽聞衆中有聲答之定深立座後
有番論義三番許云々大衆之咎頗有其理歟誠雖座當座上臈僧綱可勤之
由有長者宣仍智尊律師著行云々至細殿舉者無被舉事依無執行別當也
凡維摩大會無執行別當被行之例奇怪第一之由寺中古老輩成其訴云
々於有院勅勅者不可論左右世間莫言

廿八日早旦參右大臣殿執申御寺僧申文略未沙汰

〔類聚世要抄〕十月十日 維摩大會始事

同曆記云同四年十月十日大衆發於維摩堂有事云々

十三日維摩堂有事云々參下殿有事云々權寺主維覺依長者殿召上洛即來

云々

十五日大衆發起勅使有事云々維覺請仰下向云々

○右大臣忠實上座定深ヲシテ維摩會等ヲ執行セシムルコト八月二
十三日ノ條ニ東大興福兩寺衆徒ノ鬪爭スルコト九月三日ノ條ニ見
ユ

陣定ヲ行ヒ諸國條事及ビ前對馬守源義親黨類ノ罪名ヲ議ス

〔殿曆〕十月十日辛酉天晴略申剋許右大辨來依陣定被參內了

〔中右記〕八月十四日大夫史大宰府解狀等持參

十五日早旦雨下辰剋以後天晴略興福寺衆徒ノコトニ收ム酉剋許參內申
件旨有御返事略義親罪過事可申者略下

九月十九日略中晚頭爲御使參院略中資通

十月十日略中申時許參內略中略法勝寺大乘會僧侶定ノコト收ム次有陣定民
部卿俊明帥中納言季時藤中納言仲實源中納言國信右兵衛督能俊源宰相基左大辨基

諸國條事帥卿被申請廿三ヶ條雜事義親黨類罪名等事也予與左大辨或讀
或書互以勤之及子剋事了今夜宿侍

康和四年十月十日

六〇五

季仲申請
ノ二十三
箇條雜事
ヲ議ス

大宰府解
狀ヲ進ム

○義親ノ罪過等ヲ議スルコト、七月六日ノ條ニ、義親ヲ隱岐ニ流スコト、十二月二十八日ノ條ニ見ユ、

十三日、甲子右大臣忠實、故關白師實ノ室麗子ト共ニ、高陽院ニ移ル、是日、忠實、勸學院、施藥院ニ封各百戸ヲ寄ス、

修理ヲ始ム

〔殿曆〕十月三日、甲寅、天晴、辰（超脱カ）向高陽院、遷御後依吉日、爲始修理、所行向也、

四日、乙卯、天晴、卯時許向高陽院、見廻（中）未剋參（櫛子）枇杷殿、則退出、還家（中）向高陽院、行事定了、北政所御所西、余可居東對、四面垣可修理、親受領充了、來

修理ヲ受領ニ充ツ

十三日ニ可渡也、

六日、丁巳、天晴（中）來十三日可渡高陽院、其間沙汰、昨今日所尋也、

封戸奏

九日、庚申、天晴、卯剋許渡高陽院、見修理、酉剋許家還、

十日、辛酉、天晴、辰剋許渡高陽院、酉剋許參宮、頃之還家（中）民部丞實盛封戸奏同持來、則見了返給了、東對行事盛家遲參、二むねの行事重仲雅職早參、

十一日、壬戌、天晴、渡高陽院、酉剋許參宮、則退出、

十二日、癸亥、天晴、渡高陽院、酉剋還家、

十三日、甲子、天晴（中）卯剋許渡高陽院、酉剋許東三條、今日依吉日、施藥院并

移徙ノ儀

勸學院ニ寄封、使家司從五位下藤原朝臣盛房、戌剋許渡北政所并余高陽院、其儀北政所アシロ車、前駟衣冠十餘人、余又アシロ車、姫君女房相共同車、前駟十餘人許、爲隆朝（中）申文、年祈（中）家方文泰申之、入宮、

吉書

十四日、乙丑、天陰、雨下終日（中）猶雨降、渡後日次不宜、仍不出行、

念誦佛ヲ渡ス

十五日、丙寅、天晴、朝間暫陰（中）今日念珠佛、自此渡奉也、

移徙後初度出行

十七日、戊辰、天晴、渡高陽院後、依日次宜出行、先參院、次參內、依御物忌、不參御前、參宮御方、下宿所、夜中許見月、今夜月如鏡、

忠實以綱ノ亭ニ移ル

〔中右記〕八月廿一日、早旦參右大臣殿（中）十九日、從東三條、暫渡相模前、十月十日、未時許參殿下、白地坐高陽院給之間、御寺人々申文進覽之（中）本月

十一日（中）次參一條殿、東御方白地可令渡右大臣殿給、爲御共參入之次（中）及子剋許還給之後、歸參內、宿侍、

十三日（中）入夜參右大臣殿（中）以綱朝臣也、今夕初渡給高陽院也（中）亥時許寄御車（中）與女房同、殿下御直衣、前駟諸大夫衣冠、殿上人兩三人相加前駟（中）予扈從（中）著衣又

扈從ノ公卿殿上人

康和四年十月十四日

六〇八

吉書
忠實高陽
院ノ券文
ヲ受ケズ
ヲ移徙ノ儀
ヲ行ハズ

封物寄文

故大殿北政所殿從批同渡此高陽院給力新大納言經左兵衛督能右宰相中將忠敬直衣忠皆扈從殿上人三四人許前駟衣冠諸大夫十人同前駟右大臣被座東對給故大殿北政所御所寢殿西渡殿於東對南面方御覽吉書藏人大進爲隆申之許也又泰仲朝臣入家吉書於覽筥經御覽殿下談給云此高陽院券文未渡我許今夜移儀只北政所渡給御共之儀也仍無五葉黃牛反閑又所々饗饌事等後日追券文渡移寢殿之日如尋常移徙儀可有者但至吉書一通許者明日凶會也仍爲思内覽文今夕所覽也者尤可然歟及深更退出今日殿下御封物被寄奉勸學院并施藥院各百先仰敦基朝臣被作寄文清書檀紙加御判家司一人盛家肥後守筑給寄文行向勸學院有官別當院司等受取之寄文一通聊勸盃酌寄文一通又下家司一人行向施藥院云々

○高陽院ヨリ内裏ニ遷御アラセラル、コト、九月二十五日ノ條ニ見ユ、

十四日、右大臣忠實、文書ヲ内覽ス、

〔殿曆〕十月十四日、乙丑、天陰雨下終日、戊剋許頭辨來、内覽即退出、猶雨降、

略入夜頭辨來、内覽則退出、

十五日、丙寅、天晴、朝間暫陰、中酉剋許爲隆來、爲内覽也、則退出、

廿一日、壬申、天晴、不出行、中頭中將顯實朝臣内覽、

○十五日以後ノ内覽、便宜合致ス、

十五日、丙寅法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、若狹守平正盛ト、祭主大中臣親定トノ莊園爭論等ヲ内ニ奏セシメ給フ、

〔中右記〕十月十五日、未時許從院有召、國朝則馳參於北御所北面壺方、召

御前被仰事、可申内新立庄園事、七月二十一若狹守正盛與主親定相

論庄内事、中略忠實、左近衛大將ヲ辭スルコト、入夜歸洛、

十一月七日、中略午時許從院有召、則馳參、中則參鳥羽、中次從院令申御

事、若狹守正盛與大神宮神戶相論祭、六條院祭主親定朝臣付民部卿并顯季

朝臣、不爲神領之、申院也件事可申、件庄不可爲六條院領者、若爲院領并新

御願寺如何、隨勅定、中此旨可奏、中及深更歸洛之、中及亥時三剋歸參

内宿侍、

八日、御物忌間、早旦參御前、於二間方也、面奏院御返事并令申御旨、仰云、親定

六〇九

六條院領莊
ハ神領ニ
アハラズ
六條院領
ヲハ新領
又ハ新領
願寺ノ御
ナス

十九日、盜賊ノ横行甚シキニ依リ、右大臣忠實ニ命ジ、檢非違使及ビ諸陣ヲシテ、懈怠ナク勤仕セシム、

〔殿曆〕十月十九日、庚午、天晴、中戊剋許爲隆朝臣來、内御使也、仰云、世間盜

人極多、檢非違使又諸陣物儘可候之由仰了、又夜行人或募權門高家威、或寄

事於神民、不勤件役、如此事天下大亂也、可有沙汰、余申云、極能事候、可早沙汰

事也、爲隆退出、

○盜賊横行、放火ニ依リ、京中ノ不安ナルコト、本月六日ノ條ニ見ユ、

法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、天皇明年ノ御慎ノ御祈及ビ院中落書ノ狀

ヲ内ニ奏セシメ給フ、

〔中右記〕十月十九日、中未時許爲御使參院、令申行事、略○此次從院令申

御事、明年主上御慎能々御用心可其文云、佛法ハ以火可滅、王位ハ以軍可止、

其期十月十七、廿五、十一月五日也、但伊勢太神宮、八幡等爾可被祈者、若被祈

申者、主上御平安者、此事雖不可信受、落書之躰非凡人手跡、又不記世間人惡、

甚不得心、件旨可入夜歸洛、留五條、

廿日、辛未、中略○參内、略○次參御前、申昨日院御返事旨、十一月二十日ノ條參看、并落書等

夜警ノ者
勤仕セズ

落書ノ文

凡人ノ手
跡ニアラズ

御慎御祈
トシテ神
事ヲ行フ
ベシ

季御讀經
始御前僧
定ム

論義
永縁フシ
テ結番ヲ
定メシム

僧名定

事、

廿一日、爲御使參院、令申給事、落書事等聞食也、

十一月七日、中略宗忠、勅使トシテ鳥羽殿ニ參ル、明年御慎御祈能々可有

用心事也、但於佛事者、皆以被修、神事御祈尤可有歟、此旨可奏、如此之間、奉仰

之間、及他雜事、及深更歸洛之、

○御慎御祈トシテ、普賢延命法ヲ修スルコト、九月二十七日ノ條ニ、法

皇、御重厄等ノ祈禳ヲ天皇ニ勸メ給フコト、五年二月四日ノ條ニ見ユ、

二十日、辛未春季御讀經、

〔殿曆〕十月廿日、辛未、天晴、已剋許參著直衣參御前、頃之下宿所、今日季御讀

經始也、申剋許著束帶參殿上、酉剋許被定御前僧、内府定之云々、同剋許參諸

卿殿上次第如例、

廿二日、癸酉、天晴、中未剋許參内、今日季御讀經御論議日也、今日結番永縁

承之、定眞僧都、我可勤仕之由頻申也、雖然乍置探題、上藤僧綱の勤仕、ハル無

術、仍永縁承之、是探題故也、

〔中右記〕八月十六日、中今日有春季御讀經僧名定云々、權大納言家忠卿

被定申、

十月十七日、中略次藤大納言被定申春季御讀經僧名、源宰相書僧名、奏下之後、被下右中辨長忠朝臣、

御前僧ヲ定ム

廿日、辛未、中略今日季御讀經初也、内大臣以下公卿濟々參集、内大臣被定申御

行事

前僧廿口、僧綱多四人也、而今秉燭之程事始、右大臣殿從殿上、令加御前座給

結番僧綱ノ爭論アリ

内大臣以下候御前、帥中納言、并左大辨新宰相中將候南殿、戊刻事了、右中

辨長忠藏人知信

結番僧綱ノ爭論アリ

廿二日、中略後聞、今夕季御讀經御論義也、而結番僧綱二人、權少僧都定真、權

論義

律師永緣各相論定、真已爲上臈、永緣爲本寺探題、本月十日、彼是之間所論

論義

申也、被尋先例、被問參入僧綱等、上皇御時、於三條殿被行御齋會、内論義之日、

論義

維懷、永超共爲少僧都、維懷ハ上臈、永超爲探題、相論之間、故大殿依令申給、永

論義

超雖爲下臈、勤仕此役了、仍付件例、今日永緣可勤仕由、被仰下了者、頭辨與永

論義

緣於弓場殿結番之後、有御論義、

論義

一番、已講勝退、阿二番、延覺、共三番、覺、宗四番、深伊、忠五番、禪覺、行

及深更事了、

結願

廿三日、中略季御讀經晚景結願、藤大納言、新大納言以下諸卿七人候御前座、

結願

藤中納言、新宰相候南殿云々、

結願

〔長秋記〕日錄 康和四年秋冬別記 十月廿日、春季御讀經、大臣過間出居將平伏、

結願

權少僧都賢暹ヲシテ、熾盛光法ヲ仁壽殿ニ修セシム、是日、法皇、僧六口

結願

ヲシテ、御懺法ヲ鳥羽殿ニ行ハシメ給フ、

結願

〔殿曆〕十月廿七日、戊寅、天晴、參鳥羽院、御懺法始、日中未刻許退出、二位大納

結願

言經實、檢非違使別當宗通、帥季仲追參、左衛門督雅俊、下文

結願

〔中右記〕八月朔日、候内之間、未時許俄爲御使參入院、近召御前、御祈物事令

結願

申、能仲、孝清、盛則令申歸洛、

結願

九月六日、申刻許從内召、則馳參、爲御使參鳥羽殿、中略及深更歸參奏御返

結願

事、中略但仰云、明日又參院、經忠、能仲等事可申者、不能委記、

結願

七日、未刻許參鳥羽、召御前、申昨日御返事、經忠宅事、能仲御祈晚頭參内、又奏

結願

御返事之處、從明日長凶會也、早今日之中、能仲朝臣進御祈物解文、又相博

結願

之程如何、可尋申者、亥時許又參鳥羽、召御前、申件旨、仰云、早可仰遣民部卿許

結願

者、以消息遣仰、且又參内申御返事、及深更宿侍、

御祈物ノ沙汰

能仲ヲシテ御祈物ノ解文ヲ進メシム

八日、夜前民部卿返事到來、能仲事忽不可申左右間、能仲可申者、以件返事、以消息令申院了、

十日、略○中 午時許從院有召、馳參、召御前仰云、略○中 (雜也)阿波御祈事、略○中 可奏聞□、入夜參內宿侍、

十一日、朝參御前奏昨日院御旨、仰云、早參院可申、略○中 阿波事例進申時許參鳥羽、召御前申御返事、仰云、左右可在御定、

十五日、晚頭與頭中將同車參院、召北面、昨日內令申給事等、
御祈物事、御返事、經仲之十月御祈事、今月之內早御祈可被始、略○中

已上從內令申給、略○中
入夜歸參、申件事等退出、

十七日、己亥、天晴、略○中 此間院并內共有召、仍先參入院、爲御使四ヶ度往反、略○中 御祈物事、能仲下略、

十八日、略○中 入夜阿波守能仲御祈物解文、從內令獻給、內々奏覽、依仰給爲隆、今夕又宿侍、

十月廿日、辛未、略○中 今夜於仁壽殿、權少僧都賢暹率伴侶廿口被始熾光法、仍主

能仲御祈物解文ヲ奏覽ス
御所ニ渡

諸人内裏ヨリ院ニ參ル

御懺法衆給フ白衾ヲ

御懺法結願

慶朝顯宗學徒タルニ依リ賢暹之ヲ修ス

上渡御、以仁壽殿西方爲假御所、今夕院於鳥羽院北御所北對、以僧六口、被始行懺法、仍人々從內馳參者、

廿九日、略○中 入夜參鳥羽殿、逢院御懺法初夜時、(雜也)左衛門督以下公卿五人參仕、及深更於早列直廬宿侍、今夜風氣殊甚、

卅日、逢御懺法日中時、(經實)新大納言以下公卿六人、退下直廬休息、入夜又逢御懺法初夜時、藤大納言以下諸卿八人、祇候、事了後、懺法衆六人、三人三井寺、三人皆凡僧也、令誦俱舍涌六足議本文和讚等、及深更入興、有巡有引經、次給白衾於僧六人、取之授、夜半許歸洛、略○下

十一月四日、略○中 今朝院御懺法結願者、仍公卿濟々參入之由、(所カ)可傳聞也、

〔阿婆縛抄〕七十五 普賢延命法日記 康和四年九月廿七日、己酉、於仁壽殿被修普

賢延命御修法日記、
略○上 (普賢延命法)日中結願、同以廿日、於同殿令修熾盛光法、件記在別、

〔阿婆縛抄〕九十九 熾盛光法日記集 一 康和四年 壬午 十月十九日、於御仁壽殿被始熾盛光法、教王房座主閨梨賢暹僧都、件法天台座主所勤修也、而慶朝座主爲顯宗學徒、仍被行賢暹也、(賢暹被行カ)教圓、(金剛壽院)覺尋兩座主之時、他人奉修已、其例長曆三年、良圓僧

庚和四年十月二十日

六一八

能仲遷任
ノ功ヲ以
テ供米ヲ
進ム

都修此法之由見家記之由、頭中將所示也、今度更被申院者、伴僧廿口、供米別進、阿波守能仲朝臣遷任功也、初夜時還御清涼殿云々、已上爲隆記、
示勸被祭文云、大日本國皇帝諱、善仁、天變地天云々、

仁壽殿ノ
御裝束

經海記云、

開白ニ御
拜アリ

庚和四年十月廿日、辛未、於仁壽殿被始修熾盛光法、阿闍梨權少僧都、賢運、助修廿人、伴殿中間之北、懸御本尊曼荼羅、向南、前立大壇、々々東立護摩壇、塗息災爐、巽角立聖天壇、向西、坤角立十二天壇、向東、隨便宜耳、大壇等供具、如常、助修座席如延命法也、聞白之時、聖主臨幸、有御、阿闍梨登禮盤始行法、立供養之次、供蠟燭、供八十坏、其間助修誦諸天漢語讚、伴供了、護摩壇阿闍梨登禮盤、護摩十二天並聖天等令修行法、々々等、大阿闍梨下座、勤仕後、加持發願五大願、如常、後加持了還御、除御物忌之外、每初夜有臨幸、而依神事、卅日被遷壇所於里亭、爲御加持、藏人持參御衣、每時加持之、十一月十一日並三七ケ日也、被結願了、

後加持
入御
御物忌日
ノ外ハ每
夜臨御ア
リテ壇ニ
依所
ヲ里亭ニ
移ス
結願

作法如常、經海爲伴僧略注之、

助修

助修

靜仁法橋

林命阿闍梨

永意、

宗暹、

源覺、

宗俊大德

經海、

隆增、

院照、

靜豪、

覺珍、

殘十人中堂衆

忠圓大德

永助、

高心、

行秀、

睿覺、

等也、

○賢暹ヲシテ、普賢延命法ヲ仁壽殿ニ修セシムルコト、九月二十七日

ノ條ニ見ユ、

興福寺供養僧名及ビ日時定、

〔殿曆〕

十月廿日、辛未、天晴、○中今日山階寺供養日時僧名定申也、余定之、委

趣見裏、御讀經、○春季御讀經、了後、余著殿上、以頭中將顯實朝臣、奏可令定

興福寺僧名之由、頃之還來云、聞食了、余下從小板敷、經南殿御後著陣、先、內次

內大臣以下著座之後、渡外座、膝突もと、頭中將顯實下吉書、余これを結申、仰

詞如常、頭中將退了、其後余召官人、官候小庭、余仰云、右中、官人唯稱退、右

中辨進膝突、余下文、長忠結之、仰詞如常、則退了、次召長忠朝臣、則進、余仰云、興

福寺供養日時令勸申、彼則退了、頃之持來、余開見、明年正月廿日也、奏文置前、

庚和四年十月二十日

六一九

言書

日時例文
ヲ進メシム
宗忠僧名
ヲ書ス

忠實幡料
ルノ錦ヲ覽

康和四年十月二十日

六二〇

長忠則欲退間、余仰云、令進例文、則退了、史入筥例文持來、次宰相前、硯紙等
を置、其後余取例文開見、次可定僧名案、取天讀之、右大辨宗忠書之、僧綱已
講東大寺興福寺僧等書了、件案、賜右大辨、件辨進給之、退還、件案、なうよ
り、なちて、右大辨相共書了、續、右大辨進持來、余取文開見了、見年卷了置前、
辨則退了、次余取例文置前、日時僧名、入筥、次召頭辨奏之、頭辨還來下之、余
取筥置前、仰詞如常僧名、則退了、次召長忠下之、長忠結申則退了、余立座退出、
廿九日、庚辰、天晴、不出行、依吉日、興福寺供養定、爲隆朝臣書之、
十一月一日、壬午、天晴、今日不出行、中今日興福寺幡祈錦取出見之、泰仲朝
臣、清實朝臣擇之、
六日、丁亥、天晴、興福寺、乃見幡、然問數剋、略下
九日、庚寅、天陰、雪、午剋許天晴、未剋許爲隆來、興福寺供養間雜事申行、
十日、辛卯、天晴、陰、雪、降積庭、略中、右大辨來、依興福寺事相會、午剋許能遠來、興
福寺次官也、明日下之由申也、召前仰雜事、頃之退出、戊剋許權右中辨時範朝
臣來云、只今罷上、余答云、興福寺供養雜事如何、官行事所沙汰如何、不審也、委
趣明日來可沙汰者也、

木佛師料
物

忠實著陣

吉書ノ儀
ヲ行フ
陰陽寮勘
文ヲ進ム
例文ヲ進
メシム

僧三百口

十五日、丙申、天晴、略中、已剋許右大辨來、依山階寺事也

十六日、丁酉、天晴、辰剋許爲隆來、致山階寺沙汰、略中、酉剋許木佛師祈物事、高
聲間、極不便也、仍遣御厩了、殿力故御時、新御堂御佛御佛事也、放謂無極、万人側耳、
依不安預給馬舍人等、人々氣色極感氣無極、人々則退出、

〔中右記〕

十月廿日、辛未、略中、今日依爲吉日、興福寺供養時、僧名可被定也、仍右

大臣殿著陣座給、先件旨以爲隆被申院、次著端座給、請內大臣、藤大納言、公新大納
言、經實以下參議、顯實朝臣下申吉書、召右中辨長忠朝臣被下、是大內左仗座、爾
殿下初令著給、故先有此吉書也、內藏寮申請者次以官人召右中辨長忠、興福寺
供養日時令勘申者、長忠出陣腋、令陰陽寮勘申、兼令催勘文奉覽、右大臣殿、勘
文御覽了、便可奉例文之由被仰下、史二人參進、一人ハ例文筥奉、上卿前、件例
文、永承、十永承三年閏正月、治曆、十治曆三年二月、二山階、口供養僧名、并今日
可被請定僧夾名等也、殿下隨令讀給、予書之、四五十僧許、後下給僧名、令參議
二人書僧名、予并左大辨基綱書了、續一卷、予執之奉之上、入日時勘文、并僧名
於筥、令頭辨重資朝臣奏聞、則下給、以官人召辨長忠朝臣、召入下給日時勘文
僧名、正月廿二日、壬寅者、其後人々、亥時許歸幕、

康和四年十月二十日

六二一

康和四年十月二十日

六二二

廿七日、○中略、法勝寺大乘會ノコトニカ入夜程事了退出之次、參右大臣殿、及深更歸葦、

廿八日、早旦參右大臣殿、執申御寺僧申文、○本月十日且又相尋御寺供養事、未沙汰、

雜事定
定文ヲ書

廿九日、早旦參右大臣殿、今日興福寺供養間雜事、於殿下依可被定也、永承治曆於長者殿且又被定也、新大納言、(經)左兵衛督、(能)予宰相中將二人、(忠)家、著直

衣被參、於東對南面方被書定文、藏人中宮大進爲隆、(束)帶、書之、而永承例南圓堂長者被仰也、仍被入定文也、至今度者、講堂南大門長者作給之也、共可定文、(入殿)歟如何、人々相議云、至堂者依有堂庄殿、被入定、尤可然、南大門作事已了、供養

之日不可有別儀、仍不可被入者、仍講堂許今度被入了、又永承定文不被入御佛事人々、猶今度可被入也、是爲宗大事也、就中有別行事、尤可被入者、仍被入了、定文書了御覽、人々退出、○中左大臣被奏吉書奏云々、

十一月朔日、早旦參內、○中而參右大臣殿、執申御寺供養雜事、晚頭退出、五日、○中、午時許白地參殿下、見興福寺所進舊幡百八十二流、

佛師頼助
寺家舊幡
ヲ進ム

七日、御寺佛師頼助來、佛修理不可懈怠由仰含了、金廿兩從殿下此夜半許下

供養ノ所
課

給由所申也、仍只今下向奈良者、

八日、○中、晚頭參右大臣殿、被仰山階寺供養雜事之次、內々可奏事、山階寺供養付永承治曆例、所課欲宛諸國之處、多以院殿上人也、頗有憚、只任何可宛歟、不然者任近代例、重延任受領可宛給歟、兩條之間可隨勅定者、入夜歸葦、

十日、○中、參院之次、參殿下、申御寺供養雜事、

十二日、晚頭參殿下、申御寺供養雜事、爲御使參內、申諸國所課事、頃頭歸參殿(下殿力)申內仰旨退出、

十五日、早旦從內退出之次、參殿下、申御寺供養雜事、午時許歸家、

廿日、○中、次參殿下、申御寺供養間雜事、晚頭退出、

〔長秋記〕康和四年秋冬別記 十月廿日、○中、興福寺供養僧名、

〔局中寶〕內覽後令奉行公事給例

知、足、院、殿、康和元年八月廿八日、元覽、二年七月廿七日、

十月廿日、右大臣著仗座、內大臣以下同參入、下申吉書、次被定興福寺供養日時僧名、

○興福寺造作始ノコト、元年十月二十六日ノ條ニ、宗忠、造作ヲ巡檢ス

康和四年十月二十日

六二三

康和四年十月二十一日 二十三日

六二四

ルコト、本年十二月十四日ノ條ニ、造立供養ノコト、五年七月二十五日ノ條ニ見ユ、

二十一日、申、壬法皇、右大辨藤原宗忠ヲ内裏ニ遣シテ、天台法文ノ御學習及ビ御物ヲ別倉ニ收藏スベキ旨ヲ奏セシメ給フ、

天台ノ六卷ノ内裏ノ火事ノ慎

〔中右記〕十月廿一日、爲御使參院、○中其次令申給事、天台六十卷前日依召進上了、而近日令學件文給由承之、世之人或有不愛輩、是主上殊不令學法文給之故也、件旨可奏者、又御物等常可令置別倉中給事也、内裏火事之慎從昔所恐也、件兩條可奏之由、有其仰、入夜歸家暫休息後參内、御寢以後也、

天台御學ノ佳例

廿二日、早旦參御前、申昨日院仰旨、又御氣色云、至天台六十卷見給者、不可有其憚、其故、昔寬平御時、於仁壽殿令受灌頂、又前一條院御時、令學此六十卷給、皆以吉例也、仍不可有憚事也、又御物可被置別倉事尤可然者、○中未時許退出休息、

廿三日、早旦參入院、頃而召御前、申昨日仰旨、一々承了者、

二十三日、甲、戊法皇、右大辨藤原宗忠ヲ内裏ニ遣シテ、後三條天皇御記ヲ獻ゼシメ給フ、

祕書衣リタルヲ放シ給フニハ、類聚ノ御目録一卷

〔中右記〕十月廿三日、早旦參入院、頃而召御前、○中今日吉日也、後三條院御記可持參、年來早雖可進覽、依爲我身祕書不放手、但後朱雀院御記、（後三條院御記）故院早不給我、是定吉例也、依彼例思出、于今遲々之由可申者、但此記ハ類聚也、合廿卷入塗手筥一合、付御封、廿卷外目錄一卷、（年中行事四卷、臨時九卷、神事二卷、佛事五卷、至本書者、猶留院敷、申時許從院歸參内給間入車、入夜參御前、且奉御記、且申御返事、今夕宿侍、）

法皇忠實ヲシテ御實記ヲ部類メ給フセシメ類

〔中外抄〕仁平元年七月六日、祇候御前、（高陽院土御門御所、左大臣殿令參給、御物語之次、仰云、白河院先年ニ後三條院の御記ヲ我ニ下給、仰云、可部類也、一本可書進、仍メノマヘニシテ、如仰書進了、帝王事ハ、件御記委見タリ、中ニモ解齋粥事委見タリ、除目敍位事ハ、少々僻事アリ、其由故院ニ申了、一本書取□思シカトモ、無便カリシカハ、不書寫、是依有恐也、）

二十四日、乙、亥法勝寺大乘會、

〔殿曆〕十月十日、辛酉、天晴、○中申剋許頭、（宋隆カ）同剋許又來云、法勝寺大乘會僧名

持來、

廿四日、乙亥、天晴、今日法勝寺大乘會始也、三井寺禪師（仁德）講師、仍職事諸大夫殿上人等所催送也、

講師仁證

僧名

康和四年十月二十四日

六二五

結願

康和四年十月二十四日

六二六

僧名定

廿八日、己卯、天晴、頃之陰、申剋許參法勝寺、大乘會了也、酉剋許召辨重資令打鐘、始了朝座間、上卿民部卿被參、藤大納言、二位大納言、左兵衛督、源中納言、藤中納言、右大辨、源宰相、右宰相中將、左宰相中將等也、

〔中右記〕十月十日、○中申時許參內、民部卿參仗座、被定申大乘會僧名、
書之、付頭辨奏聞之後被下、依有□不勘日時也、

五卷日
公卿以下
行道

廿四日、○中今日法勝寺大乘會初日也、講師仁證、故大殿禪師君、菌城寺人也、廿七日、參法勝寺、今日大乘會五卷日也、內大臣以下公卿七八人許參來、夕座散花之間、公卿以下取捧物、行道、一廻、入夜程事了、

行香

廿八日、早旦參右大臣殿、○中晚頭右大臣殿令參法勝寺給、與兩宰相中將相共扈從、大乘會結願也、上卿民部卿遲□之間、且以始朝座、事了夕座、諸僧引列登、講師讀師登之後有舞、左右□二曲講了□後有行香、
布施、□入夜退出、

〔僧綱補任〕
○興福寺本 講師仁證 天台宗、園城寺、故大殿下息、

〔東寺文書〕
○甲號外三 山城 天台二會講師次第

仁證 同四、

勘當ノコ
トヲ院ニ
奏セシム
法皇停任
スベキコ
シメ給フ

二十七日、寅無科ノ者ヲ凌礫セル罪ニ依リ、檢非違使左衛門尉藤原盛重ヲ停任ス、

〔中右記〕十月十九日、○中未時許爲御使參院、令申行事、
廿一日、爲御使參院令申給事、○中盛重事不可然而止者、
可被尋者、

廿二日、早旦參御前、申昨日院仰旨、又御氣色云、○中盛重一定可所罪科者、此事等明日許參院可申者、未時許退出、休息、
廿三日、早旦參入院、頃而召御前、申昨日仰旨、一々承了者、○中又院令申給事、世間人處分訴、慥可令沙汰御者、
廿七日、○中

長忠ノ牛
飼童ヲ依
ルニ依

二十九日、庚辰、官奏、

〔殿曆〕十月廿九日、庚辰、天晴、不出行、○中今日物忌也、雖關門戶、今日官奏、吉書左府候之、頭辨重資朝臣持來、著直衣冠等、

吉書

康和四年十月二十七日 二十九日

六二七

康和四年十月二十九日

〔中右記〕十月廿九日、○中頭辨重資朝臣爲官奏内覽、於對南面御覽、左大臣被奏吉書奏云々、

十一月壬午朔盡

一日、壬午右大臣忠實、平野社遷宮日時ノ文書ヲ内覽ス、

〔殿曆〕十一月一日、壬午、天晴、今日不出行、○中酉剋許頭辨重資朝臣平野社

遷宮日時（持脱力）來、則退出、

三日、甲申、天晴、頭辨來、内覽、依物忌不對面、大事（は）、雖外人不忌、藏人知信來、

七瀬御祓請奏也、仰可早奏之由、

十一日、壬辰、天晴、雪降、○中（申）同剋許頭中將顯實朝臣、内覽（來脱力）、○中頭辨重資朝臣

來、内覽、不會即退出、

十六日、丁酉、天晴、○中（外）記定重爲内覽來、

○三日以後、忠實、文書内覽ノコト、便宜合敘ス、平野社遷宮及ビ七瀬御

祓ヲ行フコト詳ナラズ、

三日、申春日祭、平野祭、

〔殿曆〕十一月二日、癸未、天晴、今日春日祭使立也、出東川立奉幣、（大炊）御著東

帶、乘尻於門外騎馬、使家清於川原乘尻一人落馬、奉幣歸、○中（舞）人下かさね

以侍送了、使宗輔、雖然代官、中宮使宗佐、（大進）也、

康和四年十一月一日 三日

七瀬御祓
請奏内覽

忠實春日
社奉幣

春日祭使

康和四年十一月四日

六三〇

三日、甲申、天晴、○中酉剋沐浴、依春日祭也、

〔中右記〕十一月二日、春日祭使此新中將也、依所勞申代官、舞人陪膳裝束并（從之）

饗祿、以府生武近送本府、舞人下襲、（右大）陪從裝束、（右大）摺袴、（殿上）饗卅前、（右衛門）

祿絹、揮頭花等、（本家）代官民部大夫俊基語付了、中宮使亮師隆俄申障、仍大夫

進宗佐勤之云々、

三日、早旦參内、依女房陪膳也、終日祇候、平野祭御禊、陪膳頭中將（顯實）、役供藏

人大進爲隆也、（先供御贖物之後、進御笏如何、古儀）帥中納言奏宣命後、給使中務

大輔家光、（於殿上）酉時許事了、

〔春日祭歷名部類〕

同年十一月三日、甲申、祭

近衛使右中將宗輔朝臣 中宮使宗佐

四日、乙酉、梅宮祭、

〔殿曆〕十一月四日、乙酉、天晴、時々陰、雨降、依物忌神馬十列、乘尻使等自夜前

籠也、使家俊、（右衛門尉）陪膳重仲朝臣、行事勾當長隆、於對南面立幣、依物忌乘尻自

馬場門、使同上卿宰相中將忠教、

使所勞ニ依リ代官ヲ申ス

中宮使障ヲ申ス

平野祭御禊

同祭使

忠實神馬十列ヲ獻ズ

上卿

待賢門前ニ於テ、瀧口等、盜賊ヲ追捕ス、

〔中右記〕十一月四日、○中

今夜藏人少將顯國、入宿物袋於待賢門前爲盜被奪取了、而伴盜於彼門前

則爲瀧口并廳下部（被奪力）擲取之也、兩人相論未決、仍遣別當許了、盜是藤大納言

侍男云々、不承伏者、

五日、丙戌、御惱、

〔中右記〕十一月五日、終日勤女房陪膳、入夜間主上暫御風令發御、仍人々濟

々參集、今夜又宿侍、

六日、終日候内、御風指事不御、仍晚頭退出、

〔殿曆〕十一月六日、丁亥、天晴、○中戌剋許參内、御風氣并御咳氣御也、依今夜

候御前、午剋許下宿所、未剋許參御前、戌剋許下宿所、侍宿、

七日、戊子、巳剋許退出、

〔中右記〕十一月七日、○中午時許從内有召、則馳參、今朝御物忌也、○中及亥

時三剋歸參内、宿侍、

康和四年十一月五日、七日

六三一

瀧口等功ヲ争フ

御風諸人奉伺ス

御咳氣忠實伺候ス

事

〔中右記〕十一月八日、略中

今日右大臣殿御倚子二脚被立官外記廳、先勘日時於木工寮令作之、戊剋被立、家司通國朝臣爲彼使、

九日、庚寅圓宗寺結緣灌頂、

法皇公卿等ヲ參入フセシメ給

〔中右記〕十一月九日、庚寅○又圓宗寺灌頂堂被行結緣灌頂、公卿殿上人自院依被候、細カ參入彼寺云々、今日有障不出仕、

法皇、僧六口ヲシテ、理趣三昧ヲ鳥羽殿ニ修セシメ給フ、

東寺僧綱三人

〔中右記〕十一月九日、庚寅院於鳥羽北御所、囀六口僧侶、被行理趣三昧、此中僧綱寺人、皆東人々參入云々、

十日、略○中晚頭參院、理趣三昧初夜被行之間也、家也權大納言、左衛門督、雅也右衛門督、宗也祇候、略○中依及深更、宿侍鳥羽前甲列許、

十一日、卯時許又逢理趣三昧後夜時、

廿二日、早旦參鳥羽殿、日者所被修之理趣三昧、依有結願也、俗也民部卿藤大納言、右衛門督、宗也帥中納言、源相公、顯也左大辨、以六口僧侶、二七ケ日間所被修也、未時許

結願

被物布施

事了、給被物布施等、權少僧都覺意、權律師寬助、法橋嚴覺、阿闍梨三人、忠家、寬智、永深、

〔御室相承記〕中御室

被行理趣三昧事

顯也同四年十一月九日、庚寅於鳥羽殿北對被行之、顯也覺意僧都、顯也寬助律師、顯也嚴覺法橋、顯也大法師忠緣、顯也寬智、顯也永尋參勤之、

廿二日、癸卯、滿二七日結願、顯也每時御室御參、

前女御藤原道子、丈六阿彌陀佛ヲ造立シ、妙法蓮華經等ヲ書寫シテ、之ヲ供養ス、

覺行法親王每時御參

〔江都督納言願文集〕二 同女御丈六堂

前女御藤原朝臣道子家

奉造立丈六皆金色阿彌陀如來像一軀、

奉書寫色紙妙法蓮花經四部卅二卷、无量義觀音賢阿彌陀般若心經等經各四卷、

大般若涅槃經一部卅卷、

奉摸寫素紙妙法蓮花經三部廿四卷、開結經各三卷、

康和四年十一月九日

匡房願文ヲ草ス

雙親及
齋宮善子
內親王ノ
爲メニ祈
ル

右奉仰俯、伏惟、春風秋月、百年之半漸過、翠帳紅闥、一生之期非幾、懸望於日想、水想之觀、年不我與、馳思於上品上生之迎、淚逐日深、況亦朽宅是厭、准三宮而無益、蓮臺爲志、重茅土而何爲、是以捨阿堵於且千、瑩良金於丈六、雖未畢松門巧、猶且致蘭閣之誠、冬之仲月、々々之九朝、便囑七口之苾芻、聊設一日之供養、難忘者膝下之席、何日再逢慈悲之容、所恃者掌上之珠、萬歲將全、畔胎之體、因茲先分兩部、奉資雙親、賡以一部奉祈公主（善子內親王）、久隨神道蒸嘗之禮、暫忘佛法真如之理、然猶本覺月淨、遂歸三明之空、自性蓮香、何隔一實之水、重請以此功德、奉廻施金輪聖王禪定仙院、鳳掖風姑射雪潔、龍官鳴紀之名、返俗於彼、參天兩地之化、崇道於斯、千官百僚、五畿七道、薰修有隣、廻向不限、於戲班艘、好霜扇之詞、未銷一劫之焰、楊貴妃雪衣之興、豈免八寒之冰、乃至地下之地、悉生天上之天者、家臣奉仰、供養如件、敬白、

康和四年十一月九日

別當侍從々四位上藤原（朝親力）宗信

○齋宮善子內親王ノ御不例ニ依リテ、大神宮ニ奉幣スルコト、永長元年九月十一日ノ條ニ見ユ、

十一日、壬辰、齋院御神樂、

當月ノ妊
者ヲ懼
ラズ

〔長秋記〕

目錄 康和四年秋冬別記

十一月十一日、齋院御神樂、不憚當月妊者、

十四日、乙未、京官除目、

〔公卿補任〕

九

非參議從三位源道良三、五、大藏卿、但馬權守、十一月十四日兼大宮權大夫、

源顯仲四、五、十一月十四日、遷左京大夫、

〔公卿補任〕

十一、久安五年

參議正四位下藤資信六、八、十、十一月十四日、敍爵、

〔殿曆〕

十一月九日、庚寅、天陰雪、午剋許天晴、○中、除書文書等取出見、沙汰ル也、

初夜ノ儀

關官奏
三省ヲ任
ズ

十二日、癸巳、天晴、○中、戌剋許參內、明日依物忌也、物忌間可候內、明日除書也、十三日、甲午、天晴、巳剋許參御前、午剋許下宿所、戌剋許著束帶參御前、除目儀如常、委趣見裏、今夜除目也、余有殿上、許也、小臺盤、藏人知信召、左府、（後房）、內府相共參弓場殿、諸卿等同、左府、內府著殿上、須之左府被參御前、次余同、內府又同、次宮文、（假名）、硯（假名）、次宮右衛門督宗通、次主上召余、其詞、コナ、余稱唯、經子敷昇自額間、著橫圓座、取御氣色、余召左府、其詞、イ未チ於乎、左府稱唯、著圓座、次余又召內府、同著圓座、次被奏關官、次被繆大間、被任三省、其次第、先式部、次民部、被任三省後、被奏

院宮御申
文ヲ奏ス
公卿給

藤井宿禰
ヲ朝臣ト
注セルニ
依リテ任
ゼズ

第二夜ノ
儀
大炊助ヲ
任ズ

申文目錄
ト相違ス

檢非違使
ヲ補ス

慶賀ノ人
々々

院宮御申文事、參議宰相中將忠教ハ召シテ被仰之、則退了、此間三省殘ハ被任、此間自御前下給申文、余取之置前、次余取公卿給授左府、此間持參ハ宮御申文、左府取之置前、左府公卿給ハ注袖書、召參議家政給之、則退出、令勸、頃之持參二通也、其中一通誤文也、仍不被任、件文ニ藤井ハ宿禰也、而注朝臣、仍不任、今一通任之、次卷大間、各退出、成文一通也、大間成文各結中、引墨返上、其後余返上申文退了、

十四日、乙未、天晴、戊剋許參御前、頃之除儀始、其儀如夜前、參議家政所夜部下給公卿未持參、藏人盛季任大炊助、件尻付文章生、件尻付可尋、除目戊剋許始、著圓座儀如夜部、內大臣今夜不被參、結成文儀不解、昨日結緒、今夜以別結緒結之、昨日成文一通頗不便事也、擇申文、頭等極別樣也、擇入ハ申文ト目錄ト相違、是又不便事也、不知案內歟、事了召清書上卿賜之、宿德大臣、如余退、經南殿後下宿所、於石灰壇程、召頭辨重資朝臣、仰檢非違使宣旨事、藏人ハ則退下、

十六日、丁酉、天晴、略、中、午剋許時範來、大宮權大夫依慶賀來、稱退出不會、職事知實申之、申慶賀人々、上下一兩來、略、中、申剋許頭中將顯實朝臣來、可今日下

下名

始
議所ニ著
スベキノ
議

名候ハや候らん、從民部卿許申文二通所送也、余答云、今日下名之由未聞、誰人說哉、顯實朝臣云、未承、只從彼卿許所申文也、依無別事不會、退出、

〔中右記〕

十一月十三日、甲午、晚頭參、今日秋除目初也、左大臣、內大臣以下

公卿皆參集仗座、左大臣命云、可著議所歟如何、民部卿被申云、近代秋除目必不被著歟、但被相尋之處、議所不裝束、又奇怪也、假雖可著、於今者何爲哉、戊剋許藏人平知信出仗座、召公卿、左大臣以下指次、以官人召外記、大外記師遠著、軾、宮文可候之由被仰下、外記三人入從宣仁門、欲出小庭南、左大臣仰云、入從日華門、可立軒廊南也、仍被追入、頃而外記三人入從日華門、列立宜陽殿西壇下、軒廊南ハ北、次左大臣出從軒廊西二間南殿階下、立射殿北廊西二間、南、內大臣立次東間、前也、大納言以下列立射殿東砌內、西、參議列立同南砌、上、北、左大臣、內大臣參上、右大臣於殿、民部卿、後、權大納言、家、右衛門督、取宮文、ハ青瓊門參上、西、邊參上者、障子、次、二人々參上御前座後、先召右大臣、次左大臣、次內大臣進居御前座、除目始也、上官等候孔雀間、子剋許事了、今夜宿侍、十四日、終日勤女房陪膳、辰剋許除目入眼、上皇從鳥羽御幸高松云々、民部卿爲御使往反院、戊剋左大臣以下參仗座、內府、不藏人源盛季出仗座、召公卿、如

入眼
俊明勅使
ニトシテ
參ル

康和四年十一月十四日

六四〇

任人二十
人ニ過ギ
ズ

法皇還御

下名

明法舉

夜前列立射庭、權大納言、新大納言、予取宮文參上、中納言六人參入、而皆不被^(取脱力)筥文、及予頗以奇怪也、參議殊不勤此事、歟、除目始雨夜也、間無^(之方)依文書不具也、子剋許除目了、於御前召清書、上卿^{源中納言}參上給大間、於殿上人々先披見大間、内外官任人僅廿人許、無別事歟、但文章生藏人盛季任大炊助、仍又無文章生給官、藏人右衛門尉源惟兼可爲檢非使^(源惟兼)之由、被仰下^(是盛也)、除目間院還御鳥羽云々、清書上卿源中納言、國右宰相中將、

十六日、^中及深更付寢之後、月倚半之程、召使來催云、今夜猶仰除目下名所被行也、上卿帥^(余也)中納言已被參任、早可馳參者、則馳參仗座、上卿著端座令敷、^{本定}外記令進下名、清書等入筥持參、又仰外記令進硯筥、令置參議座前、上卿氣色予進寄下除目云、式部權少丞重兼、^{可制}采女正盛親、^{本侍醫也}隨上卿命、或削權字、或又付兼字、奉上卿、々々入筥、令持外記、出從軒廊東二間、經階下進弓場殿奏聞、了歸著本座、外記進除目、仰外記令召二省、式部丞宗光、兵部丞佐實、^{入從宣仁}上卿宣式ノ省、^{給下}兵ノ省、^{又給下名}共立小庭、上卿宣云、未計給、稱唯退出、又召外記、入除目於筥給之、次命云、削權字、付兼字事、可申左大臣、又依明法舉任錄者、尻付大間之中算舉、^{注也}、早明法舉、^{可被直之由}、可申左府、

檢非違使
官符請印
除目作法

執筆

件三ヶ條、上卿先在外記稱唯、持筥暫立小庭、又召他外記令撤硯筥、後上卿辨與座間、所被仰下也、外記稱唯、持筥暫立小庭、又召他外記令撤硯筥、後上卿辨下官辨少納言、上官等相具、^天出於敷政門、經庭中^{是晴政}、并左兵衛、左衛門陣、入結政、於廳西庇著深杳、共付廳如例、外記從上卿座下、置除目於前、取筥歸了、上卿召々使二音、^{立聽北稱唯}上卿宣了召成、之後少納言實行、權左中辨時範朝臣、式部輔代行仲等參入、一列、二省丞以下一列、上卿召辨少納言輔代、著前床子、二省丞以下著壁下床子、上卿召輔代給除目、又召兵部輔代給除目、^{輔代}參入、仍相兼、^{奇怪也}、輔代除目下二省、二省丞仰可置版之由、二省讀上除目之間、任人及三四人之程、上卿以下起座退出、于時及鷄鳴、

中山抄

五位藏人居執筆大臣火櫃衝重例^中

康和四年十一月十三日、先居火櫃、次居衝重、^{予取之、進殿下前之處、令讓左府給、仍居之、○魚魯愚別錄同、}〔敍位除目執筆抄〕康和四十一十三京官、^{十四日}執筆左大臣俊房、

〔除目大成抄〕^十

康和四年十一月十四日

六四一

康和四年十一月十五日

六四二

公卿年給
申文

内舍人正六位上藤原朝臣資定權大納言藤原朝臣家當年給二分代

可勘給否件卿當年給二分代未補

正六位上藤原藤原朝臣資定

望内舍人

右當年給二分代所請如件

康和四年十一月十三日

正二位行權大納言藤原朝臣家忠

法皇、鳥羽殿ヨリ、高松殿ニ御幸アラセラル

〔中右記〕十一月十四日○中略除日ノ上皇從鳥羽御幸高松云々、

十五日中丙吉田祭

〔殿曆〕十一月十五日丙申天晴、辰剋許退出、不參御前○中申剋許出河原立

奉幣十列、上野守敦基陪膳、使進士周衡、行事齋院次官師隆○中吉田祭上卿

右衛門督宗通、辨藤原朝臣俊信、外記定重持來吉田見參、

十六日丁酉天晴○中外記定重爲内覽來○十四日其次仰云、昨日會參諸大

夫極少、注子細可言上、則注子細獻之○下

〔中右記〕十一月十五日○中奉幣吉田祭也

忠實奉幣
上卿

諸大夫ノ
參會少シ

十七日戊戌前齋院令子内親王、禁中ニ移ラセ給フ、尋デ、弘徽殿ヲ御所トナシ給フ、

〔殿曆〕十一月九日、庚寅、天陰雪○中申剋許從先齋院有佐來、夜前御返事也、

○中來十七日、先齋院入内、
十五日丙申天晴○中今夜北政所渡御齋院、密々儀也、

十七日戊戌天晴○中戊剋許參前齋院、同剋許令入内給、上達部東帶、余同之、

殿上人同、殿上人以下前駟、御車從院令獻給、

〔中右記〕十一月七日○中午時許從内有召、則馳參、今朝御物忌也、仍於後涼

殿方、付因幡内侍參入由令奏之處、可參院者○中又以詞被仰事、五節之間、前

齋院入内給、如形諸事具了、但女房十二人裳并御帳帷已以闕怠、欲召院殿上

受領如何、可隨仰由、可申院旨、以因幡内侍被仰、則參鳥羽、秉燭之間、於北壺方

見參之次、申内仰旨、御返事云○中又御帳帷、女房裳等、召殿上受領何事有哉、

但從内密々可召也、

八日○中從右大臣殿、御調度一具被奉前齋院、使有佐朝臣、是故大殿此調度

可奉之由、已有遺教、五節之間、可入御内者、仍所獻上也者、

康和四年十一月十七日

六四三

麗子令子
内親王御
方ニ候ス

御車ヲ院
ヨリ賜フ

女房ノ装
束等ヲ院
殿上ノ受
領ニ徴ス

忠實調度
ヲ奉ル
師實ノ遺
教ニ依ル

齋院御退
下後國信
シ給フ御
院ノ御車
ヲ用ヒ給
フ車宣下
御後見有
佐

康和四年十一月十九日

六四四

十七日、戊戌○今夜前齋院令入禁中給、是今上同產姉也、退齋○康和元年六月十九日ノ條參給之後、年來御源中納言五條坊門東洞院家也、右大臣殿（兼實）內大臣、民部卿以下一家公卿皆帶扈從、院內兩方殿上人前驅、諸大夫同以前驅、被用院御車云々、於北陣朔平門前、藏人大學、重隆（前親之）仰輦車宣旨、以弘徽殿爲御所、紀伊守有佐朝臣沙汰萬事、爲齋院御後見之故歟、下官依無其召、不見件事、○中御調度等從右大臣殿被奉、

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記

十一月十七日、前齋院入内、受領獻女房裝束、仰手車儀、

○令子内親王、藤原經忠ノ第ヲ御所トセラレントスルコト、九月十二日ノ條ニ、弘徽殿ニ渡御ノコト、本月二十日ノ條ニ、内親王、經忠ノ第ニ遷御ノコト、五年七月二十六日ノ條ニ見ユ、

十九日、庚子、大原野祭、

〔殿曆〕十一月十九日、庚子、不出行、大原野祭、余依物忌、不出行、川原、於南面立之、使遠仲（大）學、陪膳重仲、行事家遠（勾當）、

〔中右記〕

十一月十九日、未明召使來催云、今日大原野祭分配上卿有他（殿院之）氏上

分配上卿
故障

宗忠社頭
ニ參向ス

氏長者奉
納ノ神馬

土佐守盛
實辭退ス

備後守行
實辭退ス

帳臺試

忠實威德
ヲ具シテ
參内ス

二十日、辛丑、五節、

卿皆以申所勞由、慥可參勤由、藏人知信仰下之旨、新外記催也者、且是神事且又公事、申承了由、忽次出立、牽替牛共人相求、午許出洛、申剋許參著社頭、左少辨顯隆、掌侍（周防）氏人敦憲以下六人（殿下家司相加之）外記定重、史兼時參著、次第如恆、但依爲子日、夜前卜祝師一獻後令開、二獻、汁物、三獻了、長者殿家司互勸盃、次々事等如例、長者殿神馬來之、秉燭之間事了、亥剋許歸葦、

〔殿曆〕

八月廿七日、己卯、天晴、○中未剋許頭中將來云、夜部五節事如何、備後守行實所申、非莫謂其（兵部方）、土佐國有何事哉、余云、自本彼國守盛實辭退、件事能可

被尋者也、亦余尋（天）可案内、彼中將退出、

廿八日、庚辰、天晴、○中齋院候間、頭中將顯實朝臣來云、備後守行實依身所勞

并妻重服、辭退五節者、誰人可勤仕哉、余申云、只有御定、十一月廿日、辛丑、雖物忌參内、○中今夜五節參也、帳代試也、余著出掛候御共、

上達部一兩也、（雅實）内府等也、事了則退出、

廿一日、壬寅、天晴、已剋許參内、相共威德、暫後退出、

廿二日、癸卯、天陰、雨不降、未剋許參内、余裝束もえまのおりもの、たし支ぬ、

康和四年十一月二十日

六四五

忠實内親
王御方ニ
候ス
兩内親王
昇リ給フ
忠實廣庇
ニ候ス

童女ヲ進
ムル人々

舞姫參入
帳臺ニ出
御

散樂

殿上淵醉

中宮淵醉

朗詠

紅梅よをぬきぬえひそめのおりも此よりさしぬえ先參前齋院御方次參
御所次前齋院昇給いしゐの壇方御座次中宮昇給次候上達部御前次童
參進余於廣廂召頭中將顯實朝臣仰可參人々之由内府以下參進余候廣廂
依仰也攝政關白多被候御簾中雖然余ひめのよめこ不候御簾中江中納言
不進童受領三人進土佐守盛實出雲守忠清但馬守仲章等也右宰相中將顯雅朝臣辭退代但馬
守仲章也威德相共參會公卿内府雅實權大納言家忠藤大納言公實左衛門
督雅俊源中納言國信等也下宿所

〔中右記〕

十一月廿日、○中五節參入土佐守盛實并江中納言舞姫如例參入有

帳臺御出右大臣内大臣權大納言二人家忠公實左衛門督雅俊被參仕殿上人卅
人許祇候散樂之又是恆例事歟

廿一日未刻許依召參内是可候中宮御方之由依有御氣色也申刻許權大納
言家新大納言經實左衛門督雅權大夫能源中納言國宰相中將三人通顯雅左
京大夫顯仲皆著直衣參集頃而殿上淵醉事了雲客卅人許群參宮御方聊有
盃酌已三獻勸盃一獻右少將師時朝臣二獻右中將宗輔朝臣三獻頭中將顯
實朝臣朗詠之後及散樂頭中將勸盃頗不得心事歟饗應殿上人之義也爲藏

公卿殿上
人弘徽殿
ニ渡ル

御前試

童女御覽

再度渡御

忠實以下
供奉

人頭何還可勸盃哉但爲本宮侍職事之故歟次公卿殿上人皆以渡參前齋院
御方弘徽殿又以朗詠又散樂一獻師親朝臣二獻實隆朝臣三獻俊忠朝臣四
獻宗信朝臣五獻頭辨重資朝臣已及夜景事了分散今夜有御前試

廿二日、○中晚頭有童御覽云々右大臣内大臣權大納言家藤大納言公左衛
門督雅源中納言國候御前江中納言不進童土左童侍從實明兵出雲輔家光

少納言但馬兵衛佐能明及秉燭事了

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記 十一月廿一日五節
十二日童御覽

令子内親王御所弘徽殿ニ渡御アラセラル

〔殿曆〕十一月廿日辛丑雖物忌參内依吉日主上渡御前齋院御方其御共料
也

廿六日丁未天晴午刻許參御前酉刻許渡御齋院御方余候御共戌刻許還御

〔中右記〕

十一月廿日早旦參内中入夜之間主上渡御前齋院御方弘徽殿
右大臣内大臣被候直衣殿上人東帶扈從云々

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記 十一月十七日中主上渡御弘徽殿御劍持

依私要相替事

○令子内親王禁中ニ入り給フコト、本月十七日ノ條ニ、内親王御所弘徽殿ニテ、舞樂御覽ノコト、本月二十九日ノ條ニ見ユ、

二十二日、卯新嘗祭、尋デ、供物ノ違例ニ依リテ、膳部ニ過狀ヲ進メシム、

〔殿曆〕十一月廿二日、癸卯、天陰、雨不降、略○中、戊剋許著束帶參御前、次著殿上、

同時令著御裝束給、帛御次出御、其儀如、余取御衣尻、候御共、渡御南殿後則退、還經月華門、著大忌、アクノマ中院ノ門ニ入給間、余參御共、下御後、余未申角

の戸内ニゐたり、是前例也、不著小忌、還御以前ニ退出、明日依固物忌也、

十二月十二日、壬戌、天晴、略○中、未剋許參鳥羽殿、其間頭中將顯實朝臣來云、去

十一月新嘗會、中院行幸之夜、供神物相違、仍伴膳部等召過狀所送也、頃之退出、

〔中右記〕十一月廿日、早且參内、中院行幸、供神物次第小草子依召持參、件次第故治部卿通俊卿所借送祕書祕本、行成卿抄御覽之處、仰云、此抄無相違事、

可謂祕書者、廿二日、略○中、今夕有行幸、中院因之戌剋參内、寄御輿於殿、腰輿、小忌上卿藤中

中院ニ出御

宗忠ヨリ供物次第ヲ召シ給フ行成抄本

出御小忌上卿

御湯殿

曉膳還御

大忌公卿

名謁

神膳次第違例

御湯殿人遅參

納言、仲實、右宰相中將、顯雅、右少辨顯隆、少納言懷季、能御之後、先右大臣殿列立、

大忌公卿、乘輿出從、月華、陰明等門、入御中和門并中院南門、左右次將

不立替、小忌公卿著西廊、供神座間、右中將宗輔朝臣、左少將顯國、賽神嘉殿、略

□左西、御湯殿左少將有家朝臣、藏人大學助重隆勤之、右大臣殿雖不令著小

忌給、候神嘉殿給處、夜半許、依明日私物忌退出給了、曉膳了後、乘輿出中和門、

暫止之、左中將俊忠朝臣問之、大忌公卿大納言、公實、左衛門督、雅俊、左兵衛督、

能帥中納言、季源中納言、國右兵衛督、顯通、下官源宰相、能左大

辨、基宰相中將二人、忠家、政大藏卿、道名謁了各退出、小忌公卿於南庭又名謁、

右宰相中將顯雅著小忌、猶供奉御輿本陣方也、神膳次第頗有違例事由、後

日所聞也、陪膳采女能登失禮云々、是未練之所致歟、

〔長秋記〕目録康和四年秋冬別記 十一月廿二日、略○中、中院行幸、

小忌宰相中將不可副御輿論事、顯雅副了、御湯殿人依遲參俄召事、

於中和門外、左中將問大忌公卿、

二十三日、甲豐明節會、尋デ、御裝束ノ違例ニ依リテ、裝束使藏人頭源重

資ニ怠狀ヲ召ス、

外任奏

小忌公卿

御酒勅使

御物忌

依リテ御

出ナシ

宣命使

衛府陣ヲ

引カズ

二十四日、女王祿、

〔中右記〕十一月廿三日、中則參內、中內大臣以下參集仗座、頭辨來、内辨内大臣移著端座令置軾、召大外記師遠問諸司具否、次外任奏付頭辨被奏、返給被結申之後給外記、民部卿以下被著外辨座、從敷政門左兵衛陣著之、左少辨顯隆、少納言懷季、外記寬重、史兼時同著之、頃而開門召之、少納言懷季相代參入、召公卿、外辨列立南庭、小忌藤中納言、右宰相中將、民部卿、藤大納言、新大納言、左衛門督、右衛門督、左兵衛督、帥中納言、源中納言、右兵衛督、左宰相中將、下官、源宰相、左大辨、右宰相中將、大藏卿、謝座了著堂上座、次第存先規、一獻、國柄、二獻、御酒勅使、宰相、三獻、召大歌別當、下官、別當代官、依御物忌、無御出、懸御簾、宣命見參等付御所被奏、宣命使右宰相中將忠教、祿所左大辨基綱、亥剋事了、中御裝束事、今日多違例、左右衛門、左右兵衛不引陣、不開建禮門、小忌公卿大盤立二間、仍不被下軒廊、兀子立壇下、南庭舞臺寄地、日華門前引幔、如此違例、太以不便、大略年來積習、里亭儀之所致歟、今日御裝束違例、仍裝束使頭辨後日及怠狀也、

里亭ノ儀

〔中右記〕

十一月廿四日、中入夜王祿、分配宰相不被參、與權左中辨時範朝臣相共、著承明門內座、從中央、東間也、件座敷日華門內、是又里亭儀也、仍俄令直敷承明內侍從幄已徹了、又大奇怪也、

二十五日、丙午右大臣忠實ノ左近衛大將ヲ罷メ、隨身兵仗ヲ賜ヒ、帶劔ヲ聽ス、

〔公卿補任〕

九 右大臣正二位藤忠實、廿五、左大將、十一月廿五日辭大將、同日給隨身、左右近衛各府生一人、近衛四人可爲隨身、聽帶劔、

〔殿曆〕

十月二日、癸丑、天晴、不出行、酉剋許民部卿來、辭大將可給隨身事可申院之由示了、頃之退出、

九日、庚申、天晴、中酉剋民部卿來、辭大將間雜事謂合、頃之退出、

十一月廿三日、甲辰、中酉剋許以右大辨宗忠令奏云、先日所令申之大將辭狀可隨身給事、明後日吉日候、進候、如何、先日院御氣色委趣不承候、而

令申給能候歟、以宰相中將忠教、示送民部卿許畢、

廿四日、乙巳、天晴、時々陰、酉剋許雨降終夜、午剋許民部卿來、今日民部卿於内

御使可參院也、昨日令申内事等也、則彼卿退出參内、參院之由傳聞也、

府生二人
近衛四人
大將辭任
ヲ大將
ス大將
ス大將

忠實上表
ヲ俊明
ス俊明
ス俊明

表作者
清書者

表使
隨身勅草
内覽

御馬ヲ賜

拜舞
忠實中宮
及比前齋
院ニ參ス
吉書

廿五日、丙午、朝旦、民部卿來云、彼事院御氣色、内御定候、太略何様、可候事乎、但重以右大辨可被申、仍以右大辨令申之處、被仰云、聞食了、自院はアリナシトモ不被仰、され、早（イ）其後催前駈、未剋許以時範召遣敦基、大將辭狀（イ）兼之、次召公經子、清書（イ）申障不參、申剋許敦基朝臣持來狀、於東面開見了、清書爲隆、是依無清書人也、書了、時範朝臣持來、開見了、如例入函裏上、中將以宗輔（イ）進了、頃之還來示納給之由了、次召隨身給祿、府生二疋、番次給隨身勅草、持來、大内記、時範申之、開見了、則退出、參院、隨身裝（イ）、次給隨身勅草、持來、敦光也、時範申之、開見了、則退出、參院、隨身裝（イ）、次給隨身勅草、持來、右府生重俊、府者、カ、リ、左番長敦清、右番長公種、右府生ニナルヘキナリ、コト渡也、二人參著院、於中門奏事由、伊與守國明申之、則還來、拜了召御前、先參殿上、次參御前、而間賜御馬、口トリ御隨身等引、起座カタハラのしよりおりて、取繩一拜了、退出參内、陽明門左衛門陣并左兵衛陣をとおりて、經敷政門軒廊二間并階下、於弓場殿拜舞了、著殿上内座、次參御前、則退了參中宮并前齋院御方、其路如本、下小板敷、經階下并軒廊二間、自陣後出華德門、自承香殿面道參中宮御方、次參齋院御方、下宿所吉書、官方、藏人々各退出、

廿六日、丁未、天晴、午剋許參御前、（イ）余又參院御方、亥剋下宿所、

法皇忠實
ノ奏請ヲ
容レ給フ
宗忠院旨
ヲ忠實ニ
傳フ

道長ノ例
ニ據ラシ
ム朝家ノ大
事

忠實宗忠
ヲシテ大
將辭退ヲ
奏セシム
宗忠宿紙
ニ書シテ
奏ス
忠實ノ奏
請ヲ院ニ
給フ

〔中右記〕

十月十二日、候内、晚頭退出之次、行向民部卿御許、命云、可申右大臣（イ）殿、一日令申給事、奏院之處聞食了、只可依御堂例歟、且又可申内者、十三日、（イ）中入夜參右大臣殿、二條宅也、今夕初渡給高陽院也、先日民部卿被申院御返事申殿下了、

十五日、未時許從院有召、（イ）其次密々被語仰事、右大臣殿欲辭申大將之由、一日以民部卿被申、件事只可依御堂入道例、不然者、關白（イ）可宜歟、又不然者、万事辭義可被思、暫大將不可辭申者、此事朝家大事付承有恐、入夜歸洛、

十六日、早旦參殿下、語申夜前院御氣色、已時許退出、依有相營事也、

廿日、（イ）辛未、（イ）午時許參殿下、已今朝令參内給了、追參内、万事執申殿下、次參御前、申昨日院御返事旨、（イ）中等事、

十一月廿三日、申時許參内之次、依召參右大臣殿、可奏内之由、聊有被仰事、大將辭退申、則參内之處、禁中今明御物忌也、仍書宿紙奏件事、仰云、今夕可參籠御物忌、依爲大事、面爲被仰也、承了、

廿四日、早旦見參之、右大臣殿令奏給旨奏聞之處、只今遣召民部卿可申院者、民部卿被參、依御物忌、不召御前、下官傳仰旨、早參鳥羽申事、御返事明且可奏、

忠實忠教
ヲ參内セ
シム

道長ノ例

表文ノ書
キ方

宗輔ヲ使
トシテ上
表ヲ獻ズ
隨身ニ祿
ヲ給シ本
府ニ返ラ
シム
隨身勅書
草内覽

康和四年十一月二十五日

六五四

面爲聞食也、下官終日候内、宰相中將忠教爲殿下御使、被參内、彼大事也、且以奏聞之、

廿五日、丙午、早旦爲御使參右大臣殿、又民部卿從院御使被參也、俄可令辭申大將給也、是御堂入道殿例也、申時許於東對東面御覽大將狀、敦基朝臣仰之、權大納言、左大辨、宰相中將、大藏卿被參、藏人大進爲隆清書、抑狀中年號下御判之下、上狀、敦基朝臣書也、殿下仰云、故殿御記之中、雖大將狀、上表、年號下、可書之由、被記置也、仍上表、可書之由有其仰、爲隆上表、書了、此事猶能々可尋也、辭表之時、上表書辭狀之時、上狀、書恆法也、但故殿御記被書置條、不論左右、被付御記也、大將狀如表入宮裏、檀紙、以右中將宗輔朝臣爲使、被進内了、入夜歸來、仰云、收給者、次召御隨身等於中門給祿、令返本府、清一疋、近衛六人、又疋、綱、次賜隨身勅書被仰下云々、草大内記敦光内覽、依御堂入道殿例、左右府生各一人、近衛四人者、上卿源中納言國信卿云々、殿下仰云、勅書上卿多屬文之人所候也、仍帥卿雖遣召、稱所勞由、遂以不參、源中納言本行内文之間、俄奉勅書事也、定支度相違歟、汝早參仗座、與上卿相共行件事、勅書被下了、後歸參殿下、從左右近衛府、進御隨身差文、左近府生番長如本、近

奏慶

參院

拜舞

參内

畫御座ニ
祇候

吉書

關白宣旨
ヲ停メ給

康和四年十一月二十五日

六五五

衛六人、本御隨身次第相分左右、右近番長秦公流被召加、今夜被成府生之間、且召加番長也、又右近府生重利假召加、皆壺胡籙也、雖存狩胡籙由、大藏卿道良被申云、故大殿御時初賜隨身令申慶給日、御隨身壺胡籙也、付件說、被用壺胡籙也、御隨身差文時、範朝臣覽殿下、則爲令申慶有御出、予、宰相中將二人、家、大藏卿扈、前駟諸大夫廿人許、四位五人、殿上人不前駟、先令參鳥羽、於北殿中門前、令院司國明朝臣奏事由、拜舞、依召參御前、有御牽出物、御馬一疋、兼重利、引、右宰相中將忠教請取御馬、殿下於前庭取綱末一拜了、其後令參内給、於弓場殿付頭中將顯實朝臣奏事由、拜舞、於畫御座有御對面也、下給御直廬、御覽吉書、官方權左中辨時範、藏人、御堂令賜隨身給丙午日云々、今日丙午也、叶彼支干、尤吉例也、但御堂八月令辭申大將給、十月令賜隨身給也、九日、長德二年十月、當時殿下則令賜隨身給、誠朝恩之重歟、今夜給誠朝府奏、成府生宣旨被下了、仍公胤轉府生、御隨身番長未被補、子剋許事了退出、大將令辭退給事、此一兩日忽出來也、敦基朝臣從昨日作件辭狀也、大將勞九年、院仰頗可下關白宣旨之由、雖有御氣色、万事依退給義、令申返給也、只付御堂例、隨身之事許也、就中宇治殿廿

宗忠一人
關白ノ議
ヲ拜聞ス

上表文

康和四年十一月二十五日

六五六

六初知給天下、當時殿下廿五、仍暫令申返關白給也、關白之事、予獨於院御前承之也、他人全不聞也。

〔本朝續文粹〕

五 辭大將下

敦基朝臣

知足院前大相國

右臣忠實、竊以近衛大將者王之爪牙、國之心膂也、戎政被世之者、可振威化於百蠻、兵略軼人之者、足全守禦於萬里、庸劣之輩、不得暫居、去寬治八年三月任右近衛大將、康和元年八月、掌内外章奏、同二年七月、任右大臣、謬以壯齡之愚質、猥承不翅之聖恩、燕頤謝名、爭致羽翼於鳳闕、驚怯慙性、寧契風雲於龍姿、馮公孫樹下之塵、賢跡難繼、李將軍草中之石、善射未傳、有何勳績、忝此官班、况亦庶務惟忙、猶增悚越於黃閣、六軍區別、動緩嚴衛於丹墀、休罷之思、豈非斯時哉、伏願天聰、曲許阜鳴、早退武職於虎賁、唯守台位於象岳、不勝慙款屏營之至、謹修狀以聞、臣某誠惶誠恐頓首々々、死罪々々、謹言、

康和四年十一月廿五日 右大臣正二位兼行左近衛大將臣藤原朝臣上表

○一代要記、皇代曆、異事ナキヲ以テ略ス、忠實ヲ左近衛大將ニ任ズルコト、嘉保元年三月二十八日ノ條ニ、忠實隨身兵仗宣下ノ後、初度著陣

ノコト、本年十二月十六日ノ條ニ、雅實ヲ左近衛大將ニ任ズルコト、五年十二月二十一日ノ條ニ見ユ、

二十八日、己酉、賀茂臨時祭、

〔殿曆〕

十一月廿七日、戊申、天晴、○中未剋許著束帶參御前、次齋院上給、次中

宮上給、主上依御物忌、御簾中、次公卿參御前座、次第如例、

廿八日、己酉、天晴、雪降、卯剋許參御前給舞人裝束、頃之下宿所、午剋許參、東帶

先齋院并中宮上給、次御禊、事了余并內府著長橋內座、余取二獻著座、三獻內

府、四獻權大納言家忠、五獻大納言公實、余取頭挿花、次々如例、使俊賴朝臣、申

剋許事了、人々退出、今日依御物忌、無出御、

臨時祭、頭重資朝臣來云、仰云、御神樂可候如何、余并內府申云、可依先例、但御

物忌重候者不可然歟、仍止了、今日宣命余可奏也、而給隨身、○本月二十五後

未奏文、而惡日也、仍不奏、內府奏之、事了被奏也、齋院女房衣、テシロキニコキウ

ハノウ、中宮出衣、齋院同、ウ、ハキナシ、新舞人兵衛佐宗能自院給御隨身、助久、雖法王猶有

隨身、但乘馬、天不供奉、只如取次、有御車尻、諸國受領、とらす、并相撲使只如元

件事等雖無先例、此御時始有此事、直事不可然、万事委不記、

康和四年十一月二十八日

六五七

御物忌ニ
依リ簾中
ニ御ス

御禊

祭使

御物忌ニ
依リ出御
ナシ

還立御神
樂ヲ停ム

法皇舞人
宗能ニ隨
身ヲ賜フ

宗能兼方
ヲニ舞ヲ習

試樂

參入ノ公
卿

一舞ヲ仰
求子

宗忠兼方
ヲ饗應ス

御諛

舞人

簾中ニ出
御

康和四年十一月二十八日

六五八

〔中右記〕

十一月十六日、招右近將曹兼方、令習始兵衛佐於舞、是臨時祭新

舞人也、件兼方爲近衛舍人中長之上、又人長也、仍用舞師也、

廿七日、○中今日有臨時祭試也、樂先齋院昇給石灰間、中宮御二間方、依御

物忌御簾中、有召公卿候、簀子敷、右大臣、內大臣、權大納言、藤大納言、左衛門督

藤中納言、源中納言、右兵衛督、下官、源宰相、右宰相、中將、晚頭事始、頭辨重資

朝臣召使以下、頭中將仰一舞、○中少將家定一人也、止家光、藏求子之間、主殿寮官

人立明、

行向六角亭、饗應兵衛佐舞師人長右近將曹兼方、例祿之外、一家人々七八

人許聊以纏頭、

廿八日、臨時祭也、從夜前白雪紛々、高積庭上、万木皆春者歟、未時許御契成、頭

辨、重資、藏人大進、爲隆、候之、次庭座始、頭辨召使以下、使俊賴朝臣、舞人、顯國、家

能明、實行、實明、家光、宗一獻、頭辨重資、藏二獻、右大三獻、內大四獻、權大五獻、藤

言、重坏、親朝臣、爲隆、次舞始、頭辨晚頭事了、依御物忌、庭座并舞程主上御簾中、

仍不立倚子、中宮御二間、前齋院御石灰間方、

兵衛佐新舞人也、將參一條殿、令乘替馬、共人十五六人許、院御隨身右近府

生秦助久下給也、候召次所實、非御隨身也、今日右大臣以下公卿十三人祇候、依御物忌、

無歸立御神樂、

廿九日、早且相具宗能、參鳥羽殿、昨日御隨身助久下給、恐悦由、近召御前、甚有

恩言、乍悦退出、

十二月朔日、○中

今夜聊饗應助久、能一日臨時祭間、宗於五條蓬門招集人々、與行實朝臣相共

招賓客也、入夜助久來、於侍所先聊有盃酌、召東壺給祿後人々纏頭、有賢、有

佐、季實、敦兼、已上爲隆、顯國、實明、源、實明、藤、能明、能賢、通季、伯大、家信、藤大、宗

國、藏人、宗光、院藏、尹通、同行盛、院判官代、已上等、清實、以綱、惟信、重仲、已上盛實、

盛房、仲兼、定仲、雅職、敦遠、敦憲、爲信、經敏、能遠、朝臣、有障送、已上諸大夫、

件人々下官所招也、

顯季、隆時、長實、家保、行綱、師季、已上爲賢、伊信、顯輔、家時、隆重、隆忠、忠清、明國、

件人々前甲州所語招也、

下官、新中將、家、兵衛佐、宗能、殿上童宗重、甲斐前司邦宗、佐實、行佐、相共纏頭、

先給祿、次有纏頭、

康和四年十一月二十八日

六五九

宗忠行實
助久ヲ饗
應ス

宗忠宗能
ヲ具シテ
院ニ候ス

祿

宗忠過差
ノ誹ヲ受
院邊ノ事
ハ他所ト
相違ス

殿上人舞
御覽

弘徽殿ニ
渡御

御賀舞人
童舞
還御

康和四年十一月二十九日

六六〇

凡絹五十疋、四丈紺布段（麻アラシ）葛布十端、已上例祿、八丈絹十疋、四丈紺布十段、葛布十端、單袴一腰（加白地單四枚、藍寄袴五）、後聞、世間人々稱過差之由云々、但院邊之事異他所、就中宗能新舞人也、仍隨力及饗應也、

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記

十一月廿八日、臨時祭、右府勸盃、五位手長、御物忌無出御、但立御倚子、五獻猶著垣下、仍六獻、今度坏流下、庭座了、使給宣命、一舞試樂日承事、不籠御物忌、舞人陪從等候庭座事、

二十九日、令子內親王御所弘徽殿ニ於テ、舞樂ヲ御覽アラセラル、

〔殿曆〕

十一月廿九日、庚戌、天晴、著束帶、未剋許參齋院御方、今日殿上人舞御覽（雅實）、內府被參、直衣、先太平樂、次內府男胡飲酒、神妙不可思議也、

〔中右記〕

十一月廿九日、略、中未時許相具小童宗重參內、今日於前齋院御方弘徽殿東庭有遊興、主上渡御、女房打出、右大臣殿、內大臣、左衛門督、源中納言、（宗忠）下官、宰相中將三人、（顯通、顯忠、顯教）左京大夫、（顯仲）殿上人十餘人、祇候、晚頭御覽舞、（春）御賀舞、太平樂五人、（西九）宗朝臣、實隆朝臣、依日暮召童舞、（胡飲酒、龍）此間秉燭、次古鳥蘇（師朝臣、直衣、顯事）了還御本殿、

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記 十一月廿八日、略、中舞御覽殿上人直衣帶劔、

太平樂

○令子內親王、禁中ニ移ラセ給フコト、本月十七日ノ條ニ見ユ、

法成寺八講

〔殿曆〕

十一月廿九日、庚戌、天晴、（中）余依參御堂御八講、（東帶、中略）則參御堂、著座盃酒、則立座參佛前、次第如常、

十二月一日、辛亥、天晴、辰剋許祭主親定來、余仰云、法成寺ニ可參也、而神事（此）前齋也、（日ノ十二月十五條參看）極恐思給也、雖然此一家必參候御堂者可參、其由能々可祈申、則退出、（中）今日不參御堂、

二日、壬子、天晴、（中）今日不參御堂、暫遲々、申剋許左大辨基綱、右大辨宗忠、宰相中將忠教、大藏卿道良來、參否條人々皆定申、雖然件等定切、辰剋許奏報史來、家司師國申之、

三日、癸丑、天晴、參御堂、人々定猶可參者、所參入也、

四日、甲寅、天晴、今日多武峰物忌也、雖然依占、申剋許參御堂、內府被參、事了申剋許退出、參會權大納言家忠、藤大納言公實、二位大納言經實、左兵衛督能實、右兵衛督師賴、左宰相中將顯通、右大辨宗忠、右宰相中將忠教、大藏卿道良、

康和四年十一月二十九日

六六一

忠實臨ム

多武峰物忌

始 講師賢豪

〔中右記〕十一月廿九日、○中、右大臣殿從內參御堂御八講給、(定也)下官與宰相中將候御共、權大納言左衛門督、右兵衛督、左大辨、大藏卿朝座了有行香、講師已講賢豪阿闍梨也、及深更事了退出、

十二月朔日、○中、略

今夕御堂御八講、權大納言以下被參云々、豎者興福寺明進得業也、探題權律師永緣、問者、慶暹、已講、兼禪、注記覺勝、○中、今夜御堂御八講、豎者興福寺明進、探題權律師永緣、問者東大寺勝暹已講、精義兼禪、經高、慶昭、覺嚴、注記覺勝云々、

神今食以 前執柄ノ 人大伽藍ノ 可入ルノ 雅實及ビ 俊明ノ説 俊實ノ説 八講ニ長 者ノ臨ム 絶ハ執柄不 忠實親定 ヲシテ祈

二日、參殿下、仰云、欲參御堂之處、(後明)內府、民部卿傳送云、神今食日、○十二月十一日以前、執柄之人入大伽藍之條不快、宇治殿前二條殿、依爲父忌日、不憚之令參給也、故大殿依爲孫、猶爲近親令參給也、後二條殿令參給條不吉也、而又治部卿被申云、御堂御八講長者令參給、是第一之嚴重事也、從宇治殿以後、令參此御八講給、執柄不絶之相也、若不令參給者、此事陵遲之因緣也、定如法性寺、法興院八講罷成者、已爲嗚呼事歟者、人々說難思得間、昨今不參也、只去月晦日許參了、雖然付祭主親定朝臣令祈申也、下官承此事、不申左右予獨參御堂、民部

五卷日 忠實法成 寺參入ノ 實ニ諸ル

忠實夢ニ 太皇太后 得ノ仰ヲ 感ス

太皇太后 神ノ仰ハ 忠實法成 寺ニ參ル

卿以下被參也、依爲五卷日、取捧物行道、公卿五六人參仕、入夜參內府、是右大臣殿御使也、令參御堂給事可申合者、內大臣被申云、猶神今食以前不可令參給者、其次世間事數剋被談、及深更歸參右大臣殿、內府被申旨令申了、歸家、三日、早且詣民部卿御許、是殿下御使也、參御堂給條、又依被申合也、御返事云、如前日申猶可有憚者、參右大臣殿、民部卿被申之旨命給云、件事兩方難思得間、心中祈請之處、一日夜夢想、太皇太后被仰云、御堂之事欲陵遲條大歎也、返々悲歎之、寐夢中示給、則夢忽驚、此事如何、予申云、太后者藤氏之后、只獨令殘世間之人也、彼太后仰者、定如氏明神、御堂入道殿、(令也)告申給也、於此御夢想者、早可令參給、右宰相中將被申旨、又如此仍殿下申時許著衣冠參御堂給、內大臣又著衣冠被參、公卿七八人參會、有天台豎義、豎者延曆寺僧、探題權少僧都慶增、問者藪城寺範延、濟意、定暹、覺心、範心、四日、參右大臣殿、爲御共參御堂、(御東)內大臣以下公卿十人被參、事了有行香、例時後人々退出、

是月、皇大神宮禰宜等、同宮領遠江鎌田御厨惣檢按ノ訴ニ依リテ、同國拒捍使ノ勘責スル子細ヲ大神宮司ニ注進ス、

〔光明寺舊記〕

〇二 伊勢

太神宮神主

拒捍使ノ責セラル

注進可被且牒送國衙、且言上公家、任道理、停止當宮御領遠江國鎌田御厨惣檢校村主永吉訴申、爲拒捍使、背宣旨并當任國判等號國判等、號國宣、准國內例徵田、致見米勘責、町別凡絹拾疋代壹色田見作官物子細事

數十町ノ堰溝ヲ掘ル

町別凡絹十疋ヲ進米庫ニ見米代々ノ責ナシ行國拒捍使ノ事ト稱シテ勸責ス所拒捍使ノ不安

右得彼永吉今月十七日解狀備、件一色田、元者依有當御厨田旱損之歎、任諸國□例、以去應德年中、訴申於在國司之門、公地御厨相共依無□損、可掘通使水堰溝之田、雖有外題、至于公地田□者、令一人同心無加□伐、於當御厨住人者、爲養御厨田反□夕、夫食米、掘徹數十町餘堰溝之後被免、町別凡絹拾疋代一色田、可令致開發之由、訴申於國司之處、依無國□□免也、隨又言上於公家之處、被下綸旨也、仍以町別凡絹拾疋進濟國庫、已經代代也、是更爲國司無有損、何者進濟調庸之時、疋別准米二石之代、令申立用者歟、然則代々之間、全無見米見稻之責、加之當任守以去年任宣旨狀、依請之由、外題應宣具也、而今不慮之外、爲拒捍使稱國司行事、勸責如水火、敢不辨理、非寧有當任始立一色、尙國司自判許之後、□可改行哉、况宣旨有限、先例無其責、然則拒捍使之所

ナリ

行尤不安、縱復雖有國宣、以可背勸宣哉、然而令似于有背勸之計、忌理致之務也者、早且牒送國衙、且言上公家、爲被停止背宣旨國判拒捍使責、注在狀言上如件者、所申尤可□、仍且牒送國衙、且言上公家、重被停止件非例責之狀、注進如件、

康和四年十一月 日

大内人荒木田豐元

禰宜荒木田神主 判

禰宜

大宰府四王寺ノ穢ヲ神祇官ニトス、

〔本朝世紀〕 康和五年二月三日、壬子、〇中略又去年十一月比、太宰府四王寺天王鉢黑蛇蟠死御卜、神祇官申中宮、女御慎之由、龜卜之告、已如指掌歟、

〇女御茨子卒去ノコト、五年正月二十五日ノ條ニ見ユ、

康和四年十一月是月

六六五

中宮女御ノ御慎

題白雪滿樓臺

詩序

法皇、鳥羽殿ニ作文會ヲ催シ給フ、

〔本朝續文粹〕

詩序 天上 七言冬日於仙院書閣同賦白雪滿樓臺詩一首

以塞爲韻并序

敦基朝臣

歲在玄貳(與和四年)月旅黃鐘、俗當豐年之有穰、人誇治世之無事、九州貢獻之任土焉、遙仰聖日於中國、四郊學校之成林矣、高戴文星於上天、泰平之化不可得稱、何況太上皇受天縱之將聖、韜神速之叡情、軒丘之月雖明、猶脫萬乘於德車之下、舜河之波雖潤、遂樂虛舟於性水之中、爰排離宮以摸藐、姑射之仙居、置祕府以寫國子監之群籍、羽客雄飛、更駐鶴駕之新跡、風人雲集、無忘龍尾之舊儀、命歡遊於此我處、道逢遇之秋也、原夫歲將暮、時既昏、望雨雪之霏微、滿樓臺之壯麗、盈尺呈瑞、百尺之勢添高、成壁施輝、重璧之飭易混、至如彼顧輪奐於輕質之間、辨殿寂於寒色之底、漢武帝之製井幹也、豈爭光采於德宇、楚襄王之遊雲夢也、空謝照輝於皇基者歟、既而虬漏聲滴、燕席興闌、長生之盃頻轉、斟玉酒於瀛洲之東、眞仙之菓屢羞、得青梨於瀚海之北、敦基撫鶴(樂方)而齡傾、眼疲于孫窓之雪、隔駿骨而材朽、情繫于隗臺之風、偷慕朝獎、彌增寒心云爾、

○本文、年紀明ナラズ、姑ク茲ニ收ム、

十二月辛亥朔

一日、辛亥內侍所御神樂、不堪佃田荒奏及ビ位祿定、

〔殿曆〕

十二月一日、辛亥、天晴、中申剋許右中辨長忠來、官奏內覽也、余著衣冠相合、宰相中將忠教有此座、

〔中右記〕

十二月朔日、有官奏云々、左大臣(後略)、左大辨(其略)、右中辨長忠被參者、不堪荒奏也、次位祿定、公卿分配等被定申云々、中今夕有內侍所御神樂云々、殿上人六人、皆帶劔笏

〔長秋記〕

目錄 康和四年秋冬別記 十二月一日、官奏、年中障子推過北由左府命、內侍所御神樂、見物、

五日、乙卯政、御物忌、

〔中右記〕

十一月八日、中今日依可有政、藤中納言參內、但及晚景已延引、十二月五日、終日勤女房陪膳、今日一日御物忌也、今朝有政云々、依籠御物忌、不參早衙、及深更退出、八日、中則馳參籠御忌宿侍、有政、藤中納言、左大辨著行云々、

康和四年十二月一日 五日

六六七

官奏內覽

公卿ノ分配ヲ定ム

延引

九日、終日候御物忌、○中終日祇候、及深更退出、

十八日、○中今明内御物忌也、及深更參内、宿侍、

廿二日、從今日四ヶ日内御物忌也、○正月節以後御物忌也、○中略今日勤女房陪膳、

廿三日、朝間候御前、

廿八日、○中次參内、從今日至正月五日、御物忌也、

廿九日、○中從今日八ヶ日、御物忌也、

〔殿曆〕十二月廿二日、壬申、天晴、又陰、○中今日内御物忌、

廿三日、癸酉、已剋許參御前、戊剋許退出、依吉日乘新車、余著冠、

○八日ノ政及ビ八日以後ノ御物忌、便宜合致ス、

六日、陣定、

〔中右記〕十二月六日、○中今日民部卿被申行陣定云々、予不參、

〔殿曆〕十二月五日、乙卯、天晴、○中太皇太后宮大進清實朝臣、民部卿許示

送雜事、

七日、右大臣忠實ヲシテ、藏人ノ懈怠ヲ沙汰セシメ給フ、

〔殿曆〕十二月七日、丁巳、天晴、申剋許頭辨重資來云、内仰也、藏人上臈三人不

藏人上臈
三人參内
セズ

上卿故障

參内、件事如何、余申云、件事尤不便、候事也、早可沙汰候、

○不仕ニ依リテ、院殿上人ヲ除籍スルコト、本月十九日ノ條ニ見ユ、

十日、御體御卜奏、

〔殿曆〕十二月十日、庚申、天陰、微雨、午剋許外記定重來云、今日御卜上卿并明

日上卿皆申障如何、余答云、可奏事由、則退出了、

○御體御卜奏ノコト詳ナラズ、姑ク例日ニ掲グ、

十一日、月次祭、神今食、

〔殿曆〕十二月十日、庚申、天陰、微雨、午剋許外記定重來云、○中明日上卿皆申

障如何、余答云、可奏事由、則退出了、

十一日、辛酉、天陰、雨不降、○中今日有行幸、雖然依穢氣、○本月十五條參看、不參、○中

今日當日齋也、仍能々潔齋、三日齋間、をんなと不近、能々潔齋也、今日北政所

來給、雖然依神事不參、（後明）民部卿許、奉消息、返事云、月次祭上卿、仍只今參入、然

間委旨不能取啓云々、

〔中右記〕十二月十一日、○中今夕可有行幸中院者、而當卜之由所來催也、入

夜間參内參仗座、小忌上卿左衛門督雅俊卿一人被候、戊剋許陣引、與上卿相

忠實潔齋
婦女ヲ近
ヅケズ

中院行幸

小忌上卿

大忌公卿
列立

神嘉殿
著御

御湯殿
儀アリ

漏刻ヲ奏
ス
神膳ヲ供
ス
勸盃
曉膳

還御

名謁

共著小忌、列立南庭如恆、上卿被帶弓箭、腰輿寄南階、先在日華門、右次將渡副、頭中將顯實置璽劔、上卿予前行、先契鈴等供奉、經月華、陰明門等、到中和門間、大忌公卿列立、伴門南脇、北面、西上、民部卿、後、權大納言、家、藤大納言、源中納言、國、右兵衛督、前、宰相中將二人、家、政、到中院南門、左右近衛先入脇門、開門寄御輿於神嘉殿南壇下、頭中將取璽劔授內侍、此間上卿并下官列立西炬屋南、東、北面、次著西屋座、北一間親王、二間上卿參議、上、東、三間、辨、少納言、西、辨、四間召使、上官等、此間有御湯殿、藏人、少將、顯、供、御、手、水、近衛引陣、圍司奏、小忌公卿出從西脇門中門、開門、上卿於中門外解劔弓箭等、取打拂、入從中門、於神嘉殿階下脫杵、次昇壇上、於戶間進之、左、少將、有家、右、少將、顯、實、奏、塊、次下官與右少辨俊信昇坂枕、予、東、辨、西、俊、信、先、徹、劔、胡、錄、如上卿作法、又少納言實行與諸司供神座、了暫立階東西、以下、公卿、西、辨、歸出中門外、如本帶胡籙、著西屋、時申奏漏刻、供神膳如例、歟、此間小忌公卿勸盃酌一獻、實行、二獻、俊信、陪膳、采女去新嘗會、依鳥眼違例事等也、二、日、一、月、二、十、仍、今、夜、衣、被、用、他、采、女、云、々、安、藝、曉、膳、了、撤、打、拂、等、如、前、儀、還、御、々、輿、猶、寄、壇、下、於、中、和、門、外、暫、留、御、輿、左、少、將、有、家、朝、臣、問、之、大、忌、公、卿、以、下、名、謁、對、西、欲、入、御、間、御、輿、持、歸、右、近、陣、方、先、左、少、將、有、家、又、問、小、忌、上、卿、宰、相、名、謁、了、人、々、退、出、

〔長秋記〕

康和四年秋冬別記

十二月十一日、神今食行幸、儀、委、

〔殿曆〕

十二月十二日、壬戌、天晴、略、中、辰、剋、許、爲、隆、朝、臣、來、多、武、峯、鳴、給、召、陰、陽、師、光、平、卜、之、病、事、氏、公、卿、許、差、職、事、一、人、示、送、是、先、例、也、

〔殿曆〕

十二月十三日、癸亥、天晴、略、中、今日官奏也、同剋許外記定重來云、今日

〔殿曆〕

十二月十三日、癸亥、天晴、略、中、今日官奏也、同剋許外記定重來云、今日

病事

少納言悉
ク不參

内覽

出御

官奏ノ作
法

政候也、而少納言皆悉不參、爲之如何、余云、可奏事由、今日官奏、左、後、被、候、申剋許被參、先不堪定、酉剋許余著衣冠參殿上方、是依官奏内覽也、余殿上イシのもと左、中、居、左中將時範朝臣入自無名門居、余目之、辨作法如常、余文見了給辨、々結申了退還、伴時範下自小板敷クツヲハク間、跪地クツヲハク、尤可然事也、乍立クツヲハク、頗無便歟、余參朝餉、此辨時範奏申、次召藏人知信、被仰官奏御裝之事、次出御、余候御共、晝御座著給間、余ククオイタテマツル、御座定後、余御帳與夜御殿躰三尺御几帳のウシロ天、居見之、然間左府如例昇、天經道被奏、但、付、小、野、宮、說、直、長、押、子、懸、故殿被仰云、劔ハシラニアタル、文杖をナラハハ極別様此事也、と被仰、次々作法如常、但口傳頗不被習歟、奏了余下宿

康和四年十二月十四日

六七二

所、更著直衣參御前、亥剋許退出、

〔中右記〕十二月十三日、略○中今日左大臣參仗座、不堪定後官奏、略○中陣定、雅實內

大臣以下公卿濟々參集云々、

〔長秋記〕目錄 康和四年秋冬別記 十二月十七日、三九內府初官奏、儀、

○不堪佃田荒奏ノコト、本月一日ノ條ニ見ユ、

十四日、甲子前大宰權帥大江匡房、歸京ノ後、初メテ仗座ニ著ス、是日、造興

福寺長官藤原宗忠、興福寺ノ作事ヲ巡檢ス、

〔中右記〕十二月十四日、早旦下向南京、且是巡檢御寺作事、且又爲參詣御社

也、近衛、佐西剋許著覺勝公房、寺中僧侶濟々來、

今夕前帥江中納言歸洛之後、參仗座、左大臣大辨申文云々、

十五日、曉參詣御社、東帶奉幣之後、參詣南圓堂、奉御燈、了巡檢御寺作事、能遠

朝臣判官盛忠主典、佛師頼助、範俊等、上座定深相共廻見之、南大門懈怠、廻廊

十四間未葺、必可忿之、由下知了、午時許歸房、未剋許出南京、子剋許歸洛、今夕

白雪紛々、高積庭除、五寸、

十六日、略○中晚頭參殿下、申山階寺作事之間不審、

宗忠奉幣
社ニ奉幣
同南圓堂
獻ズ御燈ヲ
工事ヲ急
ラグベキ由
下知ス

廿六日、略○中依召參御前、仰云、明日可參院、可申事、略○中周防國司造興奉了退

出、子剋許歸家、

廿七日、早旦著直衣參院、高松申昨日仰等事、御返事、略○中周防國司次參內、申

件御返事、

○匡房歸京スルコト、六月十三日ノ條ニ、興福寺供養日時定ノコト、十

月二十日ノ條ニ、供養ヲ延引スルコト、本月二十三日ノ條ニ見ユ、

十五日、乙丑陰陽師ヲシテ、大神宮假殿遷宮及ビ中宮御所造立ノ日時ヲ勘

申セシム、

〔殿曆〕十二月一日、辛亥、天晴、辰剋許祭主親定來、余仰云、法成寺ニ可參也、○

一月二十九日ノ條參看、而神事比前齋也、極恐思給也、雖然此一家必參候御堂者可參、其

由能々可祈申、則退出、

二日、壬子、天晴、祭主親定來、能々可祈之由仰了、則退出、

三日、癸丑、天晴、略○中祭主親定をよひて、能々可祈之由仰了、伊勢神事有恐、雖

然依先例所令參也、能々祈念、又祭主ニも能々仰此由、此間潔齋、每夜沐浴、

七日、丁巳、天晴、略○中戊剋許依方違向木我內大臣亭也、雅實過鳥羽邊間、以尾張權

忠實雅實
ノ久我亭
ニ方違ス

康和四年十二月十五日

六七三

守佐實朝臣令申、依方違罷向木我邊、須參候也、而依五體不具穢、不能參仕、則向木我了、

八日、戊午、天晴、寅剋許歸京、於羅城門許夜曙了、卯剋許還著高陽院、略中辰剋許時、範來門外云、今日伊勢假殿遷宮之日、時可被勘也、內覽如何、余云、無止神事也、穢氣間極有恐、仍不可覽者也、暫後退出、今日伊勢沙汰延引、假殿遷宮日時、同以延引、內大臣依穢氣也、申剋許召光平問云、依方違向木我、而住所始度、とまる時件條如何、光平申云、猶本所、令宿給能候歟、今夜又木我、はあらず向、前駈六人、

九日、己未、寅剋許還京、酉剋許時、範從鳥羽殿歸來云、令申給事皆聞食了、非指事、公檢事也、

十二日、壬戌、天晴、今日穢氣了、十五日、乙丑、天陰、雪下、五六寸許積、依吉日、中宮御所可被立日時、被勘、余承之、陰陽師道言并子光平、召勘之、左中辨時、範行之、物忌固間以人申之、今日伊勢假殿日時被勘、上卿內府并時範、

〔中右記〕十二月二日、略中略、法成寺八講ノコトニカ、雖然付祭主親定朝

臣令祈申也、定也下官承此事、略下

○大神宮假殿遷宮日時定ノコト、五年三月十四日ノ條ニ、中宮作事ニ依リテ、御方違アラセラル、コト、本月二十一日ノ條ニ見ユ、

十六日、丙寅院司左大臣俊房等、藥師經等ヲ法勝寺ニ供養シテ、法皇御五十ノ算ヲ賀シ奉ル、

〔殿曆〕十二月十六日、丙寅、天晴、又陰、雪下、風吹、略中今日於法勝寺有院御賀、件御賀、院司上卿以下所勤仕也、大法會余不參

〔中右記〕十二月十六日、晚頭參白河、今日一院々司等、於法勝寺講堂、囑請五十口供養經卷、壽命經、藥師經、是爲御賀也、而院司左大臣以下參入、院殿上人取布施、下官非院司、仍則退出不著座、山座主慶朝法印爲導師、僧正增譽爲呪願、

〔長秋記〕目錄康和四年秋冬別記 十二月十六日、院司法勝寺御賀、

〔御室相承記〕中御室

於法勝寺被行御賀佛事事

康和四年十二月十六日、丙寅、院司等於法勝寺行之、（法親王）御室御參會、圓宗寺上座法橋經昭、法勝寺々主法橋俊覺、尊勝寺上座靜明、各相具小綱六人參上行列、

日時勘申
穢ニ依リ
テ延引

僧五十口
經卷供養

導師慶朝
呪願增譽

覺行法親
王參會シ
給フ

庚和四年十二月十六日

六七六

尊勝、法勝、圓宗寺也、御前後經昭、俊覺、騎馬參仕、前駟十八人、僧綱六人也、

〔伏見宮御記錄〕

和五十一
代々御賀佛經 白河院五十御賀

十二月十六日、院司等於法勝寺奉賀之、丈六藥師、日光、月光等像一鋪、藥師經五十卷、壽命經五百卷、

○法皇五十御賀ノコト、三月十八日ノ條ニ見ユ、

右大臣忠實、梅壺ノ直廬ニ移リ、隨身宣下後初度著陣ノ儀ヲ行フ、

〔殿曆〕

十二月十六日、丙寅、天晴、又陰、雪下、風吹、略○中給隨身之後、於陣無承行事、仍今日依吉日、於陣給吉書、戊剋許著直衣參內、宿所梅壺也、今日依吉日渡

居也、本宿所淑於宿所著東帶內覽、件書今夜余次著陣、先內座、次外座、次召官人令置膝突、次五位藏人爲隆下吉書、余作法如常、職事退了、召時範下文、作法如例余退還、今夜侍宿、

十七日、丁卯、天晴、卯剋許退出、

〔中右記〕

十二月十六日、略○中殿下參內給、是初宿梅壺御直廬給、日者御直廬給、廬桐壺、御覽吉書、藏人、中宮、大進、爲次、令著仗座給、賜隨身給之後、依吉日、令著陣給也、先與座、次端座、召官人、置膝突、爲隆下申、歸御直廬、令宿仕給、及深更歸家、雪飛、月明、吉書、召權左、中辨、時範、朝臣、下給、

四面皓然、

四面皓然、

○忠實ニ隨身兵仗ヲ賜フコト、十一月二十五日ノ條ニ見ユ、

十七日、丁卯左近衛少將源師重ニ院還昇ヲ聽ス、

〔中右記〕

十二月十七日、中略○今夜有院御佛名、略○中丑剋許事了、略○中仍退下行實朝臣宿所、宿侍、左少將、師重、朝臣、被聽、院還昇、

右大臣忠實ノ女及ビ男威徳、忠通著袴ノ儀ヲ高陽院ニ行フ、

〔殿曆〕

十月廿三日、甲戌、天晴、略○中依吉日、著袴間雜事所令沙汰也、

十二月十一日、辛酉、天陰、雨不降、午剋爲隆朝臣來、頃之退出、來十七日著袴間雜事仰了、

十四日、甲子、天晴、略○中依吉日、來十七日著袴新御裝束始、行事職事盛家、

十六日、丙寅、天晴、又陰、雪下、風吹、明日比女君并威徳著袴也、依致其沙汰、

十七日、丁卯、天晴、卯剋許退出、依著袴也、御裝束、東對母屋、立帳、西面、其前立

廂調度、母屋調度不立、姫君座帳前也、雲けむ端の疊二枚をし、其上、ウチシキ茵をし、若君座同疊二枚をし、其上、ウチ茵をし、召道言朝臣、令勘日時剋限、酉剋內座被座、忠實余同有其座、時範朝臣來云、自大宮姫君御裝束を持來、

庚和四年十二月十七日

六七七

賜フ
中宮裝束
ヲ威徳ニ
賜フ

三獻ノ儀

參會ノ公卿

康和四年十二月十七日

六七八

余云、コナニ時範退了、大進清實持來テ前ニ置、退還間、時範朝臣取祿授彼朝臣、
白大袴於庭中拜了退出、次同時範朝臣來云、自中宮若君御裝束持來、其儀如始、
召有家令取裝束等、女房よとらせ、其儀有家朝臣捧裝束有簾前、女房取之、次
余入簾中結之、先姬君、次若君令著了、次御前物、陪膳有家、朱臺各六本、先姬君
次若君、々々をして、障子の戸より出、次一獻、此間若君還入了、二獻、此間安名
尊、右大辨、次律歌清柳、次朗詠、事了後、内府引出物馬二疋、次内府入給簾中、頃
之歸退出了、姬君若君陪膳有家、女房取入、二人、姬君帥殿女房舍之、若君同有家宰相
之、參會公卿、内府、雅實、權大納言藤原朝臣家忠、左兵衛督能實、源中納言國信、
宰相中將顯通、右大辨宗忠、左大辨基綱、右宰相中將忠教、左宰相中將家政、右
宰相中將顯雅、大藏卿道良等也、二獻、勸盃顯基綱、三獻、勸盃
五年正月十九日、己亥、天晴、中酉剋許相具威徳參内、著袴後參内也、戊剋許
退出、

二月廿二日、辛未、天晴、中一條殿戊剋許令渡給、則還給、姬君著袴未見給、仍
今日始見給也、御共、右大辨被候、

〔中右記〕

十二月十七日、丁卯、申剋許參入右大臣殿、高陽院今日若君、姬君共有

御著袴事、其儀東對西面方御帳前北邊、立帳代、唐匣調度、垂庇御簾、女房打出、
同南庇立四尺屏風、指筵上敷高麗端疊、爲公卿座、同東庇立四尺屏風、敷筵紫
端疊、爲殿上人座、戊剋許人々參集、内大臣、衣冠、權大納言東帶、左兵衛督、
源中納言顯通、左宰相中將、顯通、下官、左大辨、宰相中將二人、家政大藏卿、各
著座、但一間高麗端上敷茵、爲内大臣座、被著座、居物、惟公卿殿上人座兼居饗
饌、同間端方敷菅圓座一枚、爲家主座、朝臣陪膳、長家主著衣冠給、頃而從太宮、
被奉姬君御裝束一具、先時範朝臣召使大進清實朝臣持御裝束、入袋、置殿下御
前、給祿、泰仲朝臣給之、清實朝臣下前庭拜退出、又從中宮、被奉若君御裝束一
具、其儀時範朝臣給祿於使大進爲隆、下庭前拜退出、次殿下起座給、入簾中給、
君達有御著袴事、令結御腰給、是吉例也、次居御前物二具、陪膳、左少將有
家朝臣、依他人遲參、二人御祈共爲陪膳、遣送諸大夫八人、清實朝臣、惟信朝臣、
重仲、宗佐、四位五人、盛實相輔、宗佐、五位三人、次殿下出居本座、若君出公卿座上給、若君頃而
入簾中給、次、一獻獻、家主取盃給、此間頭中將顯實朝臣召加公卿座末、二獻、頭中
將勸盃、取瓶、子、盛、季互以揖讓、内大臣取盃奉殿下、巡流、居汁物、爰下官依仰、取拍
子歌、催馬樂、安名、尊、席、青柳三獻、左大辨勸盃、隆、取瓶、子、爲朗詠、又居汁物、薯蕷粥、菓

康和四年十二月十七日

六七九

子、事了後有内大臣牽出物、馬二疋、衛之府又亥剋人々退出、

殿下談給云、法成寺入道殿御時、君達著袴之時、閑院太政大臣爲内大臣時

被來也、彼時件大臣雖爲尊者、不

五年正月十九日、略中

今夜右大臣殿若君令參内給也、著袴給後依吉日歟、

二月廿二日、午時許參一條殿、略中入夜白地、依爲吉日、東御方令度高陽院殿

給是右大臣殿若君、姬君著袴給後、依可令奉見給也、則令急歸給、

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記

十二月十七日、略中

右府公達著袴、

○威德、名ヲ忠通ト改メ、昇殿ヲ聽サル、コト、五年十二月九日ノ條ニ

見ユ、

十九日、巳院殿上人ヲ除籍ス、

〔中右記〕 十二月十九日、略中

今日家道朝臣、公衡朝臣除院殿上籍云々、是依不仕也、

○藏人ノ懈怠ヲ沙汰スルコト、本月七日ノ條ニ、内大臣雅實、闕怠ニ依

リテ、院勘ヲ蒙ルコト、五年二月一日ノ條ニ見ユ、

不仕ニ依

太皇太后宮御佛名

忠實御佛名ニ參仕

中宮御佛名

院御佛名

政上卿

二十日、庚御佛名、政陣定及ビ復任除目、

〔殿曆〕 十二月十五日、乙丑、天陰、雪下、五六寸許積、略中今夜太皇太后宮御佛

名也、雖然依物忌不參、

廿日、庚午、天晴、今夜御佛名也、酉剋許參内、戌剋許著東帶參殿上、次第如常、亥

剋許事了宿侍、

廿一日、辛未、天陰、雪、今日午剋許退出、

廿二日、壬申、天晴、又陰、略中同剋許參内、侍宿、曉方著東帶參御佛名、了余立行

香并取布施、事了宿侍、

廿七日、丁丑、天晴、辰時許參御前、頃之參齋院御方、今夜中宮御佛名也、戌剋許

下宿所、著東帶參中宮御方、則始、宮司同名、余跪なる、著座、次々人同之、今夜

余不立行香、又不取布施、僧退出間余還著、名對面、宮司同問之、

〔中右記〕

十二月十七日、略中今夜有院御佛名、民部卿以下被祇候、從殿下人

々又被參加、院別當爲房朝臣問之、公卿名謁著座、北殿南殿也丑剋許事了、

廿日、參結政、有政、右中辨長忠、右少辨俊信、少納言實明著行之、史相忠爲座頭、

帥中納言爲上卿、讚岐帳下、諸國文書等有其數、南申文史兼時、次第事了渡參

復任者

田園ノ争

行香ハ結願日ニ行

令子内親王ニ間ニ御シ給フ

法皇公卿ヲ御佛名シメ給フ

御佛名終夜

行香

陣、次有復任除目、先上卿、居奥座、令藏人盛季奏復任除目可行之由、聞食由仰了後、著端座令置軾、召外記令進勘文、外記入宮持參、上卿披見、留禮入同宮令持外記、進弓場殿被奏、了返著本座、復任者大膳大夫家範、宮内少輔仲實等也、無武官者、式部丞參入否條被問外記、申云、丞不參、錄一人候陣邊云々、以件勘文、以外記傳給錄、不封予問、上卿返報云、丞錄共不參、後日可給、二省時ハ加封、當日傳給錄時ハ不封、又京官許復任之時、只下給本勘文、有受領官時、令參議書奏聞之後給二省者、次召外記返給筥、次有陣定、民部卿藤大納言各被下文書、人々相論田園等事也、公卿十餘人濟々參加、予獨讀之書之、亥刻許事了、今夜御佛名初也、右大臣殿、民部卿以下公卿十六人參上、次第如例、人々云、今夕可有行香、歟如何、藤大納言被申云、御佛名之時、結願夜所被行也、止之、御佛名間、前齋院、廿一日、晚頭參鳥羽、中爲御方違、上皇依可有御幸也、中入洛之間、院仰云、供奉公卿早著束帶、可參内御佛名者、依仰從三條大宮辻馳參、於六角著束帶參入御佛名、公卿七八人被祇候、廿二日、中御佛名終夜、被宿侍人々、源中納言、右兵衛督、予三人參上御前、御導師等參上、丑刻以下右大臣殿、内大臣、此外公卿五六人參加、事了有行香、次

中宮御佛名

荷前定 忠實使ヲ立ツ

僧名定

第如常、

廿七日、中次歸參内、中宮御佛名也、藤壺南面被修、右大臣殿以下公卿十餘人、亮高實朝臣問之、二十一日、辛未、荷前、

〔殿曆〕十二月十三日、癸亥、天晴、中今夜有荷前定、

廿一日、辛未、天陰雪、今日午刻許退出、荷前也、家使盛長於東三條殿御倉町立之、依物忌不拜、

〔中右記〕十二月十三日、中今日左大臣參仗座、中次荷前定、

廿一日、中今日荷前也、左兵衛督、能、藤中納言、仲實、宰相中將三人、顯雅、忠、爲其使、左大辨班幣云々、今夜宿侍、

〔樗囊抄〕年中 荷前 康和四十二十三定、官奏、

圓宗寺法華會、

〔中右記〕十二月廿日、中今夕有圓宗寺法華會僧名定、上卿藤中納言仲實卿、右中辨長忠朝臣行事、

廿一日、中今日圓宗寺法華會始也、

節分

御方違密儀堀河院ノ造作ニ依ル

春節以前作事ヲ止ム

法皇丹波守高階爲章ノ京極第二御方違アラセラレ、尋デ美作守藤原顯季ノ高松第二渡御アラセラル、中宮亦桂芳坊ニ御方違行啓アラセラル、

〔中右記〕

十二月廿一日、晚頭參鳥羽、今夜節分夜也、爲御方違上皇依可有御幸也、戊剋御幸民部卿藤大納言、左右衛門督下官源相公、殿上人許供奉、今夜

令宿爲章朝臣京極宅御天、明曉可御高松者、○今夜中宮爲御方違、白地行

啓柱芳坊、曉還御、依密儀不及廣、是御所堀川院依仰事也、卅五日一度可有者、

〔殿曆〕

十二月廿二日、壬申、天晴、又陰、酉剋許參院、御在所高松、顯季朝臣家也、

廿八日、戊寅、天晴、○辰剋許參院、御在所高松、顯季朝臣家也、

○中宮御所造立日時勅申ノコト、本月十五日ノ條ニ、法皇鳥羽殿ニ還御ノコト、同月二十九日ノ條ニ、中宮桂芳坊ニ御方違ノコト、五年二月

七日ノ條ニ見ユ、

二十三日、西、癸女御藤原茨子ノ懷妊ニ依リ、興福寺ノ造營ヲ中止シ、又、同寺供養ヲ延引セシム、

〔中右記〕

九月廿七日、晚頭從內退出之次、參右大臣殿、興福寺作事主上還御內裏之後、○九月二十五日、依當御遊年方、春節以前暫可被止之由申上了、

長者并ニ沙汰ハ中止ラズ

政延引

能登勘出

十二月廿三日、朝間候御前、殿下命給云、興福寺金堂廻廊南大門作事欲忿作之處、女御被懷妊之間可無便、奏事由、把土造作可止也、但至長者并本寺沙汰事者、不可止者、供養正月廿二日可延引、是彼女御當月之故也、來三月十一日可有供養由可下知者、以頭中將奏事由、○知本寺了、晚頭退出、

〔殿曆〕

九月廿七日、己酉、天晴、○中午剋許右大辨來、申剋許各則退出、

○造興福寺長官藤原宗忠、同寺作事ヲ巡檢スルコト、本月十四日ノ條

ニ、同寺供養日時定ノコト、五年六月十九日ノ條ニ、女御茨子御産ノコト、

同年正月十六日ノ條ニ見ユ、

二十六日、丙政、官奏、大糧申文及ビ著欽政、

〔中右記〕

十二月廿五日、依可有政、參早衙之次、先參院御所高松、○別當被申云、

今日政諸司不具、延引者、仍歸家了、

廿六日、早旦參結政、有政、○左少辨、少納言、懷季、參入、次第如例、渡參陣、上卿右衛門督宗通、被命云、能登前司俊兼濟公文問、勘出可下也、而大納言必所下也、中

納言有下例哉可尋之、○下殿、官申云、近代有如此例、公實卿中納言間所被下也者、大

外記師遠申云、詔書覆奏大納言之所候也、有障之時、近代中納言勤之、准彼例

不堪文書

鹿中院神祇官入
牛結政所
=入ル

被下、何難之有哉、仍右衛門督被下勘出、申如例申剋左大臣被參仗座、有官奏、予并權辨時範朝臣、共於床子座見文書、減省三通史有時候奏、令權辨內覽殿下、參內給之間、於殿上覽之、衣冠下御次奏覽之儀如恆、左府談給云一位大臣著仗位上卿於第二間行事、次有大糧申文、申如例史信俊候之、有文三通、大糧文二通史結申大糧文一通、匙文、左大臣被退出、申今日鹿入中院、走入神祇官云々、牛又入結政、

今日有著馱政云々、

右大辨藤原宗忠ヲシテ、前左近衛府生秦武忠禁獄ノ免否ヲ、法皇ニ奏セシメ給フ、

〔殿曆〕九月十四日、丙申、天陰雨降、略○中 戊剋許召藏人盛季、令進法家問答文、

〔中右記〕九月十九日、略○中 晚頭爲御使參院、武忠徒年滿

廿日、略○中 上皇召御前被仰云、昨日從內被仰武忠徒年滿事如何、件男本不被

勘罪過、今徒年不愷、可被尋歎、大略可申內々儀歎、仍參內、

廿一日、終日候內、申昨日院御返事、候女房陪膳、

十二月廿六日、略○中 依召參御前、仰云、明旦可參院、可申事、武忠可奉了退

法皇徒期
ヲ三年ト
定メシメ
給フ

出、子剋許歸家、

廿七日、早旦著直衣參院、高松申昨日仰等事、御返事、武忠可次參內、申件

御返事、

○武忠ヲ禁獄スルコト、二年八月二十八日ノ條ニ、禁獄ヲ免ズルコト、五年九月二十日ノ條ニ見ユ、

二十八日、寅宮崎宮觸穢及ビ同宮濱殿寶殿ノ顛倒ヲ軒廊ニトス、尋テ、御トノ趣ニ依リ、仁王講ヲ修シテ、疾疫鬪爭ノ難ヲ祈禳セシム、

〔中右記〕十二月廿八日、略○中 權大納言家也參仗座、被行軒廊御下云々、

〔石清水文書〕五宮寺緣事抄宮崎造營事

□□尚勘狀 宮崎宮造營事

八幡宮崎宮檢按法眼道清言上、略○中

同年十二月廿八日、寅權大納言藤原家忠卿參著仗座、被行軒廊御下、是宮崎宮男女拏擢、力女以刀突害男并濱殿寶殿顛倒事也、女害男事、神祇官ト云、依神事不信、可有天疾疫事歎、陰陽寮占云、依穢氣所致之上、惟所有病事動探事、力歎、期惟日以後卅五日內及九月十一月、明年二月節中並庚辛日、濱殿顛倒事、

殺傷ノ穢
神祇官ト
陰陽寮ト

康和四年十二月二十八日

六八八

神祇官卜云、恠所可有病事、歟陰陽寮占云、恠所有口舌事、歟期今日以後廿五日內及明年四月、七月節中並甲乙日也、○中略

文治二年八月十五日

主税頭兼大外記中原朝臣師尙勘申

〔平戸記〕寬元二年十月十四日、○中略

同年十二月廿九日宣旨云、任御下之趣、下知本所、修仁王講、可令祈請疾疫

鬪諍難者、

○宮崎宮ノ穢及ビ同宮濱殿等ノ顛倒スルコト、七月二十七日ノ條ニ

見ユ、

女御藤原茨子御産ノ期近ヅクニ依リテ、未斷輕犯者ヲ免ス、

〔中右記〕十二月廿六日、○中略

依召參御前、仰云、明旦可參院、可申事、今年有免

物事、奉了退出、子剋許歸家、

廿七日、早旦著直衣參院、高松申昨日仰等事、御返事、免物可、○中略次參內、申件御返

事、

廿八日、○中略

又被免未新輕犯者卅餘人、是依女御殿産近々云々、正月、但有所思食被免

輕囚三十餘人

免物ノコトヲ院ニ奏セシメ給フ
法皇免物ヲ許シ給フ

之由、被仰下也、

○女御茨子御産ノコト、五年正月十六日ノ條ニ見ユ、

秀才、給料ノ宣旨ヲ下ス、

〔殿曆〕十二月廿八日、戊寅、天晴、酉剋許頭中將顯實朝臣於御使來云、○中略キ

ウレウノ宣旨下也、行家入道子有業也、余めのトコナリ、

廿九日、己卯、天陰、雪一寸許積、午剋許風、頭辨未剋來、給祈事恐申之由可申之

由、示頭辨了、

〔中右記〕十二月廿八日、○中略

秀才給祈宣旨被下、秀才令明、給祈藤有業、行家入道子、

前對馬守源義親ヲ隱岐ニ流シ、與黨前肥後守高階基實ヲ除名シ、贖銅ヲ

課ス、

〔殿曆〕十二月廿七日、丁丑、天晴、○中略今夜對馬守義親罪名定也、法家不參、仍

延引、子剋許退出、

廿八日、戊寅、天晴、酉剋許頭中將顯實朝臣於御使來云、今夜義親なかはる、隱

岐國也、

康和四年十二月二十八日

六八九

法家不參ヲ依リ定メ延引ス

〔中右記〕十二月十八日、已剋參院御前、奏昨日事、御返事云、中又院作、義親

事于今無沙汰條如何、可取御氣色者、未剋歸洛、

廿七日、中次有陣定、藤大納言奉行、公卿濟々、是前對馬守源義親緣坐者前

肥後守基實可會赦哉否條、被問法家勘文等事、群議不可會赦者、以詞付頭中

將被奏、重仰云、伴基實明法博士二人勘申之旨、或不隨詔命、或違勅者、兩方之

間、付何勘文可被行哉、又可定申者、群議云、不隨詔命之罪、頗難通者、聞食了後、

令退出、

廿八日、中

今夕被行事、前對馬守源義親流罪、隱岐國、從類二人流罪、周防阿波者、又同

類前肥後守高階基實除名贖銅、上卿帥中納言、仲

〔百練抄〕五堀河天皇 十二月廿八日、配流前對馬守義親於隱岐國、依大宰府

訴也、

〔古事談〕四勇士 前對馬守義親、康和五年十二月廿八日、依宮崎宮訴、配流隱

岐國、而不赴配所、經廻出雲國、

○義親等ノ罪名ヲ議スルコト、十月十日ノ條ニ、義親ヲ追討セシムル

法皇義親ノ處置ヲ急ガシメ給フ
基實ノ赦否ヲ勘申セシム

詔命ニ從ハザルノ罪ヲ難シ

義親ノ從類ヲ配流ス

義親配所ニ赴カズ

コト、嘉承二年十二月十九日ノ條ニ見ユ、

二十九日、己卯京都大風、日華門傾ク、

〔殿曆〕十二月廿九日、己卯、天陰、雪一寸許積、午剋許風、中申剋許頭辨來云、

晝風、日華（ハルカ）たれたり、雖然宜陽殿の南ツマニセハリテ、たふ（ハルカ）ハテ、依方角

惡不能直之由示也、

〔中右記〕十二月廿九日、中大風欲吹倒日華門、頗東傾、早直立云々、可取ル

〔長秋記〕日錄 康和四年曆記 十二月廿九日、日花門爲風破、不日令直事、

法皇、美作守藤原顯季ノ高松第ヨリ、鳥羽殿ニ還御アラセラル、

〔中右記〕十二月廿九日、中此曉上皇有御幸鳥羽云々、元三之間、依可御鳥

羽也、

○法皇、高松第ニ渡御ノコト、本月二十一日ノ條ニ、同殿ニ御方違御幸

ノコト、五年正月三日ノ條ニ見ユ、

三十日、庚辰追儼、請印政、

〔中右記〕十二月卅日、白雪高積、寒氣殊甚、欠追儼上卿源中納言、參議、家政

件家政勤結政請印、是武藏守成實任中公文濟之間、官符請印者、

方角惡シキニ依リ修理スル能ハズ
東ニ傾ク

今年任中公文、只武藏守成實許云々、已國八ヶ年、可謂殊功歟、

〔長秋記〕

目録 康和四年秋冬別記

十二月十七日、

○中追難大略儀

是月、東大寺別當永觀ヲ罷ム、

〔中右記〕

十二月廿六日、

○中依召參御前、仰云、明旦可參院、可申事、

○奉了退出、子剋許歸家、

○廿七日、早旦著直衣參院、高松申、昨日仰等事、御返事、

辭書ヲ返シ給フベシ

○廿七日、早旦著直衣參院、高松申、昨日仰等事、御返事、

○内、申件御返事、

〔東大寺別當次第〕

前律師永觀寺禪林、○上茜部猪名兩庄永施入學生供、又

増法花會布施、人別長一疋、寺務二年、二、康和四年辭退、不補別當二年、四、所司執行、

○中永觀ヲ東大寺別當ニ補スルコト、二年五月二十一日ノ條ニ、東大、興

福兩寺ノ衆徒鬪爭スルコト、本年九月三日ノ條ニ、東大寺衆徒、同寺八

幡神輿ヲ奉ジテ入京スルコト、同年九月二十八日ノ條ニ、勝覺ヲ東大

寺別當ニ補スルコト、長治元年五月二十九日ノ條ニ、見ユ、

永觀修造ス

是歲、東大寺食堂、登廊、廻廊等ヲ修理ス、

〔東大寺別當次第〕

前律師永觀寺禪林、（康和）四年食堂登廊如新修理、又修造廻廊、

樂門、施入幡舞裝束等、

〔正倉院文書〕

東南院文書 第二櫃四卷

注進

康和四年十一月十九日以後工日中食

能米十三石六斗二升 濟物卅四石七斗五合 代三百冊餘尺

同五年 能米卅八石一斗九升 官米五十八石八斗三升四合

濟物八石七斗五升 代八十七尺餘

長治元年五月以前

能米二石四斗二合

已上三箇年工食新能米五十四石二斗一升三合

官米五十八石八斗三升四合

菅同四年

修理用途ノ注進 工日中食

葺料

康和四年是歲

能米一石四合

同五年

能米廿六石二升一合 官米十六石三斗六升五合

濟物五石二斗七升五合 代五十三尺

長治元年

能米一石八斗四升

已上三个年能米廿八石八斗六升五合

官米十六石三斗六升五合

濟物五石二斗七升

役師同四年能米一石

同五年三石

長治元年二斗

已上八十四人間食料

車借同四年二斗

同五年八斗三升

役師間食料

車借料

車力料

長治元年一斗七升

已上百廿人

車力同四年 九月以後、九十九兩

同五年今年之間三百十四兩

已上四百十三兩 ○下文

○上文 登廊東室 ○東樂門、西津門、南大門前橋、國分大垣、○御蒼、八幡宮

八个所修理所用才木并米等事

才木大小四百七十九支、丸垂木六百廿支

工食能米五十四石二斗二升一合

官米五十八石八斗三升四合

濟物四十二石八斗二升

曹工食

能米廿八石八斗六升五合

米十六石三斗六升五合

康和四年是歲

康和四年是歲

六九六

濟物五石二斗七升八正合
備都合工并賣食能米八十七石六斗〇下文

注進所々御修理大少材木目錄事

修理ノ堂

登廊

工登廊東室馬道、西學門、東學門、南大門前橋、上司南北御藏、國分南面大垣

六登廊

東妻左右外面長桿三支 尺三寸長三丈三尺

西妻破風二枚 弘二尺二寸、原七寸、長二丈八尺

菅殘二間菅已了、但西妻

榑三百寸之但二百五十登廊、五十寸東學門、仍後注之

歩板二百卅枚、但以前修理色目不注、仍後注之

已上五百卅五支

釘日記

釘日記

南大門

八寸釘一連五隻

鏝七十四隻 先日注文殘

延鐵卅五、長一尺五寸、弘一寸五分

長桿釘卅四隻、長一尺

一東室馬道 但以前修理色目不注、仍後注進

土居五支キ、シ三支、長一丈五尺、皆方尺

切立粉七八寸一支、長二丈

已上六支

一西學門

南妻破風二枚シ、シ一枚、長二丈、各弘二尺二寸、原七寸

已上二支

八寸七寸一連

嗟金二隻、長三尺六寸、弘一寸五分

鏝二隻

一東學門

康和四年是歲

六九七

西樂門

東室馬道

東樂門

康和四年是歲

丸行桁四支、尺三寸、長二丈八尺、

船朮木三支、長一丈、尺三寸、

棟二支、（キ）一支、方尺三寸、長二丈八尺、（セ）一支、方尺三寸、長二丈八尺、

垂木二支、七八寸、長二丈八尺、

續垂木十支、七八寸、長二丈二尺、

比延卅五支、七八寸、長一丈、

木負萱負七支、方尺、長二丈二尺、

破風四枚、（シ）二枚、長二丈、五尺、各弘二尺二寸、原七寸、

已上六十七支

釘日記

八寸釘廿三連

七寸十五連

鎚十八隻

嗟金三隻、長三尺五寸、弘一寸五分、

一南大門橋

南大門橋

上司藏

南藏

橋桁方尺三支

步板十枚

已上十三支

四寸、五寸、三寸、合七連

一上司御藏

南御藏

垂木六支、五六寸、長二丈一尺、

木負一支、七六寸、長二丈一尺、

切立新七六寸一支、

已上八支

釘日記

八寸釘三連

七寸釘四連

鎚二隻

北御藏

康和四年是歲

北藏

康和四年是歲

垂木五支、五六寸、長二丈一尺、
木負二支、七六寸、長二丈一尺、
切立斫七六寸一支、

八寸釘八連

七寸釘六連

鏝三隻

國分門

一國分御門南面大垣廿一本半

梁卅二支、方尺長九尺、斫方尺廿一支、長二丈二尺、

桁卅三支、八九寸、尺九寸、長二丈二尺、

棟廿二支、七六寸、長二丈二尺、

東柱斫五支、八九寸、長二丈二尺、但卯立斫、

垂木八百六十支（中）高垂木二百五十支、四三寸、長九尺、

萱負七十支、四五寸、長一丈六尺、

藥垣寄柱十支、七六寸、長一丈餘、

步板卅五枚、但棧斫破板也、

釘日記

五寸、六寸、六十五連

鏝五十隻

八幡宮

一八幡宮

庇長桿三支、方尺、二丈二尺、

柱貫、柱寄斫四五寸、五支、長一丈六尺、

入長桿一支、八九寸、長一丈一尺、

敷居步板二枚

外廻修理并備殿斫十枚

已上廿一支

六寸釘一連

三寸四寸三連

都合材木仔漆佰肆拾柒支

康和四年是歲

康和四年是歲

八寸釘參拾陸連五隻

七寸釘貳拾伍連

六寸五寸柒拾連

三寸四寸拾連

一尺釘卅四隻

鎡佰肆拾玖隻

延鐵卅五隻、長一尺五寸、弘一寸五分、又二寸、

嗟金五隻、長三尺六寸、弘一寸五分、

右修理目錄注進如件、

長治元年七月廿日

(自下阿)
僧信觀

御用木屋
殘大小材
木色目注
進

注進 御寺御用木屋殘大小材木色目事

合

圖六十四枚

比會卅支

步板卅二枚

高蘭平桁一支、長一丈一尺、

舟一俵

釘櫃一合

御臺下桁并足等

破風六枚中之

二枚、長二丈一尺、弘二尺二寸、原七寸、

一枚、長一丈七尺、同前、

一枚、長一丈五尺、弘同前、

二枚、長一丈二尺、弘同前、

方尺二支、長二丈二尺、

八九寸二支、長二丈二尺、

虹梁一支、長一丈八尺、

大斗新木一支、方二尺、長一丈三尺、

船舫木四支

康和四年是歲

康和四年是歲

借木三支中之

六方尺二支、尺九寸一支、二丈三尺

慈恩院得業、方尺一支、

大湯屋新木八支中之

方尺三支、長二丈二尺、八九寸二支、二丈二尺、

七六寸三支、長二丈二尺、

御寺用途八百冊支、但所々修理斫、

右注進如件、

長治元年七月廿日

〔僧信觀〕

大湯屋料

修理大材木實檢注進

登廊

合

長治元年八月五日、實檢進所々修理大少才木日記

登廊

東妻左右外面長押三支、尺三寸、長三丈三尺、

西妻破風二枚、弘二尺二寸、厚七寸、長二丈八尺、

東室馬道

膏殘二間膏了、

東室馬道

土居方尺五支、七八寸一支、

西樂門

西學門

破風二枚

東樂門

東學門

丸行四支、尺三寸、船舩三支、長一丈、

木、垂木二支、續垂木十支、

比延卅五支、木負、萱負七支、破風四枚、

南大門橋

南大門橋

橋桁方尺三支、步板十枚、

上御藏

南藏

垂木六支、木負一支、切立斫七六寸一支、

北藏

康和四年是歲

康和四年是歲

垂木五支、木負二支、切立新七六寸一支、

國分御門南面大垣廿一本半、

梁□□□□方尺廿一支、

桁卅三支、棟廿二支、

束柱料五支、垂木八百六十支、高垂木二百五十支、丸垂木六百廿支、

萱負七十支、藥垣寄柱十支、長一丈餘、

八幡宮

庇長押三支、方尺、柱貫、柱寄新、四五寸、五支、

入長押一支、八九寸、長一丈一尺、敷居踏板二枚、

外廻修理并備殿新踏板十枚也、

右所實檢進如件、

長治元年八月五日

釘注進

注進 釘等事

合

大鎚貳枚
一尺六寸釘壹隻
八寸釘壹隻

右注進如件、

長治元年八月十八日

〔僧信觀〕

○東大寺大佛殿廻廊等ヲ修理スルコト、永久四年是歲ノ條ニ見ユ、以下ノ文書ハ、本條ニ關係アルニ似タルヲ以テ、姑ク左ニ收ム、

〔東大寺文書〕

○第四回 探訪 八十二

〔別筆下同〕可下送法師丸美作米十石、鹽二石八斗

〔花押〕

請申米事

合拾伍石陸斗

右車五十二兩（備下同）賃料所請申如件、

長治元年五月廿九日

御坂〔安成〕花押○本文書朱線ヲ以テ抹消セリ、下同ヲ以

車五十二
兩ノ賃料

康和四年是歲

康和四年是歲

泉水車力
三輛料

米玖斗、泉水車力三兩、

長治元年六月廿日

判

政所

三綱

〔可下美作鹽四斗伍升〕〔花押〕

七〇八

同間食料

米參升、泉水車借三人間食、

長治元年六月廿日

判

政所

三綱

〔可下美作下司〕〔花押〕

〔東大寺古文書〕

○八 東京帝國大學圖書部藏 第貳卷

〔可下讚岐麥鹽〕

泉水津車
借車力料

麥肆石壹斗陸升、鹽壹石捌斗貳升、泉水津車借廿六人之車力、〔朱書〕七石八斗 但人別各

長治元年八月十一日

政所

三綱

○本文書朱線ヲ以
テ抹消セリ、下同ジ、

〔可下讚岐麥〕

米玖石、泉水津車參拾兩之車力之、高常等請、

長治元年九月十六日

政所

三綱

〔可下讚岐麥〕

米壹斛陸斗玖升、瓦工壹旬五箇日大食、

長治元年八月六日

政所

三綱

康和四年是歲

七〇九

瓦工食料